

# 地域交流センター年報

令和 2 年度

VOL.23



三重県立看護大学  
地域交流センター



## 巻頭言

日頃より、三重県立看護大学地域交流センターの活動にご理解、ご支援賜り、厚く御礼申し上げます。地域交流センター年報令和2年度第23号の発行にあたりましてご挨拶申し上げます。

平成29年度に開講しました認定看護師教育課程「認知症看護」も、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、試行錯誤の連続ではありましたが、第4期生の修了をもって4年間の教育課程の幕を閉じることとなりました。関係諸機関、関係者の皆様のご尽力・ご支援のお蔭をもちまして、継続的に認知症看護認定看護師を輩出することができ、認知症看護の質向上、認知症への対応力向上、認知症への理解の拡大という地域課題解決に向け、一定の成果を得られましたことに、深く感謝申し上げます。

今年度の地域交流センター事業は、4月に全国に発令されました緊急事態宣言を受け、早々に不特定多数の参加者を募る「公開講座」を中止せざるを得ない状況となりました。その後、大学のリモート環境が整うなか、会場内の3密を避けるため対面での受講とオンラインでの受講を併用する方法をとり、関係者の皆様のご協力を得て、1月に試行的に公開講座を開催することができました。今後も開催方法・内容、受講形態等を工夫し、県民の皆様のニーズに応えてまいりたいと思います。

今年度より、講師派遣を「みかん大出前講座」、「みかん大リクエスト講座」と改称し、県民の皆様のニーズに応えるべく準備を進めましたが、新型コロナウイルス感染拡大を受け、応募後の中止も相次ぎました。年度の後半にはリモートでの講座も数件開催することができましたが、環境設定の難しさもあり、さらなる検討を要すところです。また、看護研究支援のなかでも、「看護研究 SEED（旧看護研究の基本ステップ）」、「ハウツー看護研究」など、本学に参集いただく講座についても、今年度は各医療施設の状況などを考慮し、受講を躊躇する看護職者も存在しました。こうした状況をふまえ、年度の後半には、県受託事業の助産師研修などにおいて、対面またはオンラインでの受講を選択できるよう配慮することにより、一定数の受講者確保につながりました。

令和3年度は第3期中期目標期間の初年度となります。第2期中期目標期間の評価結果を踏まえつつ、地域社会との連携・協働を深め、地域貢献活動の一層の充実を図ってまいりたいと存じます。

令和3年3月

地域交流センター長  
永見桂子





# 目 次

## ・巻頭言

## I. 教員提案事業

1. みえ保健・看護力向上支援事業
  - 1) 看護に役立つものづくりシーズ発掘…………… 1
  - 2) ケアする人のためのセルフケアのつどい…………… 2
  - 3) 卒後1年目を対象としたフィジカルアセスメント研修会…………… 4
  - 4) 実践につながるフィジカルアセスメント…………… 5
  - 5) 認知症看護認定看護師（DCN）セミナー…………… 6
  - 6) Brush up！急性期看護…………… 8
  - 7) 新任保健師の災害時における公衆衛生看護活動支援事業…………… 10
  - 8) 看護職者を支援する相談窓口事業…………… 12
2. 他機関との連携による県民の健康増進事業
  - 1) 地域の健康づくり支援事業…………… 15
  - 2) 在宅で障がいのある子どもを養育する家族のピア・サポート事業…………… 16
  - 3) みかん大認知症カフェ…………… 19
  - 4) 子ども達に「自分のからだ」を伝える事業…………… 23
  - 5) 医療施設に広げよう看工連携による特許の輪！…………… 25
3. 地域住民とのふれあい推進事業
  - 1) いきいき体操と美肌作り…………… 27
  - 2) よりみちカフェ…………… 29
  - 3) 災害時に母子の命を守る工夫を考えよう…………… 31
  - 4) 対話による探Qカフェ…………… 33
  - 5) 児童英語（キッズ英会話）…………… 35
  - 6) 英米文学の読書会（文学作品を読んで語ろう）…………… 36
  - 7) 災害に備えよう…………… 37
  - 8) みかん大「暮らしの保健室」…………… 39
  - 9) Re-mamma Café（リマンマ カフェ）…………… 42

## II. 卒業生支援事業

1. 卒業生のきずなプロジェクト…………… 45
2. 卒業生支援プロジェクト…………… 48

### Ⅲ. 受託事業

1. 三重県新人助産師合同研修	51
2. 助産師（中堅者）研修	55
3. 三重県認知症対応力向上研修	59
4. 母子保健体制構築アドバイザー事業	62

### Ⅳ. 認定看護師教育課程「認知症看護」

1. 認定看護師養成	65
2. 認定看護師フォローアップ研修	67

### Ⅴ. 地域交流センター企画事業

1. 講師派遣	
1) みかん大出前講座	69
2) みかん大リクエスト講座	74
2. 看護研究支援	
1) 看護研究SEED	77
2) 看護研究エッセンス	83
3) ハウツー看護研究	87
4) その他の看護研究支援	92
3. 公開講座	97
4. 電話相談事業	101

### Ⅵ. 連携

1. 連協定病院	103
2. 看護管理者意見交換会	104
3. 人事交流教員支援	108

### Ⅶ. その他

1. 情報発信・広報活動	109
2. 各種講座案内と申込書	113

### ・編集後記

## I . 教員提案事業

### 1 . みえ保健・看護力向上支援事業



# 1) 看護に役立つものづくりシーズ発掘

担当者：斎藤真、大西範和、大川明子、大平肇子、犬飼さゆり、長谷川智之、市川陽子、岡根利津、田端真、竹村和誠

## 【事業要旨】

本事業は、今後需要拡大が予測される看護ケア用品の開発およびその知的財産の取得を目的に本学教員のアイデアを発掘、試作品の製作や有用性の検証を行うものである。本学は平成 27 年度から（独）工業所有権情報・研修館の産学連携知的財産アドバイザー派遣事業に採択され、平成 30 年度からは新たな事業制度の下、知的財産の積極的な創出を展開してきた。本事業では令和元年度に引き続き、教員や大学院生らによる「看工連携ブレインストーミング」を定期的で開催、さらに県内企業と共同で看護ケア用品の開発を行った。

本年は教員提案事業として、また産学連携知的財産アドバイザー派遣事業としても最終年となる。

## 【地域貢献のポイント】

本事業は、本学の教員や大学院生の持つ知的財産のシーズ発掘や試作品から製品開発、販売に至るまでの地元企業との産学連携をすることも目的としている。したがって、知的財産のシーズ発掘は地方創生の観点からも有用性の高い地域貢献事業である。さらに今年度は県内の企業と共同で看護ケア用品の開発プロジェクトを展開する。

## I. 活動計画

1. 看工連携ブレインストーミングを月 1 回開催し、シーズの発掘を行う。
2. 県内企業と共同で乳児用手術後療養用衣類の開発を行う。

## II. 活動の結果と評価

活動は「看工連携ブレインストーミング」を月 1 回開催した。新型コロナウイルスの感染拡大のため、8/26、9/9、10/21、11/11、12/16、2/7、3/17 の 7 回の開催となった。

県内企業（ソフトママ有限会社）との共同開発事業は、本事業のメンバーに小児看護学、母性看護学の教員も加えて 6/22、7/13、8/7、1/25 の 4 回の開発会議を行った。開発された試作品「子どもと看護職者にやさしい手術後療養用衣類」を第 15 回みえ福祉用具アイデアコンクール 2020 に応募し、優秀賞を受賞した（応募総数 247 件）。

さらに本事業は大学院生の参加も積極的に認めており、地域貢献事業の推進に関して共有することができた。

本学教員の所有する様々なニーズ、シーズを発掘し、さらに特許出願や県内企業とのコラボレーションができたことは有益な事業であったと評価する。

## III. 今後の課題

知的財産となり得る案件は具体化させるとともに県内企業との積極的な交流を進める。

## 2) ケアする人のためのセルフケアのつどい

担当者： 鈴木聡美、西川真野、杉原あゆみ

### 【事業要旨】

本事業は、医療従事者や介護従事者、家族介護者などのケア提供者を対象とし、ケアにまつわる思いを職種や立場の壁をこえて語り合ったり、ハーブを使ったリップクリーム等を作成するワークショップの開催を通して、ケア提供者が自分自身をケアできるような場をつくることを目的として実施する。

### 【地域貢献のポイント】

病院や施設等の職場内では、ケアの方法や評価について話し合う機会は多くあるが、ケア提供者自身の主観的な思いを表現するような場はあまりない。また、家族介護者においては、日々家庭内で介護に従事しており、同じようなケア提供者という立場にある人と、ケアについて普段感じていることなどを共有するような場は少ないと考えられる。本事業では、ケア提供者が職種や立場をこえてケアにまつわる思いを語り合うことで自分自身をケアし、そのことによりケア提供への活力を得ることに貢献できると考える。

### 【昨年度からの課題】

昨年度は当事者とケア提供者がともに参加出来るワークショップも実施したが、本事業の目的を達成するためには、ケア提供者のみでゆっくりと語り合える場も提供できるような開催方法の検討が必要である。

## I. 活動計画

＜数値目標＞開催回数：1回以上、参加者人数：10名以上または

＜実施計画＞過去2年、認知症カフェや地域の医療福祉関係のイベントと協同で実施したことが好評であった経緯から、本年度も同様のスタイルでワークショップを開催する。本事業ではケアに関係している人であれば誰でも参加可能とし、ケア提供者のセルフケアにつながるワークショップを実施する。ワークショップは、①毎日の生活に取り入れられるいやしのアイテムとしてハーブを使ったリップクリーム等を作成する、②ケアにまつわる思いや悩みを語り合う、という二つの内容を含むものとし、1回につき2時間程度とする。

## II. 活動の結果と評価

＜結果＞

本事業は3年間の継続事業として平成30年度から開始した。平成30年度は、平成31年1月27日にA市で開催された福祉系事業においてワークショップを開催した。このワークショップへは38名の参加があり、参加者は看護師やケースワーカー、介護職員、保健師、障がい者等へのボランティア、NPOの職員等、何らかの形で日常的にケアを実践している人たちであった。

令和元年度は2回、ワークショップを実施した。1回目は令和元年6月30日（日）

に B 病院において開催された認知症カフェで、リップクリームやハンドクリームを制作するブースを開設した。参加者は高齢者を介護している家族や A 病院のスタッフを想定していたが、ケア提供者だけでなく、A 病院に入院している高齢者の参加もあった。約 2 時間の開催時間中、5～6 人ずつでリップクリームやハンドクリームを作成し、入れ替わりながら合計 30 名程度の方の参加があった。2 回目は令和元年 11 月 3 日（日）に C 病院において開催された認知症カフェで、ワークショップのブースを開設した。1 回目と同様に、ケア提供者だけでなく病院の入院患者の参加もあり、2 時間半の開催時間中に約 30 名の方の参加があった。

以上の実績をうけ、令和 2 年度も病院で実施される認知症カフェ等でのワークショップの開催を計画していたが、病院でのイベント自体が開催されなかったことや、本事業が新型コロナウイルス感染症の重症化リスクが高い方に関わるケア提供者を対象としていることから、対象者への感染リスクを考慮して開催を中止することにした。

#### ＜評価＞

上述のように、本年度はワークショップの開催自体ができず、数値目標は達成できなかった。しかし、平成 30 年度、令和元年度に開催した際には、参加者からは「香りが良くて癒される」「こうやって夢中になって物を作るのって楽しい」等の感想があり、ワークショップの効果を体感していた様子であったことから、事業の役割ははたすことができたと考えている。

### Ⅲ．今後の課題

医療従事者などのケア提供者にとって、新型コロナウイルス感染症への対応は多大なストレスを与えるものになっていることが推測され、このような時期だからこそケア提供者自身へのケアはより必要性が増すといえる。当事業は本年度が最終年度であるが、コロナ禍という状況においてもケア提供者が自身のセルフケアができるような場づくりの方法を検討したい。

### 3) 卒後 1 年目を対象としたフィジカルアセスメント研修会

担当者：菅原啓太、鈴木聡美、西川真野、石倉麻衣子、杉原あゆみ、坪谷直樹

#### 【事業要旨】

卒後 1 年目の看護師を対象として、フィジカルアセスメントの観察力と技術力を高めるため、研修会を年 1 回実施する。また、受講者が、研修後もフィジカルアセスメントの学習を効果的に行うことができるように、シミュレーションモデルの基本的な使用方法を学ぶ機会を作る。

#### 【地域貢献のポイント】

新人看護師は、フィジカルアセスメントの実践経験が少なく、患者の身体的状態を的確に把握するのが困難であることが多い。今年度実施する研修会を通して、患者の身体的状態把握の基本となる、呼吸器を中心としたフィジカルアセスメントの知識や技術力、判断力を高めることが期待できる。フィジカルアセスメントの能力の向上は、質の高い看護実践を行うことにつながる。また、シミュレーションモデルを活用した学習方法について、受講生が体験することで、受講後に本学の教材を活用した現任教育を行ってもらえるきっかけとすることができる。

#### I. 活動計画

年 1 回、受講生 6 名による研修会の開催を目標とした。

#### II. 活動の結果と評価

担当者間で打ち合わせを行い、開催日時を決定すると共に、事業周知用のポスターを作成した。ポスターは、連携協定病院へ送付し、1 年目の看護師への周知を依頼すると共に、本学 HP でも事業内容を掲示し、広く参加者を募集した。1 名の看護師から応募があったものの、本事業はグループワークが中心であり 1 名では学習が難しいこと、また新型コロナウイルス感染症が拡大している状況下において、受講生および本事業担当者双方が感染リスクが伴うことを考慮し、本年度は事業を中止としたため、目標は達成できなかった。

#### III. 今後の課題

昨年度の課題をうけ、本年度は臨床現場で活用できるよう、タスクトレーニングやシミュレーショントレーニングの時間を増やし、情報収集能力やアセスメント能力が高められる内容とする予定であった。その際、参加者の身体を用いて演習を実施するため、患者役と看護師役の密接は避けられない。その点を配慮し、感染防止に留意した事業運営が今後必要となる。



## 4) 実践につながるフィジカルアセスメント

担当者：岡根利津、杉原あゆみ

### 【事業要旨】

コメディカルを対象として、実践につながるフィジカルアセスメント能力を身につけることを目標とし研修を開催する。チーム医療をおこなう上で必要となる基礎的なフィジカルアセスメントに関する知識や技術について、認定看護師および呼吸療法士の資格を有する多職種の講師が複数で担当し、講義やグループワーク、演習などを取り入れながら、チームアプローチの視点をふまえた学びにつなげる。

### 【地域貢献のポイント】

多くの施設においてフィジカルアセスメント教育は行われているが、三重県では認定看護師や呼吸療法士等の有資格者は偏在しており、教育の機会や内容等は様々な現状である。加えて、フィジカルアセスメントに関する研修が県内で開催される機会は少なく、施設外で学習できる機会も少ない。本研修の開催により、近郊で学習できる機会がもたらされ、さらに多職種の有資格者が講師を担うことで他職種のアセスメントの視点も学ぶことができる。本研修により、個人のアセスメント能力の向上および多職種間の共通認識が促進され、チーム医療の質の向上につながると考える。

### 【昨年度からの課題】

対象のニーズに応じた研修内容や研修方法を検討すること、および職種の専門性や経験年数を考慮した研修内容を検討することが課題であった。

## I. 活動計画

＜数値目標＞参加人数：50人以上

＜実施計画＞昨年度実施したアンケート結果を基に、ニーズの高かった急性期の呼吸管理に関する研修内容を検討し、早期離床をサブテーマとして研修を企画した。

- 日時：令和2年11月28日（土）13：00～16：30 大講義室
- プログラム：1、早期離床とはどんなこと?! 2、早期離床のためのフィジカルアセスメントとリスク管理 3、実践！早期離床 4、ワークショップ  
プーアセスメントからプランニングまでー

## II. 活動の結果と評価

研修会を企画し、参加募集を行い14名より申し込みがあったが、県内のCOVID-19の感染拡大により、研修会の開催9日前に中止を決定した。

## III. 今後の課題

今後はオンラインでの研修開催も含めて実施方法を検討し、事業の継続を目指す。

## 5) 認知症看護認定看護師セミナー

担当者：六角 僚子、篠原 真咲、星野 郁子、平生 祐一郎

### 【事業要旨】

1. 認知症者に特化した看護を学ぶ
2. 高齢者に対するアクティビティケア等の実践を通して、認定看護師としての認知症予防及び啓蒙活動に関わる企画力・実践力を身に付ける
3. 研究継続を実施する

### 【地域貢献のポイント】

認知症ケアを極め、認知症予防するために、認知症看護認定看護師（DCN と略）と教員、地域の方々と一緒に認知症ケアについて考えることを目的に企画したため、DCN により、地域の方々とふれあいを通して地域の方々の課題を見出せる。それが地域の保健医療福祉の向上につながると同時に、社会に貢献する熱意あふれた人材育成となるに関わる活動となる。さらに全国の DCN にセミナーの周知を行うことで、三重県立看護大学地域交流センターの知名度を拡大し、大学名の周知につながることが地域貢献となると考える。

### 【昨年度からの課題】

DCN がグループになり、文献検討に関する研究活動を行い、学会報告活動を行っているが、倫理審査会などを経験することが今後の課題と考える。またくらしの保健室やよりみちカフェなどの参加も応募し、社会交流の視点での看護も一緒に学んで生きたいと考える。

## I. 活動計画

＜重点課題＞全国の認知症認定看護師に広報し、参加者は20～25名程度を目標とし、研究成果を関連学会等での発表を行う。

### ＜実施計画＞

以下のようなスケジュールで実施した。

毎月約3時間半の時間を設け、認知症看護に関する講義を1時間半、その後の時間を研究推進とした。前年度までは各グループに分けて、興味のあるテーマを出し合い、文献検討による研究をまとめていたが、今年度は「災害時に対する認知症者のトリアージ」というテーマで、グループで研究活動を行うように計画をした。

## II. 活動の結果と評価

### ＜結果＞

#### 1. セミナー内容

「認知症者と災害について」というテーマで講義と研究活動を行った。各グループで避難所での認知症トリアージについて、資料や動画をもとにグループワークでトリアージの基準を考えた。目的は「認知症の人のリロケーションダメージを最小限にして認知症の人や家族が安心して過ごせる環境を整える必要があるため、避難して3日以内に専門家に繋がられ、避難所で支援にあたる職員が誰でも活用できるツールが必要となる」とし、現在は

2 グループで検討を行い、各自の医療機関での倫理審査申請を終えている。来年度の日本老年看護学会で報告予定である。

## 2. 参加者

多くは東海地方の医療機関に勤務する認知症看護認定看護師であり、毎回 10 名程度の参加であったが、8 月よりオンラインセミナーを開催してからは、15～20 名と参加者が増加した。

### <評価>

20～25 名の参加を見込んでいたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、病院からの参加に規制がかかり、数値目標は達成できなかった。8 月よりオンラインセミナーとしたが、ネット環境やオンラインに慣れていない看護師も少なくなく、参加希望はしていたものの結局参加できずに終えた者もいた。今後の課題としたい。少ない参加者であっても、「認知症者と災害について」の研究活動を進められ、避難所で活用できるパンフレット作成とその活用度までの結果は得られたことは、参加者の満足度につながると考えられる。課題にもあった DCN が倫理審査を経験するという事も数名は経験できた。

## Ⅲ. 今後の課題

1. 新型コロナウイルス感染症対策としてのセミナーのあり方を考えること。
2. 研究活動を参加者全員に体験できるようにしていくこと。

<p style="text-align: center;"><b>令和2年度六角塾 ♡ 始まります。</b></p> <p style="text-align: right;"><b>三重県立看護大学</b> お問い合わせ先: 六角 僚子 ryoko.rokkaku@mcn.ac.jp</p> <p style="text-align: center;"><b>認知症看護認定看護師セミナー</b></p> <p style="text-align: center;">※開催場所: 三重県立看護大学実習棟実習室1</p> <p>1. 認知症者に特化した看護を学ぶ 2. 高齢者に対するアクティビティ等実践を通して、認定看護師としての認知症予防及び啓蒙活動に関わる企画力実践力を身に付ける。 3. 研究継続を実施する</p>		
<b>年間活動日程予定</b>		
月日と時間	テーマ	セミナー内容
6月30日(火) 13:30~17:00	第1回六角塾スタート	DCNセミナー初回 本年度のDCNセミナーについてオリエンテーション 1. 認知症者と災害について(六角先生座学) (グループワークを含む)
7月21日(火) 13:30~17:00	第2回六角塾	1. 災害時における認知症者の倫理的問題 グループワーク・ディスカッション 2. 看護研究について(今後の取組について)
8月25日(火) 13:30~17:00	第3回六角塾	1. 災害時における認知症者のトリアージ(1) 六角先生による座学とグループワーク 2. 看護研究(グループワーク)
9月17日(木) 13:30~17:00	第4回六角塾	1. 災害時における認知症者のトリアージ(2) グループワーク・ディスカッション
10月19日(月) 13:30~17:00	第5回六角塾	1. 看護研究 2. よいみちカフェ企画・ディスカッション
11月2日(月) 13:30~17:00	第6回六角塾	1. よいみちカフェ運営について学ぶ1 2. 看護研究
12月21日(月) 13:30~17:00	第7回六角塾	1. アクティビティケアについて(座学) 2. アクティビティケアの実践(かるたを作ろう) 3. 看護研究
1月26日(火) 13:30~17:00	第8回六角塾	1. 事例検討会(困難事例を持ち寄る) 事例についてグループワーク
2月16日(火) 13:00~17:00	第9回六角塾	1. よいみちカフェ運営について学ぶ 2 2. 事例検討内容についてディスカッション 3. 看護研究(予演会 1)
3月9日(火) 13:30~17:00	第10回六角塾	1. よいみちカフェ運営について学ぶ 3 2. 看護研究(予演会 2) 2. 来年度のセミナー計画
備考	DCNセミナーは認定審査に関するポイントが付加されます。	なお、開催日の10:30より「暮らしの保健室」を開催しております。興味のある方はお越しください。  よいみちカフェの日程ご案内 13:30~15:00 7/7, 8/4, 9/8, 10/5, 12/7, 1/5

## 6) Brush up! 急性期看護

担当者：岡根利津

### 【事業要旨】

県内の認定看護師（集中ケア・救急看護）が協働し、急性期看護に関する知識やアセスメント力のブラッシュアップを目的とした研修会を開催する。県内における看護師の継続学習を支援し、三重県の急性期看護の質の向上を目指す。

### 【地域貢献のポイント】

三重県において、クリティカルケア領域に関する認定看護師や専門看護師などの熟練看護師は少なく、限られた施設に所属している状況である。本研修では、県内の熟練看護師が講師を務め、臨床の状況を考慮した研修を開催することで、標準的な知識を共有することができ、施設ごとの教育格差の解消、急性期看護の質の向上につながると考える。

### I. 活動計画

＜数値目標＞ 初年度のため、提携病院を主として参加募集を行い、30名の参加を目標として広報活動を行う。

＜実施計画＞ 今年度は、中堅看護師のアセスメント力の向上を目指し、臨床推論に関する研修を企画した。臨床推論に関する基本的知識を理解すること、日常行っているアセスメントを整理すること、アセスメントを言語化すること、自身の課題を明らかにすることを目標とした。

- 日時：令和2年11月14日（土） 13：00～16：00 多目的講義室
- 研修対象者：1年目や部署異動者など、経験の浅い看護師の指導および教育に携わる方、中堅看護師
- テーマ：臨床推論～アセスメント力を磨こう～ 「急変予測」
- プログラム：事例を用いて臨床推論の思考過程について考える
  - 1、臨床推論とは？ Case①：汗が出る から一緒に考えてみよう
  - 2、Case②：ぼんやりしている
  - 3、Case③：胸が痛い
  - 4、Case④：息が苦しい



研修の様子

## Ⅱ．活動の結果と評価

### 1．参加者：8名

（3年未満：2名、3～5年目：3名、6～10年目：1名、20年以上：1名）

数値目標の達成には至らなかった。要因として、COVID-19の感染拡大に伴う影響、および参加者の「臨床推論」という用語の認識が著明に低かったことから、テーマから具体的な研修内容がイメージしづらかったことが考えられる。

### 2．広報活動について

本研修を受講したきっかけは、「研修案内を見た」「テーマに興味をもった」「自己研鑽のため」が25%と最も高く、次いで「友人の誘い」15%、「上司のすすめ」「講師を見て受けてみようと思った」5%であった。提携病院に送付した研修案内から研修に関する情報を得ており、参加者募集の方法として行った広報活動は妥当であったと考える。

### 3．アンケート結果（Microsoft Formsで実施、アンケート回答率100%）一部抜粋

- 研修の満足度：5段階評価にて、5：6名、4：2名　平均4.75であった。
- 研修の難易度：難しかった：0名、少し難しかった：4名、ちょうどよかった：4名、少し易しかった：0名、易しかった：0名
- 臨床推論の思考過程について理解できたか：理解できた：3名、まあまあ理解できた：5名、少しできた：0名、できなかった：0名
- 研修に関する意見・感想等
  - ・ ABCDEに基づく情報収集の仕方、アセスメントの言語化の重要性を学べた。
  - ・ 今後に活かせる充実した内容だった。
  - ・ 講師も交えてグループワークをしてみたかった。
  - ・ 個人での学習に限界を感じていたため、研修に参加できてよかった。
  - ・ 後輩に教える立場で聞ける人が少ないため、とても参考になった。
  - ・ 今回の研修を続けてもらいたい。

## Ⅲ．今後の課題

参加者は少なかったが、参加した受講者の満足度は高く、対象と研修内容の設定は妥当であったと考える。今後も、COVID-19の感染拡大の影響により県外において研修を受講できる機会は減少することが予測されるため、県内において研修を充実させていくことは必要であり、次年度以降も本事業を継続していく。

今回のアンケートでは、研修への要望も調査しているため、得られた意見や臨床現場における課題等を考慮し、対象に見合った研修内容を検討していくことが必要であると考えられる。また、本事業が急性期看護に関する継続教育につながる研修となるよう、長期的な視点を踏まえて研修内容を検討していくことも課題であると考えられる。

## 7) 新任期保健師の災害時における公衆衛生看護活動支援事業

担当者： 星野郁子、清水真由美、中北裕子、日比野直子、荻野妃那、山本翔太

### 【事業要旨】

新任期保健師に、災害時における住民支援方法について知識技術の提供を行うとともに、クロスロードゲームを通じて、公衆衛生看護の実践能力の向上を目指します。

### 【地域貢献のポイント】

1. 新任期の保健師に災害時の活動に関する知識技術を提供することで、公衆衛生看護活動の充実につながると考える。
2. グループワークを通じて、圏域を越えた保健師同士が交流することで、保健師ネットワークを促進することができると考える。

### I. 活動計画

#### <数値目標>

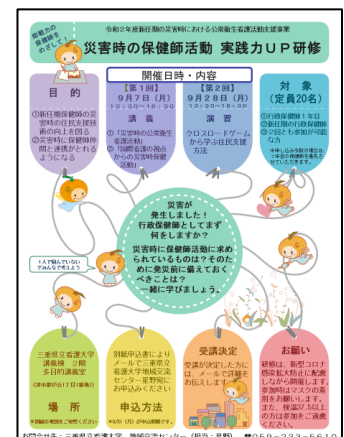
1. 新任期保健師（1年目及び2年目）を対象にした研修会（2回）
2. 研修会参加者数（20名程度）
3. アンケートによる研修評価（2回）

### II. 活動の結果と評価

#### <結果>

#### 1. 研修会の周知

行政の協力を得て県統括保健師経由で県保健師・市町保健師への研修案内及び啓発チラシの配布を行った。県保健師は、知事部局以外(教育委員会・県警本部)へ配属されている保健師にも周知された。



【啓発チラシ】

#### 2. 研修会の開催 \*会場はいずれも本学講義棟2階 多目的講義室

##### 1) 9月7日(月) 13時30分～16時30分 参加者：23名

オリエンテーション：参加保健師間の名刺交換会

講義：「災害時における公衆衛生看護活動」

講師：公衆衛生看護学 中北裕子

講義：「国際看護の視点からの災害時保健活動」

講師：公衆衛生看護学/国際看護学

清水真由美





2) 9月28日(月) 13時30分～16時30分 参加者：24名

災害時の備えについてプレゼンテーション 発表者：参加保健師

演習：「クロスロードゲーム」 講師：公衆衛生看護学/国際看護学 清水真由美  
グループワーク ファシリテーター：研修企画教員



#### <評価>

参加申込者数は25名と定員を超えたが、職場からの直接的な依頼もあり全員を受入れた。内訳は、経験年数では1年目15名、2年目7名、3年目3名、所属別には県7名、市町18名であった。数値目標は、いずれも達成することができた。

アンケート結果では、研修参加のきっかけ(複数回答)は自己研鑽14名(60.9%)、災害時の活動に興味がある8名(34.8%)、職場上司等から勧められた6名(26.1%)の順であった。災害発生への準備(複数回答)を1回目と2回目と比較すると、災害グッズをまとめている14名(60.9%)⇒20名(87.0%)、避難用食料の準備9名(39.1%)⇒17名(73.9%)、家族と災害対応を話し合う6名(26.1%)⇒17名(73.9%)、保健師の役割確認済6名(26.1%)⇒17名(73.9%)等、いずれの項目においても災害時の備えについて意識の向上が伺えた。また、災害に関する言葉26項目について①聞いたことがあるか、②説明できるかを設問したところ、自助・公助・共助などの言葉は90%以上が知っているに対し80%以上が説明できると回答されたものの、災害対策基本法を知っている22名(95.7%)に対し説明できる12名(52.2%)、災害救助法では19名(82.6%)に対して8名(34.8%)など、乖離している項目も多かった。聞いたことのある言葉が、専門職としての知識となるよう学びを深めることが必要であると感じた。

研修の感想は1回目と2回目共に、とてもよかった[17名(73.9%)⇒19名(82.6%)]と、よかった[6名(26.1%)⇒4名(17.4%)]を合わせて100%の回答であった。

### Ⅲ. 今後の課題

採用1年目及び2年目保健師を対象に研修の案内周知を行ったが、災害時の活動に関するニーズが高く、職場上司を通して依頼のあった3年目保健師にも対象を広げ研修を開催した。来年度も1年目保健師を中心に開催する予定であるが、希望者は可能な範囲で参加対象とすることが望ましい。そのためにも、再受講者も想定し演習等の内容を検討していく必要がある。

災害時における健康支援活動は、迅速・安全・的確に行うことが求められており、新任期保健師の時から求められる能力である。経験値の少なさを補うためにも、新任期保健師を対象とした研修の機会は重要であり、実践に結び付く研修を継続的に提供することが望ましい。

## 8) 看護職者を支援する相談窓口事業

担当者：中西貴美子、上田貴子、小池敦、小松美砂、永見桂子、長谷川明子

### 【事業要旨】

三重県内の病院看護部の管理部門を対象に、キャリア・看護管理、教育・進学等に関する相談に対応して、組織の課題解決を支援する。

### 【地域貢献のポイント】

施設の看護部が抱えている問題・課題について支援する場所が増えることによって、相談しやすくなり早期解決につながる。また、大学という第三者の立場からの支援は新たな視点での取り組みとなり、必要な組織の変革を促進することができる。以上のことによって三重県内の施設の看護の質の向上に寄与する。

## I. 活動計画

### ＜重点課題＞

相談窓口事業を県内の病院に広報し、実際に看護職の組織にどのようなニーズがあるかを把握する。

### ＜実施計画＞

1. 本事業内容についてのチラシを作成し、配布等の広報を行う。
2. 本学連携協力協定病院を中心に、看護部の組織のニーズについて調査する。

## II. 活動の結果と評価

### ＜結果＞

1. 図1に示すチラシを作成し、大学のホームページに掲載した。また、9月30日に行われた「県内病院等看護管理者意見交換会」に代表者が参加し、配布したチラシをもとに事業内容を説明した。

2. 前述の「県内病院等看護管理者意見交換会」において、参加施設に向けて調査を依頼した。依頼内容は、「現場で起きているお困りのこと、看護管理・人材育成・キャリア開発・ストレスマネジメント・進学についてなど看護管理の部門として施設外に相談したいと思うこと」とした。

### ＜評価＞

看護管理者意見交換会には、30施設がオンラインで参加。そのうち10施設より、回答があった。管理者の育成、新採用者の職場適応、2年目看護師に対する教育、看護師長・主任の選出基準、6年目以上の看護師に対する教育など、多種多様な意見が寄せられ、看護部組織の具体的な問題・課題を知ることができた。



### Ⅲ. 今後の課題

次年度は、今年度に行った調査結果をもとに、具体的な支援計画を企画し、内容を周知して支援希望者を募り、実際の相談事業を展開する。

三重県立看護大学  
みえ保健・看護力向上支援事業

## 看護職者を支援する相談窓口事業

看護管理部門のみなさまへ

看護管理・人材育成・キャリア開発  
ストレスマネジメント・進学 など

お困りのことはございませんか？  
施設外の相談の場としてご活用ください

- 電話またはメールでご連絡ください
- ご相談の内容をうかがい、専門の教員に引き継ぎます
- ご相談は無料です



### 相談担当者

中西貴美子・小池敦・小松美砂・永見桂子・上田貴子・長谷川明子

お問い合わせ先 **TEL** 059-233-5600 (代表電話) **MAIL** [kimiko.nakanishi@mcn.ac.jp](mailto:kimiko.nakanishi@mcn.ac.jp) (中西)  
[takako.ueda@mcn.ac.jp](mailto:takako.ueda@mcn.ac.jp) (上田)



## 2. 他機関との連携による県民の健康増進事業



# 1) 地域の健康づくり支援事業

担当者：上杉佑也・宮崎つた子・清水律子・田端真・竹村和誠

## 【事業要旨】

本事業は、地域住民の健康づくりに関する依頼があった市町・地域と協働して、地域生活のなかでの健康づくり、健康管理に関する活動をサポートする事業である。地域で開催するコミュニティづくりの活動の場、地域のイベント、地域住民の交流の場において、健康チェック及びその結果説明を通して、地域住民の健康意識の向上に寄与する。

## 【地域貢献のポイント】

本学教員の専門性と地域交流センター所有の機材を活用しながら、地域住民のニーズに対応するとともに健康意識の向上に寄与する。同時に、本学の地域貢献活動への広報的な効果が期待できる。

## 【昨年度からの課題】

「参加者の中には足が不自由な方も多く見えるため、安全面への配慮」「学生自身の学びや有意義な健康チェック実施のために、学生への広報活動」が課題であった。

### I. 活動計画（3年計画の3年目）

- ・ 地域・市町（行政）・団体からの連携希望：1件以上
- ・ 事業企画・運営・評価方法検討のための学内会議：3回以上
- ・ 連携団体との合同会議：2回以上
- ・ 健康チェック及び健康づくりに関する支援利用者数：延べ20人以上

### II. 活動の結果と評価

活動を継続している市町の保健師と今年度の実施について検討を行った。しかしながら、県内のCOVID-19の感染拡大により例年実施している地域住民のふれあいイベントが中止になったこと、本事業は参加者との濃厚接触が避けられない事業であることから、今年度予定していた事業展開を断念した。

### III. 今後の課題

昨年までの事業を実施した際のアンケート結果では、参加者の満足度も高く、「結果を意識して生活をしたい」といった肯定的な意見も聞かれるため、地域住民のニーズは高いと感じている。COVID-19の感染状況が落ちつき、安全に実施できるようになれば、昨年までの課題も踏まえて事業を再度展開していきたい。

## 2) 在宅で障がいのある子どもを養育する

### 家族のピア・サポート事業

担当者：上杉佑也・宮崎つた子・中北裕子

#### 【事業要旨】

医療的ケアが必要な子ども（以下、医療的ケア児）を在宅で養育している家族は、様々な困難を抱え心身ともに疲弊している現状にある。同様の体験を持つ家族との交流が、不安や孤立感解消の一助となるが、複数の家族同士が交流を行える場は少ない。本事業は、ピア・サポートの観点から、関係施設、関係専門職同士が連携して家族同士の交流の機会を支援する事業である。

#### 【地域貢献のポイント】

地域の医療機関・専門職との連携及び本学の専門性（研究成果の還元を含む）を活用しながら、家族同士の交流を求めるという養育者のニーズへ対応し、養育者の抱える困難感の軽減に寄与する。

#### 【昨年度からの課題】

- ・ 広報の方法について周知が不十分であり、訪問看護ステーションなどの利用者に周知できるように働きかけを行う
- ・ 家族会の際に医療的ケア児が過ごしやすい環境を整えることや医療的ケア児自身へのレクリエーションを取り入れる
- ・ 参加者が有意義な交流が図れるような時間や内容の工夫を行う

#### I. 活動計画（3年計画の3年目）

- ・ 企画・運営等の打ち合わせ：学内3回程度
- ・ 医療・福祉・教育関係機関専門職との連携会議：3回程度
- ・ 家族会の開催に関する準備、当日のサポート：開催1回以上
- ・ 参加者へのアンケート実施・集計：1回以上
- ・ 参加者の満足度：8割以上
- ・ 反省会の実施：1回以上
- ・ 家族会の参加者：5人以上

#### II. 活動の結果と評価

＜結果＞

##### 1. 概要

###### 1) 日時、場所

令和2年10月19日（月） 12時00分～14時00分（反省会 14時30分～15時00分）

三重県立看護大学（小会議室）

###### 2) 参加者について

(1) 運営スタッフ（計7名）

本学教員4名、本学大学院生1名

看護師2名（A訪問看護ステーション、B県教育委員会）

(2) 一般参加者（計4名）

母親2名、医療的ケア児2名

## 2. 内容について

家族会は簡単な趣旨説明と開催の経緯について説明し、全体で自己紹介を行った後は特別な企画は設けず、ランチをとりながら保護者同士あるいはスタッフと自由に話をしてもらった。保護者と離れられる医療的ケア児については、同じ空間でマットを敷いたスペースを確保しスタッフが面倒を見ることで、保護者が話に専念できるように配慮を行った。

感染対策として、特別な広報は行わず参加者は少人数に制限した。参加者全員に手指消毒、体温測定及び体調確認を行ったうえで入室してもらった。ランチ及び話し合いの最中は、卓上に飛沫防止のパーテーションを設置して行った。

## 3. 参加者のアンケート結果

アンケートは2名より回収できた。

1) 家族全体（開催日時・会場・方法・時間・進行等）について

2名が『とても満足』との回答であった。

2) 家族会の内容について

2名が『とても満足』との回答であった。

3) 家族会に参加して解消されたことや良かったこと、得られたことがあったか

2名が『多くあった』との回答であった。自由記載として「保育園など現実的な話・情報が得られた」「話を聞いてもらえるだけでリフレッシュできた」との記述があった。

4) 参加にあたって調整が必要だったり大変だったこと

自由記載として「子の体調」との記述があった。

5) 感想、意見、要望等

自由記載として「回を重ねて、仲間が増えたらうれしい」との記述があった。

## 4. サポーターのアンケート結果

アンケートは6名より回収できた。

1) 家族全体（開催日時・会場・方法・時間・進行等）について

5名が『とても満足』、1名が『満足』との回答であった。

2) 家族会の内容について

5名が『とても満足』、1名が『満足』との回答であった。

3) 家族会に参加して解消されたことや良かったこと、得られたことがあったか

5名が『多くあった』、1名が『あった』との回答であった。自由記載は以下のような記述があった（一部抜粋）。

- ・ 医療的ケア児を受け入れていく過程のステージごとに必要な介入があるのだと学んだ
- ・ 母親の苦しい精神状態をキャッチする機会になっていた。また、母親が第3者に語ることで気持ちが楽になるような会が必要であると痛感した
- ・ 保護者が、保育園や幼稚園、学校への就学について、どうすればよいのかわからず、情報も少ないことが改めてわかった
- ・ 家族会を企画するにあたり、家族の状況によってニーズが異なるため、不特定・多人数で行われる場合が良いケースとそうでないケースが想定される

#### 4) 感想、意見、要望等

自由記載は以下の記述があった（一部抜粋）。

- ・ このような機会を定期的に行うことが、小さな育児不安や虐待防止につながると感じた
- ・ 食事をしながら気持ちが解放され話しやすかったと感じた
- ・ コロナ感染対策で、より安全な環境（部屋・会場）を確保し、同席の障がい児が安心して過ごせるコーナーを調整していける事が大切

#### <評価>

COVI-19 の感染状況を鑑み規模は縮小したが、学内及び関係機関と複数回の会議を行うことで家族会を開催することが出来た。また、アンケート及び反省会を実施し、今後の開催に向けて知見を得ることが出来た。アンケート結果及び参加者の肯定的な声からも、交流を求める家族のニーズを満たし、困難感の軽減に寄与する事が出来たと考える。

### Ⅲ. 今後の課題

重症化リスクの高い医療的ケア児及びその家族が、対面で安全に家族会に参加するためには、COVID-19 の感染状況の鎮静化が必要である。3年間の活動の中で、分単位でスケジュールが決められている医療的ケア児の家族が家族会への参加調整を行うことの難しさも痛感してきた。同時に、家族会という場の必要性も大きく感じてきたため、感染状況、家族の参加調整の困難さに左右されにくいオンラインでの定期的な家族会開催をベースにおき、状況に応じて対面での開催を検討していくスタイルが現実的と考えられ、次年度以降新たに開催・広報の方法を検討していきたい。





### 3) みかん大認知症カフェ

担当者： 大西範和、小松美砂、犬飼さゆり、清水律子、鈴木聡美、松田陽子、菅原啓太、平生祐一郎、西川真野、中村由喜子、星野郁子、長谷川明子

#### 【事業要旨】

認知症は当事者にも家族などの介助者にも負担が大きいものの、ストレスを軽減する方が限られている。近年各地に認知症カフェが誕生し、集い話す場の有用性が高いことが明らかになっていることから、本学の夢緑祭でキャンパスや専門性を活かした認知症カフェを開催する。また、学外においては県内の医療機関や運営団体等が実施する認知症カフェを支援する。

#### 【地域貢献のポイント】

認知症カフェでコーヒーの香りや味を楽しみながら会話をすることで、認知症の当事者・家族や介護者の日常的なストレスを緩和することができる。また、本学の専門性を活かした情報提供等の取り組みができれば、来場者の生活の質向上に寄与できる。さらに、本学学生や認定看護師教育課程の研修生や修了生が参加し交流の幅を広げることができれば、学生、研修生や修了生に認知症やその介護の状況への理解が進み、将来の看護の質向上に寄与できる。

#### 【昨年度からの課題】

事業実施に対する特段の問題は浮上していない。大変喜ばれていることから、認定看護師教育課程の修了生が働く施設など、最終年度も内容や方法などを適宜見直しながら事業を継続する予定としていた。

#### I. 活動計画

＜重点課題＞毎年夢緑祭にあわせて開催するとともに学外の機関でも1件開催する。

＜実施計画＞学内では、夢緑祭において学祭の模擬店として認知症カフェを開店し、学外では、認定看護師教育課程の修了生が勤務する病院等の機関が主催する認知症カフェを支援する。

#### II. 活動の結果と評価

＜結果＞

当事業は平成30年度及び令和元年度には順調に遂行することができた。6月に開催された夢緑祭において、学生と協力して模擬店として認知症カフェを開店した。近隣の認知症関連団体にチラシを配付して案内し、チラシの持参者には無料でコーヒー一杯を提供し、学祭の一般参加者に対しては一杯100円とした。2年間で若年性認知症の当事者延べ8名（平成30年度令和元年各4名）、介護者、本学認定看護師教育課程の修了生および研修生などを含む延約220名（平成30年度約120名、令和元年約100名）の来場者を得て盛況となった。参加者が互いに交流して親交を深めている様子がうかがえ、集い話す場として役割を果たすことができた。特筆すべきは、令和元年度に若年性認知症の当事者の方から、

カフェを運営している学生を前に、自身がお書きになった手紙を読み上げて頂いたことである。学生が自分達に好意を持って接してくれたことをとても喜び、将来素晴らしい看護職者になってくれるよう祈るという、心揺さぶられるお手紙であった。学生にとっても、忘れ得ぬ思い出であろう。学外においては、平成 30 年度には、A 市で開催された障がい福祉啓発事業において A 市の医師会が主催する認知症カフェを共催した。若年性認知症の当事者 4 名、介護者、家族、本学認定看護師教育課程の修了生などを含む 114 名の来場者を得て盛況となった。来店者は笑顔で会話とコーヒーを楽しみ、初対面同士でも自然な交流がなされていた。テーブルに置いたアンケートに回答いただいた 9 名中 7 名が認知症カフェという取り組みをご存じで、「よいことだと思います 頑張って」、「介護と看護がコラボしてってください」、「色々な地域に来てカフェを開催してほしいです。」などのご意見をいただいた。令和元年度には、B 病院（令和元年 6 月 30 日）と C 病院（令和元年 11 月 3 日）において本学の認定看護師教育課程（認知症看護）の修了生が企画する認知症カフェへの共催の要望があり、カフェの開催を支援した。病院全体で運営に協力する態勢がとられており、入院患者やその家族、外部からの来訪者が、最初は戸惑いながらも徐々に慣れて、楽しく過ごされている様子がうかがえた。参加者アンケートに回答頂けた 15 名のうち 14 名が内容について「良い」としていた。感想には「全部良かった」、「楽しかった」、「大変だったけどありがとう」、「コーヒーがおいしかったです」、「最初はカフェに来てくれた方々も緊張して見えたが、徐々に体操や体験を通して、楽しそうにされている人の姿をみて今後もこのような機会があればよいなと思いました」、「今後継続的に開催されるのを楽しみにしています」などが挙げられた。さらに、令和 2 年 2 月 16 日に四日市市で行われた「第 11 回全国若年認知症フォーラム in 三重 四日市」で若年認知症の当事者が開催する若年性認知症カフェの開催を支援し、約 150 名の参加を得た。参加者は、コーヒーを飲みながら交流を深めている様子であった。同じ場で、若年認知症当事者の語り、歌や体操の披露なども行われ、良好な雰囲気のカフェが運営された。当事業は学生の協力を得て進め、ボランティアとして 2 年間で延べ 34 名（平成 30 年度延べ 7 名、令和元年度延べ 27 名）が参加した。

令和 2 年度については、引き続き A 市の団体、B 病院、C 病院との共催で開催予定であったが、県内の COVID-19 の感染拡大により、すべての組織が認知症カフェの開催を中止し、実施することができなかった。

#### < 評価 >

当事業は、3 年間の期間全体として、夢緑祭で 2 回、学外の活動として A 市の団体、B 病院、C 病院及び「第 11 回全国若年認知症フォーラム in 三重 四日市」で各 1 回の合計 6 回の認知症カフェを実施・共催することができた。平成 30 年度及び令和元年において事業を順調に遂行できたため、令和 2 年度を入れても年間 2 件の実績となり目標値には届いている。いずれのカフェにおいても、多くの参加者同士が話す場となるよう支援することができ、頂いた感想は大変好意的であった。本学学生や認定看護師教育課程の研修生や修了生も多く参加し、交流の幅を広げることができたと推察され、当事業は、地域貢献の役割を目的通り果たすことができたと評価している。

### Ⅲ. 今後の課題

当事業の認知症カフェの実施や開催支援は非常に好評であった。参加者同士だけでなく、学外の共催組織やその担当者、大学、学生、認定看護師教育課程の修了生や事業担当者の間で交流が進み、その関係からさらに発展が期待できる相互に有益な事業となっていた。しかし、令和3年1月現在、COVID-19の感染終息に目処が立っている訳ではなく、本学の夢緑祭や県内の組織において認知症カフェが従来通り開催する状況とは考えにくい。従って、当事業は予定通り令和2年度をもって終了とし、再び開催できる状況を待つ。また、築いた関係を活かしながら発展的な地域貢献事業を考えていきたい。



夢緑祭における認知症カフェ（左：平成30年度、右：令和元年度）



平成30年度A市における認知症カフェ 令和元年度B病院における認知症カフェ



令和元年度C病院における認知症カフェ



令和元年度「第11回全国若年認知症フォーラム in 三重 四日市」における認知症カフェ





## 4) 子ども達に「自分のからだ」を伝える事業

担当者： 宮崎つた子・川瀬浩子・長谷川明子・菱沼典子

### 【事業要旨】

本事業は、地域の教育・福祉機関と協力・連携して創り上げる「からだ先生」プロジェクトである。小学校入学前の好奇心の強い子ども達を対象に、「自分のからだを知り大切にする、そしてお友達も大切にする」事を伝える活動と「からだ先生」の人材育成に貢献することを目的とする。

### 【地域貢献のポイント】

- ・地域のニーズへの対応
- ・本学の専門性の活用
- ・本学の地域貢献活動への広報的効果
- ・地域、教育・福祉機関で子どもの健康教育に取り組む意識の醸成
- ・子どもの自己肯定感の向上に寄与
- ・いじめや虐待防止に貢献

### 【昨年度からの課題】

- ・補助教材の検討や伝え方の工夫に努力していく。
- ・各園が本事業【子ども達に「自分のからだ」を伝える事業】に続き、子ども達に、からだの知識を毎日の生活体験と結び付ける様々な工夫や、子ども達が正しい生活習慣を獲得できるように独自の教育、指導の展開を広げていけるように検討を行う。

### I. 活動計画（3年計画の2年目）

- ・教育・福祉機関、市町（行政）などの団体から連携希望：1件以上
- ・教育・福祉機関、市町（行政）など連携団体との合同会議：1回以上
- ・幼児教育現場との打ち合わせ会議：2回以上
- ・幼児教育現場での「自分のからだ」を伝える事業の実施：2回以上
- ・「からだ先生」研修会の実施：1回以上

＊新型コロナの感染状況によっては上記の事業実施が難しく数値目標が達成できない可能性がある。

### II. 活動の結果と評価

＜結果＞

#### 1. 概要

今年度は、COVID-19の感染拡大により、保育園や幼稚園などの施設内で行う企画は、感染防止から開催が難しい状況であった。そこで、新たな連携団体の開拓のため広報活動を行った結果、対象年齢の子どもと保護者が交流活動を行っているNPO団体（以下A団体）から連携の希望があった。

#### 2. 新たな連携団体との意見交換

##### 1) A団体との調整

(1) 団体代表者への説明：3回（10月、1月、2月）

(2) 担当者との意見交換：2回（オンラインでの打ち合わせ）

令和3年1月28日（木）16:00～16:50 （2回目は3月開催予定）

参加者：A団体2名、三重県立看護大学3名

## 2) 意見交換の内容

### 【A団体】

- ・絵本（紙芝居）を全シリーズ行いたい（全ての内容を企画することで偏らず知識を得られる。全部に取り組むことに意味があると思う）。
- ・月1～2回の開催を考えている。
- ・プログラムが決まったら、2～3ヶ月前に広報を行う予定である。
- ・参加者（対象）は、原則同じで親子（家庭でも会話に繋がる）とする。
- ・最後の回で、わかちあいの時間をつくりたいと思う。
- ・時間は、平日の夕方なら、他の事業と重ならない（16時～）。

### 【三重県立看護大学】

- ・今までの幼稚園の取り組み例を説明する〔読み聞かせと内容に関する演習について（聴診器、臓器のエプロン、尿モデルなどで30分程度）、反省会について〕。
- ・役割は、主に読み聞かせはA団体で、演習は大学が中心で行うイメージをしている。
- ・学生や院生も日程調整が出来たら参加させてほしい。

## 3) 今後の方向性について

- ・企画：今年度中に事業計画（プログラム企画）を行い、次年度開催する。
- ・内容：1回の開催で1つの絵本（紙芝居）を行い、全シリーズを実施する。
- ・参加人数：感染予防のため、参加は人数を限定して募集する。
- ・開催期間：月2回で3～4か月の期間で検討する。
- ・開催時間：平日16時から16時30分とし、日程は大学と調整する。
- ・会場：原則A団体の施設（感染防止を配慮し、20人程度は問題がない）
- ・主な役割：絵本・紙芝居を読むのはA団体、演習は大学（学生含む）とする。
- ・当日の動き：開始前の簡単な事前打ち合わせを行い、終了後に反省会を行う。
- ・今後の打ち合わせ：次回は3月上旬に開催予定（開催時期の決定）。

### <評価>

年度当初に事業計画を行っていた幼稚園での開催は、COVID-19の感染拡大により今年度開催を断念した。そのため、活動計画の数値目標の達成には至らなかった。しかし、対象人数を制限できる新たな連携団体を開拓することができ、今年度、A団体と次年度の事業開催に向けての調整を開始できた事は成果といえる。

## Ⅲ. 今後の課題

COVID-19の感染拡大状況に留意し、安全に実施ができるようになれば、昨年度までの課題も踏まえて、今年度の打ち合わせで決定した新たな企画を構築しながら、事業を継続していきたい。

## 5) 医療施設に広げよう看工連携による特許の輪！

担当者：斎藤真、大西範和、大平肇子、大川明子、犬飼さゆり、長谷川智之、市川陽子、岡根利津、菅原啓太

### 【事業要旨】

本事業は、看工連携による知財を発掘するために県内の医療機関と連携してケア上の困り事や開発してほしい機器などの情報を集めることである。さらに医療機関において発掘された知財をそれぞれの病院が保有、積極的に活用できるようにすることを目的とする。

### 【地域貢献のポイント】

看工連携は看護と工学が連携してケアに役立つ物作りを行うことであるが、ほとんどその名称を聞くことはない。本事業は本学がこれまでに培ってきた看工連携事業を基盤に地域の医療施設に対して知的財産を保有、活用できるように支援することである。さらにその成果は、各医療施設の看護部門を活性化させることに貢献できると考えている。

## I. 活動計画

### ＜重点課題＞

地域の医療機関に「知的財産」の必要性を認識してもらう。また「看工連携」という概念を広める。

### ＜数値目標＞

参加医療機関を5施設以上とする。

## II. 活動の結果と評価

### 1. 本活動への参加希望状況

令和2年度の看工連携事業への参加希望施設は5施設であった。

### 2. 医療機関における事業説明およびブレインストーミングの実施

令和2年度の本事業は、新型コロナウイルス感染拡大のため、全ての活動が中止となった。

### ＜評価＞

活動が休止しているため、評価は困難である。

## III. 今後の課題

各施設で令和2年度に実施予定であった内容を改めて令和3年度に行う。





### 3. 地域住民とのふれあい推進事業



# 1) いきいき体操と健康的な肌づくり

担当者： 平生祐一郎、篠原真咲、岡根利津

## 【事業要旨】

教員が地域の公民館や集会所等に出向いて、地域住民を対象に介護予防体操やスキンケアに関する講話と実技を行う。スキンケアについては、皮膚・排泄ケア認定看護師の資格をもつ教員が健やかな皮膚の維持の方法を実演する。また、参加者が互いに交流を深め、楽しく健康づくりに取り組める内容になっている。

## 【地域貢献のポイント】

地域住民の①健康意識の向上、②健やかな暮らし、③絆づくり等に貢献できる。

## 【昨年度からの課題】

昨年度は開催回数が1回のみで、課題として周知方法が挙げた。そのため、今年度は本事業を他事業で紹介するなど、周知方法について工夫した。

## I. 活動計画

### ＜数値目標＞

開催回数：2回以上、参加者数：延 50人以上

### ＜実施計画＞

1. ロコモティブシンドローム(ロコモ)について  
ロコモに関する講話、ストレッチと介護予防体操(実技)
2. スキンケアについて  
乾燥肌に関する講話、肌水分量の測定、ハンドクリームの使い方(実技)
3. 参加者の交流  
参加しての感想や健康づくりなど

### ＜昨年度からの変更点＞

実施場所を地域の集会所に限定せず、様々な場所で開催することや、他の地域交流センター事業（よりみちカフェ）と組み合わせて実施した。

## II. 活動の結果と評価

### ＜結果＞

1. 日 時：令和2年11月2日 13時30分～15時00分
2. 場 所：三重県立看護大学
3. 参加者：9名
4. アンケート結果（アンケート回収率は100%（9名/9名）
  - 1) 性別

【男性：4名、女性：5名】

2) 年齢

【20代:3名、40代:1名、50代:1名、70代:2名、80代:1名、不明:1名】

3) ロコモの内容は理解できましたか。

【理解できた:5名、やや理解できた:2名、無回答:2名】

4) ロコモを予防しようと思いますか。

【思う:5名、やや思う:2名、あまり思わない:1名、無回答:1名】

5) 健康的な肌づくりの内容は理解できましたか。

【理解できた:6名、やや理解できた:2名、あまりできなかった:1名】

6) 健康的な肌づくりに取り組もうと思いますか。

【思う:6名、やや思う:2名、あまり思わない:1名】

7) 意見や感想

- ・勉強になりました。
- ・楽しく学べました。
- ・大変良かったです。
- ・いきいき体そうは、つづけて効果！！

<評価>

今年度は COVID-19 の影響があり、老人会から事業依頼はなく、開催回数は昨年度と同様の結果となった。一方、よりみちカフェとのコラボレーションが実現し、地域住民に本事業を知ってもらう良い機会となった。COVID-19 の感染防止策として、ソーシャルディスタンス等に気をつけ、地域住民が安心して事業に参加できるよう配慮した。アンケート結果より、事業内容は、参加者から高評価が得られ、健康に対する意欲もみられた。本事業は、地域住民の健康意識の向上や絆づくりに貢献できると考えられる。

### Ⅲ. 今後の課題

COVID-19 の感染状況によっては、事業規模を縮小して安全に実施できるよう取り組んでいく。

## 2) よりみちカフェ

担当者： 篠原真咲、六角僚子、平生祐一郎、星野郁子

### 【事業要旨】

近隣地域のお年寄りと子どもたちとの世代間交流を通して、地域コミュニケーションの活性化を目指すことを目的にしている。カフェでの歓談、レクリエーションを通して世代間交流を図り活動していく。よりみちカフェをきっかけに、地域みなさんと楽しく交流し、さらには健康チェックを行いながら、楽しく話せて無料で誰でも参加できる場を提供する。

### 【地域貢献のポイント】

地域の方々が気軽に集える場をつくることで、なじみの関係ができ、人とのつながりによって、いきいきと生活ができることを支援する。

### 【昨年度からの課題】

地域の方々によりみちカフェを知っていただき、地域の方々のつながりを作る。

## I. 活動計画

ひとりでも多くの方に知っていただき、参加者の方が楽しい時間を過ごせるようにする。

昨年度は、津駅近くの施設を会場としていたが、今年度からは、大学の実習室に変更した。COVID-19の感染予防のための3密を避けることが可能であること、換気も容易に行えること、駐車場や会場費が無料等により変更した。

## II. 活動の結果と評価

### ＜結果＞

全9回開催予定のうち、現在7回目まで終了し、総参加者数37名であった。開催回によっては、男性のみとなる回もあった。

また、夢が丘在住のアロマセラピストの方のご厚意により、ボランティアでハンドマッサージをしていただいて、参加者の癒しのひとときもご提供いただいている。

よりみちカフェの内容としては、参加者の自己紹介のあと、アクティビティ・ケアとして、夏祭りをイメージしたヨーヨー釣りや射的、健康体操の実施、スウェーデンギターであるブンネギターの演奏等、毎回内容を変えて実施した。

お正月遊びの際には、福笑いで笑い転げ、コマ回しでは参加された方々が一生懸命コマにひもを巻き付け、若い世代に教えてくださる場面もあった。

参加者と一緒に楽しい時間を過ごすことができおり、参加者同士の交流も増えてきている。地域包括支援センターのスタッフの見学もあり、地域の方に紹介していただいている。

### <評価>

参加者同士の交流も見られてきており、少しずつではあるがなじみの関係性ができてきていることより、次年度も同じように開催を行い、地域の方のよりみちの場となるようにしていく。



## みかん大 よりみちカフェ



今年度は、三重県立看護大学でよりみちカフェを開催します。  
どなたでもご参加いただけます。  
一緒にゲームをしたり、おしゃべりしたり、楽しい時間を過ごしませんか？



開催日：7月7日（火）  
8月4日（火）、9月8日（火）、  
10月5日（月）、11月2日（月）、  
12月7日（月）、令和3年1月5日（火）、  
2月16日（火）、3月9日（火）



開催場所：三重県立看護大学  
実習棟1階 実習室1  
開催時間：13時30～15時



- \* 新型コロナウイルス感染拡大のため、体温 37.5度以上ある方の参加はご遠慮ください。またマスクの着用をお願いします。
- \* 「3蜜」を防ぐために参加者が多数の場合には、入場制限もしくは時間をずらしての入場となることをご了承ください。
- \* 新型コロナウイルスの感染の状況により中止となる場合がありますので、ホームページ等で確認をしてください。



連絡先：三重県立看護大学 在宅看護学 篠原  
電話番号：059-233-5600（代表）内線5315  
地域交流センター 星野  
直通電話：059-233-5610

### Ⅲ. 今後の課題

- ・ COVID-19 の感染状況を考慮しながら、開催を決定していく。
- ・ 学部生、大学院生や認知症看護認定看護師の協力を得ながら、気軽に参加していただきながら、認知症予防や世代間交流を深める方法について COVID-19 の感染予防対策をしながら実施していく。

### 3) 災害時に母子の命を守る工夫を考えよう

担当者： 大平肇子、永見桂子、岩田朋美、市川陽子、辻まどか

#### 【事業要旨】

災害時における避難所運営には多くの課題がある。特に女性や妊産婦、乳幼児にとって避難所での生活はリスクが高い状況になるため、避難所における女性や妊産婦、乳幼児を守るための具体策が必要となる。そこで、本事業では女性や妊産婦、乳幼児を持つ母親等と一緒に避難所での対応を考えることを目的とする事業である。

#### 【地域貢献のポイント】

女性や妊産婦、乳幼児を持つ母親、地域で防災に取り組んでいる人々と協働して避難所での課題を考える機会となる。また、参加者や地域住民の方が災害や避難所運営への関心を高め、防災意識の向上につながる。

#### 【昨年度からの課題】

昨年度から事業を継続し、①避難所運営ゲーム（HUG）実施後のディスカッションの時間を充実させる、②HUG 未経験の方にも気軽に参加してもらう工夫をする、③避難所にたどり着くまでのイメージを持ってもらうこと等が課題として見出された。しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止の観点から、参加者が近距離になり易い HUG を実施しなかったため、令和3年度の課題として継続することとした。

#### I. 活動計画

＜数値目標＞交流会を年1回開催する。

＜実施計画＞避難所運営ゲーム（HUG）の実施を中心とした交流会の開催を予定していたが、令和2年度は COVID-19 の感染拡大防止のため実施計画を変更した。避難所における COVID-19 の対策を把握し、より良い避難所運営について理解を深めるとともに、現在の住民のニーズを把握し、次年度の活動につなげることを目指した。

#### II. 活動の結果と評価

＜結果＞

HUG の実施を中心とする交流会を計画していたが、令和2年度は交流会の実施を中止した。避難所における COVID-19 の対策を把握し、より良い避難所運営について理解を深めるとともに、住民のニーズを把握するために以下の活動を行った。

##### 1. 三重県避難所運営マニュアルの確認

令和2年5月に修正された「三重県避難所運営マニュアル策定指針」における「女性への配慮」「妊産婦・乳幼児、子どもへの配慮」と具体的な取り組みについて確認した。さらに、修正版で追加された「新型コロナウイルス感染症への対策」を確認した。

## 2. 避難所で使用できる段ボールパーティションの作成

「三重県避難所運営マニュアル策定指針」において感染対策として、避難所のレイアウトを工夫し、人との距離を確保する具体例としてパーティションの活用が推奨されている。本事業では六角式間仕切りの作り方を参考に避難所で使用できるパーティションを作成した。作成に要した時間は15分程度であり、段ボールとカッターナイフがあれば簡単に作成できることが確認できた。

([https://www.city.toyota.aichi.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/038/803/02\\_0709.pdf](https://www.city.toyota.aichi.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/038/803/02_0709.pdf))

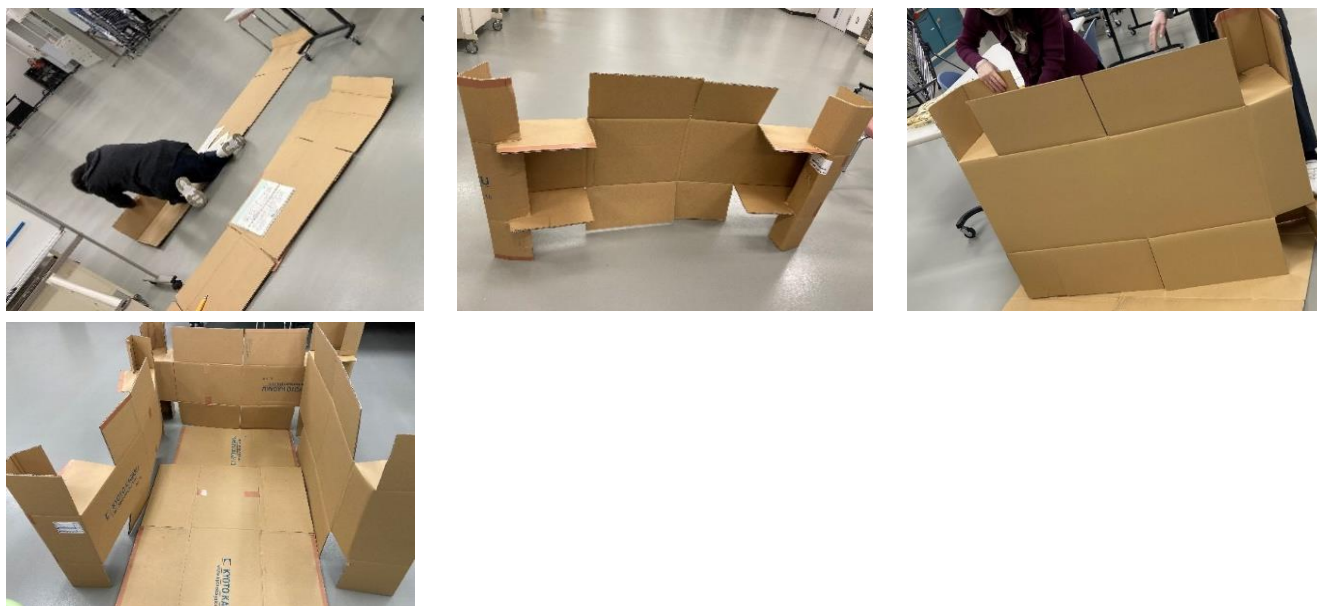


写真1 避難所で使用する段ボールパーティション作成

## 3. 地域における防災対策の把握

大学の近隣地域の自主防災講習会(10月25日)に参加した。参加している地域住民との交流を図るとともに地域のニーズの把握に努めた。地域のハザードマップを確認し、水害時の避難方法・経路や一時避難場所である本学の位置づけを確認した。

### <評価>

数値目標である年1回の交流会の開催はできなかったが、避難所におけるCOVID-19の対策を確認することができた。また段ボールで簡便にパーティションを作成できることが確認でき、これらの成果は来年度の活動につなげることができる。

## Ⅲ. 今後の課題

令和3年度は、引き続き事業を継続し、感染対策を徹底した上で、地域で暮らす女性や妊産婦、乳幼児を持つ母親等と一緒に避難所での対応を考える事業を展開する。



## 4) 対話による探Qカフェ

担当者： 安部彰・浦野茂・林辰也・鈴木聡美・関根由紀

### 【事業要旨】

現代では人々のライフスタイルや価値観の多様化にともない共生をめぐる問い——のぞましい共生のありかたをめぐる問い——は、容易に共通解を導きだせない難問となりつつある。しかし現況がそうだからこそ、むしろその問いはかつてないほどの重みをもちはじめているともみなしうる。そして後者の視点に立つならば、我々は共同探求の方法としての対話、それもできればバックグラウンドを違える人々がお互いにその異なりを尊重しつつ織りなす多声的な対話をつうじて、かかる難問を敢然と探求すべきだろう。そのような対話を経ることにより我々は、答えにはいたらずとも、探求前よりも諸問題の構造や奥行きをより鮮明に理解できるようになるはずだから。

### 【地域貢献のポイント】

このかん、たしかに医療・看護職のフィールドは病院から地域社会へとひろがっている。しかしこうした活動のフィールドの拡張は必ずしもコミュニケーションの豊饒化を意味しない。そこにおけるコミュニケーションが「医師・看護師と患者」あるいは「多職種間」という閉じた役割関係のもとでのそれであり続けるかぎりには。したがって、やはりコミュニティには、人々がそれぞれの役割や立場をこえて忌憚なく発しあう多様な意見が交流する場が不可欠である。そして近年、哲学カフェがそうした対話の場として全国にひろがりつつあるが、本事業はささやかではあるが三重県におけるそのような場となりゆくことで、地域貢献に資することができればとかがえている。

## I. 活動計画

数値目標：年1回の開催。参加人数10名。

## II. 活動の結果と評価

### 1. 開催情報

- 1) 日時：2021年3月9日（火）18時～19時30分
- 2) 場所：三重県立看護大学・多目的講義室
- 3) 参加人数：7名程度（本学教職員・本学学生）

### 2. 活動の結果

今回の哲学対話のテーマは「対面」である。昨年来から流行している新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、このかん私たちの活動はさまざまな制限を余儀なくされているけれど、なかでも人が人と直接会う対面の機会は激減している。もとより、こうした状況に陥る以前から、たとえば「電話やメールよりも直接会って話をするほうがよい」

と私たちがしばしば口にしてきたように、対面でのコミュニケーションには価値があるとみなされていた。しかし現実には、自由に人と人とが会えなくなることで、いまや対面の価値は高止まりしているようにすら見える。

しかしながら、あらためて対面とはどのようなことなのであろうか。それは、文字どおり、「顔と顔を突きあわせる」ことなのか。もしそうならば、オンラインでも我々は対面できていることになる。しかしそうした了解にとどまっていたのでは不十分におもわれる。というのも、私たちはげんに「オンラインによる対面だけではなにか物足りない」と感じてみいるからだ。してみると、そうした不足・欠落感を手がかりにして、対面の価値がいったい奈辺にあるのをさらに探求できるはずである。

当日は概ね以上のような問いと対話が展開された。

### 3. 活動の評価

哲学対話のエッセンス（意義）は、共同探求と自己表現を同時に達成できる点にある。そしてその点では本事業の成果はけっして少なくはなかったと評価できる。ただ惜しむらくは、もっと多くの参加者間で対話ができなかったことである。我々の思考は、異なる意見との邂逅により、真の意味で喚起される。異なる意見は、自らの意見にたいする問いかけとして感受され、それに応答するために私たちは真摯にかんがえはじめるからである。したがって本学関係者以外の方々が参加してくださっていたならば、探求的な思考はさらに深まったことだろう。

## Ⅲ. 今後の課題

新型コロナウイルス感染症の防止のため仕方なくではあるが、事業参加への対外向けの募集を大幅に自粛するとともに、実施会場も学内へと変更した。それにより、参加者の数とともに属性も限定されることになったが、来年度はより多くの多様な人々の参加がみこめるように広報と実施の方法を工夫したい。

## 5) 児童英語（キッズ英会話）

担当者： 林 姿穂

### 【事業要旨】

津市在住の未就学児および小学校低学年の保護者のために、「児童英語」の自宅での指導法（学習法）についての講義の動画をオンラインで配信する。参加者の関心に応じて、年齢や学習経験に合う英語の絵本や問題集、学習方法などを紹介する。保護者の英語に対する苦手意識を払拭し、保護者に子どもと自宅で英会話を楽しむ方法を伝える。

### 【地域貢献のポイント】

コロナウイルスの感染拡大で外出できない児童や保護者のために学びの機会を与える。

### I. 活動計画

1. 募集時期：令和2年8月1日から8月28日まで  
（夢が丘地域のチラシ配布および本学のホームページにて）
2. 講義時期及び内容： 令和2年9月8日、9月15日、9月22日の3回に分けて講義内容をメールで配信する。講義内容をメール文書に含めるとともに、担当者が独自に作成した講義動画のリンクを貼り付け、参加者がいつでも自宅で視聴できるようにする。講義動画の作成において、英語教育の専門家で多数の英語教科書の執筆者でもある、跡見学園女子大学の西田晴美氏の協力を得る。幼稚園、小学校の冬休み期間中に、英語を使ったゲームや読み聞かせなどを通しての交流会（親子での参加を想定したもの）および、個別の英語学習相談会を計画する。

### II. 活動の結果と評価

この活動の参加者には昨年度の教員提案事業「英語で話そう」の参加者2名が含まれていた。その他、夢が丘の住民で未就学児または小学生の保護者、児童英会話の講師、託児所の経営者など合計5名の参加があった。受講生（大人）の英語の学習経験には、ばらつきがあった。当初、子どもの保護者を想定して講義を計画していたが、実際は児童英会話の講師や、託児所で英語学習を取り入れたい方が参加されたため、英語教授法についての専門的な内容も含めるべきであったと考える。予定通り3回のメール配信を行い、個別に教材の使い方などの質問をメールで受けつけた。一方、交流会や英語学習相談会に関しては、コロナウイルスの感染拡大のため参加希望はなかった。

### III. 今後の課題

来年度も同様にオンラインで講義を配信していく予定である。今年の参加者が来年度の参加を希望しているため、多少内容を専門的なものに変更しながら、新規の参加者も募っていききたい。

## 6) 英米文学の読書会（文学作品を読んで語ろう）

担当者： 林 姿穂

### 【事業要旨】

昨年度の教員提案事業である「英語で話そう」の参加者の英語学習の継続につながる講座を提供することを目的とし、英語の短編小説6作品のフルテキストを参加者にメール送信する。1週間に1作品を読むことを目標とする。各作品の内容理解の問題もメールに添付し、参加者はその問題に回答した後、担当者が作成した解説動画を見ながら、各自で答え合わせを行う。質問や意見は担当者宛のメールで随時受け付け、担当者は参加者全員に定期的にフィードバックをする。

### 【地域貢献のポイント】

自宅で英語圏の文学や文化を学ぶきっかけを提供する。作品に関する意見交換をメールで行うことで、オンライン上で地域住民と本学教員の交流ができる。

### I. 活動計画

1. 募集時期：令和2年8月1日から31日まで
2. 募集方法：夢が丘地域へのチラシ配布および本学ホームページにて
3. 講義期間：令和2年 8月28日、9月8日、15日、22日、29日、10月6日
4. 講義内容：6作品の英米文学作品の資料や講義動画のリンクを配信する。オンラインのため受講生の人数制限はもうけない。講義動画はYouTubeで作成し、限定公開とする。

### II. 活動の結果と評価

7名の参加者があった。そのうち6名が「英語で話そう」の参加者であった。講義動画の作成にあたっては、跡見学園女子大学の西田晴美氏の協力を得た。講座終了後のアンケート（オンライン）では2名からの回答があり、来年度も同じような講座を受講したいとの希望があった。内容に関しても「かなり満足している」との回答を得ることができた。残りの4名からは個別で担当者のメールアドレス宛に感想をいただき、来年度の受講希望や、文学作品の中身についての質問など、肯定的な反応が見られた。

### III. 今後の課題

来年度も別の作品で同様の講義をオンラインで行いたい。PDF ファイルのダウンロード方法、その他、PCの操作に関する基本的な質問が時々あったので、参加者の希望に応じて自宅に資料を郵送する形も検討したい。今回は、オンラインのアンケートの回答率が低かったため、アンケートが匿名であることや本人が特定できないようになっていることを強調するなど、回答率を上げる方法を検討したい。

## 7) 災害に備えよう

担当者：山本翔太、中西貴美子、清水律子、菅原啓太、上杉佑也、荻野妃那、竹村和誠、  
小林奈津美

### 【事業要旨】

保健センターや自治会等の協力を得ながら啓発活動を行い、地域住民の防災・減災力向上に寄与することを目指す。

### 【地域貢献のポイント】

1. ブース来場者を通じて、災害時の健康管理に対する平時の備えの知識を広く発信できる。
2. アンケート結果および津市の健康づくり計画における災害の取り組みに関する話題提供等から、個人や地区組織で取り組む防災・減災対策を図ることができる。

## I. 活動計画

＜数値目標＞

1. 啓発ブースを開設（年1回）
2. 地域住民や学内関係者への情報発信（年1回程度）
3. 学生ボランティアの協力（1～4年生 3～5名程度）

## II. 活動の結果と評価

年度当初に参加を計画していた地域イベントの開催が、COVID-19の感染拡大により中止となった。これに伴い、地域イベントでの啓発ブースを開設するという活動が実施できなかった。そのため、本年度の活動は、大学周辺地域の防災対策に関する情報収集を行うことへと変更した。情報収集の対象地域は一身田地区とし、一身田地区自主防災協議会会長らとの会議を開催した。

その結果、一身田地区では自主防災協議会や地域リーダー実践塾等、様々な防災対策に関する研修会が催されていた。これらの研修会について、高齢者は積極的な参加がある一方で、若年者は積極的な参加が少ない現状であった。このことから、一身田地区の高齢者と若年者の世代間において、防災対策に関する意識に差が生じていることが明らかとなった。また、一身田地区の住民（特に高齢者）は、一時避難所として位置付けられている本学まで避難する場合、高低差のある長距離を徒歩で移動することになるため、発災時に本学を避難先として選択する可能性は低いことが示唆された。

上記の内容から、一身田地区は世代間において、防災対策に関する意識に差が生じているものの、研修会等を積極的に開催し、防災対策に注力している地区であることが明らかとなった。

### Ⅲ．今後の課題

今年度の活動は、一身田地区における情報収集を実施したが、他の地区においても防災に関する啓発活動を検討していく必要があった。

次年度においても COVID－19 の影響が懸念され、本事業による地域イベントでの啓発ブースの開設は、困難な状況が予測される。イベントなどを利用した啓発ブースの開設および地域住民への情報発信については、一か所に人を集め、一度に情報を発信することができるため、従来であれば効率的な方法であった。しかし、感染症が拡大している状況下において、一か所に人を集め、情報を発信するという方法は用いることは現実的ではない。このような状況下においても情報発信することのできる方法を検討していくことが課題として挙げられる。

## 8) 暮らしの保健室

担当者： 篠原真咲、六角僚子、平生祐一郎、星野郁子

### 【事業要旨】

健康チェック器具を使用して、自分の体の状態を知り、自身の健康維持・増進に努める。内容は、身長・体重・体脂肪率・BMI・貧血チェック・体内年齢チェック・骨密度などを測定する。希望者には、足浴やアロマハンドマッサージを実施する。健康チェックを基に、健康に関する相談を受ける。本学の学部生や院生、三重県立公衆衛生学院の学生や教員などとともに、健康に関するミニ講座を実施し、参加者の健康意欲を向上する。

### 【地域貢献のポイント】

津市内や鈴鹿市からの参加が多く、6月から3月まで計16回開催し、延べ151名の地域の方にご参加いただいた。1回あたりの参加者数は、約10名前後である。ここで健康に関する情報やアドバイスを受け、実施の継続を目指している。近所の独居の方も誘って来場してくださり、「暮らしの保健室」が交流の場となりつつあり、回数を重ねるごとに顔なじみの関係となり、お互いに会話をされる場面も増えてきている。来場された方の口コミで少しずつ新規の利用者が増えたことから、無料で気軽に行ける健康チェックの場、人との交流の場、ハンドやフットマッサージにより自分の身体の状態を医療者からアドバイスをしてもらえることや、マッサージによるリラックス効果の時間が持てるとして認識が広まってきている。コロナウィルス感染予防のため、入場時間をずらす、換気をする、マスク着用・体温測定・手指消毒の徹底などに努めて実施した。

### I. 活動計画

重点課題として、地域の皆さんに暮らしの保健室の機能と役割について周知する。さらに、自己の体調管理に役立てるとともに、心身の健康に関心を持ち、健康への意欲を維持・継続ができ、適切な時期に受診行動につなげることで、疾病の悪化予防に努めていく。

### II. 活動の結果と評価

今年度は、月1～2回のペースで開催し、全16回開催した。2021年1月現在13回目までの出席者は延べ学外116名、学内35名の参加があった。学生は、学部生は、49名（重複あり）、大学院生5名がスタッフとして支援していただいた。さらに、三重県立公衆衛生学院の3年生による口腔内のケア方法についてのミニ講座を実施した。実際の歯磨きの方法や嚥下体操、器具を用いた口腔体操等を実施した。本学の学生と公衆衛生学院の交流により、今後多職種連携が必須となる医療や介護の現場において、他の職種の特徴を知る貴重な機会となった。双方の学生にとって、住民の方々にどのようにお伝えすればわかりやすく伝わるのか等、学びの共有もできた。今年度は、COVID-19により、実習場所も限られてしまったが、暮らしの保健室に来る住民の方々に実施できたことは、学生にとって大きな学びになった。住民の方からも、とても勉強になったとのご意見を多数いただくことができた。

# 「暮らしの保健室」

## 始めました！

三重県立看護大学で「暮らしの保健室」始めました！

だれでも、無料で健康チェックができます。

皆さまの健康管理やお悩み相談等にお答えしたいと思っ

す。経験豊富な看護師、保健師、助産師とその卵達がお待ちしております。



場所：三重県立看護大学実習棟1階

開催日：令和2年6月30日（火）・7月7日（火）・7月21日（火）

8月4日（火）・8月25日（火）・9月8日（火）・10月15日（月）

10月19日（月）・11月2日（月）・12月7日（月）・12月21日（月）

令和3年1月5日（月）・1月26日（月）・2月16日（月）・

3月9日（月）

開催時間：10時30分から12時30分まで

参加費：無料



内容：健康チェック（身長・体重・血圧・血管年齢・脳内年齢・握力・骨密度・貧血チェック・ストレスチェック等）、簡単な体操やゲーム等を行いながら楽しい時間を過ごしましょう！

参加できる方：年齢や性別を問いませんのでどなたでもご参加いただけます。



- \* 新型コロナウイルス感染拡大のため、体温 37.5度以上ある方の参加はご遠慮ください。またマスクの着用をお願いします。
- \* 「3蜜」を防ぐために参加者が多数の場合には、入場制限もしくは時間をずらしての入場となることをご了承ください。
- \* 新型コロナウイルスの感染の状況により中止となる場合がありますので、ホームページ等で確認をしてください。



【ご連絡先】 三重県立看護大学

篠原真咲（在宅看護学）電話番号 059-233-5600（内線：5315）

星野郁子（地域交流センター）電話番号 059-233-5610



### Ⅲ．今後の課題

COVID-19 の状況をみながら、今後も継続できるようにしていく。定期的に支援することで健康に対する興味・関心を維持していただけるようにしていく。



## 9) Re-mamma Café (リマンマ カフェ)

担当者：大川明子、小林奈津美、石倉麻衣子

### 【事業要旨】

乳がんの治療に伴い乳房切除術をおこなった患者の乳房パットを作成する。参加者は患者さんを含めて誰でも参加でき、ご自身の胸の大きさに合わせたオーダーメイドの乳房パッドを参加者ご自身で作成する。素材はダブルガーゼで、中身は樹脂ビーズを使用し、肌ざわりや汗も吸い取り、洗濯も可能で、乾燥性も抜群である。講師は乳房切除術を体験した人であり、病気の語り合いもおこなっている。

### 【地域貢献のポイント】

医療施設以外でも乳がん患者のケアができること、生活している地域だからできるケアを考え、患者の日常生活の活性化につなげていく。また、患者同士が語り合い、がんとともに生きる場の提供ともなる。

## I. 活動計画

### ＜数値目標＞

3回の開催に各5名の参加者を目標とする。

### ＜実施計画＞

1回目は乳房パットを作成する。

2、3回目は作成した乳房パットの状態・状況、病気のことなどを話し合う会を開催する。参加者の要望を知る。

## II. 活動の結果と評価


### ＜結果＞

#### 1. 本事業の周知

治療施設（四日市市立病院、三重県立総合医療センター、鈴鹿中央総合病院、松阪市民病院）に右図のチラシを配布した。

#### 2. 乳房パットづくりの実施

1) 外部講師2名を迎え、参加者3名と大川を含めたスタッフ3名とが、和やかに乳房パットづくりをおこなった。講師の丁寧な指導のもと参加者はオーダーメイドの作業を進め、作業中は夢中になってしまいがちで会話は少なめであった。リマンマカフェの後半にかけて参加者同士が打ちとけ合い会話が増え始めた。作成後はお茶をしながら生活のこと、病気のことなどの会話をおこなった。リマンマカフェ実施の風景写真を右に示す。



**Re-mamma Café (リマンマ カフェ)**

体験者と一緒に、自分に合った快適な乳房パッドを、楽しく作りませんか？

- ご自分の胸の大きさに合わせて簡単に作れます。
- 洗濯が可能で、すぐに乾きます。
- 中身に樹脂ビーズを使うので、重みもあります。
- お手持ちのフルカップブラに、直接入れる事ができます。
- ガーゼ・タオルが汗を吸い取ります。
- 術後間もない方から、再建ご予定の方にも快適です。

開催日時：令和2年11月6日（金）14:00～15:30  
開催場所：三重県立看護大学 研究棟2階  
参加費：2,000円（含 材料費、お茶菓子代）  
申込み：下記にメールでお申込み下さい（先着5名）  
akiko.okawa@mcn.ac.jp  
三重県立看護大学 大川明子

当日、感染対策のため、ご参加の際はマスク着用の上ご参加下さい。また、体温37.5度以上の方は参加できません。感染状況により、中止となる場合があります。県立看護大学のホームページ等でご確認の上、ご参加下さい。

参加者 A の声：「手術後、病院に行く以外、あまり外に出たことがなかった。人と話すことが少なくなっていた。久しぶりに人と話すことができて楽しかった。またこのような場に参加したい。」

参加者 B の声：「以前に作ったパットが古くなったので、新しいパットを作成できて嬉しいです。」

参加者 C の声：「これまで同じ病気の人とお話をしたことがなかった。患者会の意義が体験できた。」

など、貴重な意見を聞くことができた。

#### < 評価 >

COVID-19 感染拡大防止状況下で開催することを諦めていたが、1 回目を 11 月に開催することができた。5 名の参加者を予定していたが、ソーシャルディスタンス確保を踏まえると 3 名の参加者で感染予防行動ができた。その後、計画していた 2、3 回目の作成した乳房パットの状態・状況、病気のことなどを話し合う場は COVID-19 感染拡大に伴い開催することができなかった。今年度は感染予防行動をおこないながら 1 回でも開催ができたことは良かった。参加者からも貴重な意見を聞くことができた。

### Ⅲ. 今後の課題

COVID-19 感染の状況に合わせて開催を実施していく。

また今年度開催できなかった 2、3 回目の作成した乳房パットの状態・状況、病気のことなどを話し合う場を、来年度は COVID-19 感染が収束して実施できることを願う。



Re-mamma Café 実施風景 1



Re-mamma Café 実施風景 2



Re-mamma Café 実施風景 3



## Ⅱ．卒業生支援事業

- 1．卒業生のきずなプロジェクト
- 2．卒業生支援プロジェクト



# 1. 卒業生のきずなプロジェクト

担当者：中北裕子、林辰弥、灘波浩子、日比野直子、川島珠実、長谷川智之、荻野妃那、岡根利津、竹村和誠、西川真野、山本翔太、小林奈津美、辻まどか

## 【事業要旨】

卒業生が看護職としての職責を継続して果たせるよう、様々な相談に対応し、燃え尽きおよび離職防止を図る。また同窓会と連携をとり、卒業生、同窓会との情報交換を行うことにより、卒業生と大学との関係性の維持にも努める。（本事業は、平成 23 年度からの事業を引き継いだ単年度事業で、平成 29 度より交流センター提案事業となった。）

## 【地域貢献のポイント】

仕事上の悩みや複雑な人間関係を経験し、離職を考えることが多い卒後 1～2 年までの卒業生を対象に、母校である大学がハード面とソフト面の資源を提供し、フォローすることで離職防止を図る。この活動によって、卒業生が持続的に質の高い看護ケアを社会に提供できることは、地域住民および社会に対しての貢献につながると考える。

## 【昨年度からの課題】

本事業は、継続と卒業生への確実な周知が課題である。また、昨年度 3 月開催予定の茶話会を COVID-19 感染拡大防止のため中止したため、茶話会開催に当たっては、感染防止対策も課題となった。

## I. 活動計画

### < 数値目標 >

1. 今年度本学を卒業した人を対象に茶話会（6 月、3 月）を開催する。  
（出席者数第 1 回茶話会 80 名程度、第 2 回茶話会 30 名程度を目標とする）
2. 卒後 2 年目を対象に茶話会（3 月）を開催する。（30 名程度を目標とする）

### < 実施計画 >

#### 【茶話会の開催】

1. 卒後 1 年目の卒業生を対象とした第 1 回茶話会を 6 月、第 2 回茶話会を 3 月に開催する。第 1 回茶話会は、卒業式ができなかった者たちを対象とするため、より多くの教員の参加を依頼する。
2. 卒後 2 年目の卒業生を対象とした茶話会を 3 月（卒後 1 年目卒業生対象の茶話会と同日）に開催する。
3. 各職場の情報交換や、同窓生、教員と何でも話ができる場とする。全体会終了後、個別に本学教員に相談できる時間をもつ。特に 3 月は 2 学年を同時に集合する場とすることで、横のつながりだけでなく、縦のつながりを深める機会を作る。
4. 茶話会の開催に向けて
  - 1) 茶話会の案内を卒業生の就職先に郵送することにより広報活動を行う。
  - 2) 卒業生には卒業生アドレス等を活用して連絡し、会への出席を呼びかける。
  - 3) 同窓会には開催を事前に伝えることにより、同窓会との橋渡しを行う。



- 4) 教職員への開催周知共に、参加協力を依頼する。
5. 茶話会の開催後
  - 1) 茶話会終了後には、参加できなかった同窓生へのメッセージをまとめて卒業生アドレスを活用して、配信する。
  - 2) 茶話会への参加協力についてのお礼文書を参加者の就職先に郵送する。
6. 卒業生への周知
  - 1) 卒業式のリハーサル時に、「卒1対象茶話会の実施」をチラシ配布にて周知する。

## Ⅱ. 活動の結果と評価

### 1. 茶話会の結果及び評価

#### 1) 第1回茶話会

- ①開催日の変更について：令和2年6月夢緑祭と同日開催の予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大のため夢緑祭が中止となり、茶話会も一時延期とした。緊急事態宣言が解除された5月末に、令和元年度卒業生対象の茶話会開催を7月11日に決定し、直ちに卒業生の就職先に案内通知を発送した。
- ②開催場所と参加人数：7月11日（土）、感染予防対策（③参照）を実施し、茶話会を本学大講義室にて開催した。卒業生47名、教員21名の参加があった。目標の人数には到達しなかったことには、職場から外出制限が設けられていたり、県外への移動を自粛した卒業生がいたことが影響したと考える。
- ③感染予防対策：入場口での非接触型体温計による体温測定、手指消毒やマスク着用の徹底（マスク不所持者にはマスク配布）、ソーシャルディスタンスを保った座席配置、会場の換気などを実施した。例年、歓談の際にはケーキや菓子を各自で選んで食べながら談話していたが、今回は持ち帰り用として個人用に袋詰めした菓子、蓋つきのゼリー、ペットボトルを配布し、会話しながらの飲食は禁止とした。また、卒業生同士の歓談の時間を短縮するため、事前に教職員から卒業生へのメッセージ録画の上映を行い、上映中は会話をせず飲食の時間とした。茶話会後には、出席できなかった卒業生にむけて、メールにてメッセージを送信した。
- ④評価：茶話会は短時間であったものの、卒業生が教職員との再会を喜び、また翌日から頑張ろうという気持ちを養うことに寄与できたのではないかと考える。

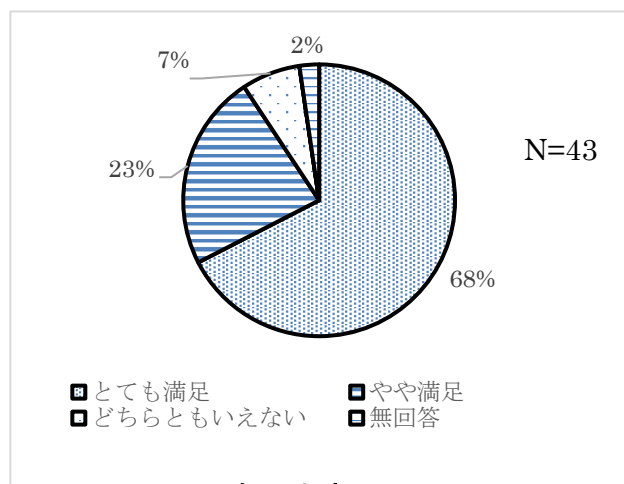


図1. 会の内容について

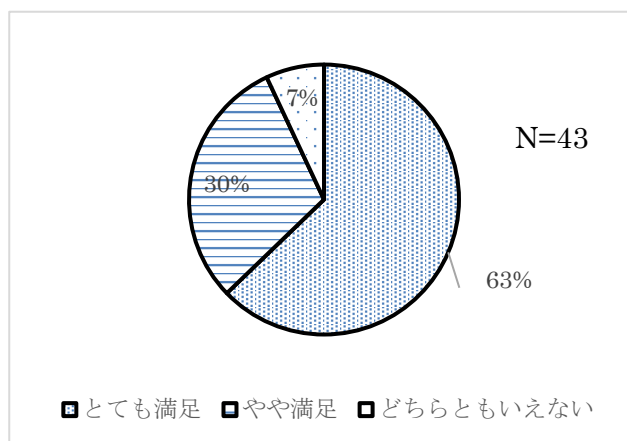


図2. 3月に同様の内容を行うことについて



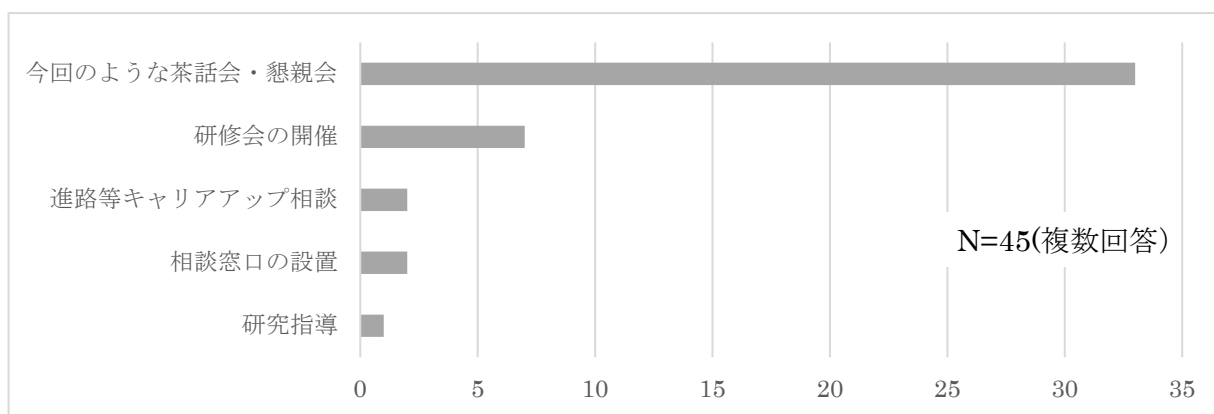


図 3. 希望する支援

茶話会終了後のアンケートでは、茶話会の内容に対する参加者の満足度は、68%が「とても満足」、「やや満足」は23%であり、「どちらともいえない」は7%であった（図1）。また、3月に同様の企画を行うことについては、参加者の63%が「とても満足」、30%が「やや満足」、7%が「どちらともいえない」と答えた（図2）。

大学が行う卒業生支援として希望するものは、今回のような茶話会・懇談会が最も多かった（図3）。

## 2) 茶話会以外の活動

卒1、卒2に加えて、卒3以上の卒業生からも本事業担当教員のもとに、就職先での人間関係や再就職等について延べ20件余りの相談（来学、メール、電話）があり、卒業生全体に対する支援が実施できたと考える。

## 2. 第2回茶話会

1) 令和3年3月6日（土）、卒1、2年目を対象にWebにて開催予定。

卒1、2年目の就職先46か所に、開催通知と対象者に配布してもらう茶話会案内チラシを同封し送付した。今後、開催に向けて準備を行う。

## Ⅲ. 今後の課題

アンケートの結果からも、本事業は卒業生にとって有用なものであることが示されており、今後も継続的に実施する事業に値すると考える。新型コロナウイルス感染症が収束しない時点での開催時には、各就職先に茶話会開催の趣旨をご理解いただき、参加に協力してもらうことが不可欠である。安心して参加していただけるよう感染予防を重視し、方法や内容を慎重に検討していく必要があると考える。

また、感染症拡大防止のために県境を跨ぐ移動や行動制限が設けられている卒業生がいるため、卒業生支援として茶話会の開催の他にも、メールやWebでの相談等を計画し、周知していく必要があると考える。

## 2. 卒業生支援プロジェクト

担当者：長谷川智之、斎藤真、岩田朋美、田端真、小林奈津美、坪谷直樹、長谷川明子

### 【事業要旨】

本事業は、卒業生相互の情報共有およびキャリアディベロップメントを支援することを目的に、同窓会と連携し各種事業を展開する。今年度は、①卒業生の動向調査、②卒業生を対象とした託児サービス付き公開講座および茶話会の実施、③昨年度からの継続事業を実施する。

### 【地域貢献のポイント】

本事業における地域貢献のポイントは3点挙げられる。1点目は、同窓会総会ならびに企画を本学で開催することを支援し、同窓会と大学の連携に貢献するとともに、卒業生が交流できる場を作ること、卒業生同士の情報共有に寄与することができる。2点目は、卒業生支援ネットワークを通じて、卒業生同士の情報共有およびキャリアディベロップメントに寄与することができる。3点目は、卒業生の活躍を在学生が知ることで、在学生の進路選択の一助となることができる。

### I. 活動計画

1. 事業実施者による意見交換会を開催し、事業実現に向けて検討する。
2. 卒業生支援の展開について、同窓会と意見交換会を開催する。
3. 卒業生の動向調査を実施する。
4. 卒業生を対象とした託児サービス付き公開講座および茶話会を実施する。

### II. 活動の結果と評価

#### <結果>

#### 1. 事業実施者による意見交換会

6月29日（月）に第1回会議を開催した。内容は、本事業の主旨、今年度の取り組みについてであった。今年度は日本看護学教育評価機構の定める評価項目の1つである卒業生調査について、学長から卒業生支援プロジェクトに実施の要望があったことから、本プロジェクトで取り組むことが決定された。同窓会総会および交流講演会の運営支援について、夢緑祭の開催中止に伴い、同窓会関連の事業も中止となることを確認した。卒業生を対象とした託児サービス付き公開講座および茶話会については、後述の通りである。第2回会議は年度末に開催予定である。

#### 2. 同窓会との意見交換会

12月13日（日）にZoomを使用し同窓会役員と意見交換会を行なった。内容は、後述する卒業生調査を実施するにあたり、本学と同窓会協同の事業とすることならびに調査に伴う予算負担について、今後の同窓会と本事業との連携の在り方について意見交換を行なった。検討の結果、卒業生調査は本学と同窓会の協同で行うことが決定した。また、今後の

同窓会企画に関して、卒業生をオンラインでつないだ意見交換会や、ウェビナーの開催について検討した。

### 3. 卒業生調査

本調査は、卒業生が看護職者等としてどのようにキャリアを形成し、現在、どのように働き、今後どのようにキャリアアップしていくことを希望しているかについて把握し、今後の大学運営・教育の改善及び卒後教育の充実ならびに同窓会活動に役立てるための基礎資料とすることを目的とした。8月から12月にかけて、5年前に実施された卒業生実態調査を現在の情勢に合わせて修正を行い、1月上旬に卒業生約1300名にアンケートを配布した。1月末日を回答期限とし、現在結果を分析中である。

### 4. 卒業生を対象とした託児サービス付き公開講座および茶話会の実施

卒業生を対象とした託児サービス付き公開講座および茶話会については、新型コロナウイルス感染症の影響により、公開講座の開催が未定であったこと、密を避ける観点から今年度の開催は見送ることを決定した。次年度以降に開催予定とする。

#### <評価>

今年度は新型コロナウイルス感染症による影響で、各事業を中止せざるを得ない状況であったが、事業実施者間で適宜メールによる意見交換を行い、卒業生調査を実施することができたこと、同窓会との意見交換が実施できたことから、年度計画としておおむね達成できたと評価する。

## Ⅲ. 今後の課題

今年度実施した卒業生調査の結果を事業計画に反映させ、同窓会と合同の卒業生支援事業の実施および評価を行なう。また、地域貢献のポイントの3点目に、在校生に対する同窓会周知を掲げているが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により予定の変更が相次ぎ、機会の確保等が困難で実施できなかったことから、在校生に対する同窓会の周知方法について検討する。



### Ⅲ．受託事業

- 1．三重県新人助産師合同研修
- 2．助産師（中堅者）研修
- 3．三重県認知症対応力向上研修
- 4．母子保健体制構築アドバイザー事業



# 1. 三重県新人助産師合同研修

担当者： 永見桂子、大平肇子、岩田朋美、市川陽子、辻まどか  
地域交流センター 川瀬浩子、中山莉子

## 【事業要旨】

三重県では、保健師助産師看護師法および看護師等の人材確保の促進に関する法律の改正に伴い努力義務化された新人看護職員研修の導入および実施を促進することをおして、助産師の離職防止・県内定着、資質向上を図っている。

本事業は、三重県の委託を受け、厚生労働省策定の新人看護職員ガイドラインにおける、新人助産師が就労後1年間で到達すべき助産技術の到達目標、助産技術を支える要素「母子の医療安全の確保」、「妊産褥婦および家族への説明と助言」、「的確な判断と適切な助産技術の提供」に則り、三重県内の医療施設で働く新人助産師の臨床実践能力育成を支援することを目的とする。

## 【地域貢献のポイント】

三重県内の医療施設で働く新人助産師の学習ニーズに応え、継続的な卒後教育プログラムの提供をおして臨床実践能力育成を支援することにより、新人助産師のキャリアディベロップメントに資する。

三重県内の医療施設で働く新人助産師の臨床実践能力育成を支援することにより、地域住民に提供される看護の質向上に寄与する。

## 【昨年度からの課題】

新人助産師が、助産師としてのモチベーションを維持しながら、主体的・積極的に学び続けることができるよう、継続的に助産師としての成長を支える機会を提供する。

## I. 活動計画

三重県より「令和2年度三重県新人助産師合同研修事業」を受託し、三重県内の医療施設で働く新人助産師を対象とした4日間の研修をおして、新人助産師が就労後1年間で到達すべき助産技術修得を支援する。昨年度の研修内容・運営方法等の評価に基づき、今年度も「新人助産師集合!!三重の仲間で“わかち合い”“みがき合い”“高め合おう”」をテーマに、新人助産師の実践能力獲得を支援し、新人助産師同士の交流を深め、助産師としてのモチベーションを高めることを目標とした。

新型コロナウイルス感染拡大の影響をふまえ、本学の方針に従い、感染防止対策を徹底するとともに、講義形態も対面形式とオンライン形式を併用することとした。県内在住の講師による講義・演習は対面形式とし、県外在住の講師による講義・演習は所属先等からオンラインでつなぎ、研修参加者は大学に集合して受講することとした。

なお、12月現在の三重県内での新型コロナウイルス感染拡大状況をふまえ、研修参加者には受講にあたり、事前に対面・オンライン形式のいずれかを選択できるよう配慮した。また、アンケート実施にあたって Microsoft Teams を活用することとした。

## < 重点課題および数値目標 >

1. 昨年度の研修参加者への調査結果を令和2年度卒後教育プログラムに反映できる。
2. 継続的な卒後教育プログラムの提供に向けて三重県内医療施設の産婦人科医、小児科医、助産師等関連専門職者との連携を強化できる。
3. 新人助産師同士の交流を深めることができ、研修修了後には助産師活動の現状や課題を共有できた、専門職者として研鑽し続けたいなどの回答が得られる。
4. 新人助産師30名程度が参加し、各日とも90%以上の出席率を確保できる。

## Ⅱ. 活動の結果と評価

### < 結果 >

#### 1. 研修プログラムについて

令和2年12月12日（土）、令和3年1月10日（日）、2月7日（日）、3月7日（日）の4日間の研修プログラムを企画し、2日目まで実施した（表1）。

表1 令和2年度三重県新人助産師合同研修プログラム

日程・場所	午 前（10：00～12：00）		午 後（1・2日目13：00～16：00、3・4日目13：00～15：30）
12月12日 （土） 1日目 第1情報処理教室	研修開始にあたって	感染看護の実際 【オンライン講義】	母乳育児への支援の実際 【オンライン講義・演習】
	地域交流センター	浜松医科大学医学部看護学科 教授 脇坂 浩	関西国際大学保健医療学部看護学科 教授 松原まなみ
1月10日 （日） 2日目 大講義室	社会的ハイリスク妊産婦の看護・周産期母子ケアにおける連携 【講義・演習】		MFICUでの妊産婦の看護 【講義】
	三重県立総合医療センター 看護部長 佐藤 里絵		国立病院機構 三重中央医療センター 副看護部長 鈴木 薫 副看護部長 東 真由美
2月7日 （日） 3日目 大講義室	早期新生児のアセスメント・異常の評価と対応 【講義・演習】		ケースシナリオを用いたグループディスカッション 【講義・演習】
	国立病院機構三重中央医療センター 総合周産期母子医療センター 新生児科医長 内田 広匡		国立病院機構三重中央医療センター 医療安全係長・新生児集中ケア認定看護師 栗本 淳子 副看護部長・新生児集中ケア認定看護師 廣野 絵美
3月7日 （日） 4日目 大講義室	産婦人科診療ガイドラインにもとづく緊急時の対応 【講義・演習】		事例検討をとおした助産師の判断と看護実践 【演習】
	国立病院機構三重中央医療センター 総合周産期母子医療センター 部長 前川 有香		国立病院機構三重中央医療センター 総合周産期母子医療センター 部長 前川 有香 副看護部長 鈴木 薫 副看護部長 東 真由美

研修初日には、新型コロナウイルスの感染予防と対策を中心に「感染看護の実際」を学び、産科・NICUにおける感染対策の基本について理解を深める。「母乳育児への支援の実際」では、事例をもとに授乳困難の原因や哺乳行動のメカニズムを理解し、母子・家族のトータル支援としての総合母乳育児について考察する。2日目には、臨床での体験事例をもとに「社会的ハイリスク妊産婦の看護の実際・周産期母子ケアにおける連携」、「MFICUでの妊産婦の看護」、「ハイリスク新生児の看護」について理解を深め、助産師の果たす役割を考える機会とした。3日目には、「早期新生児のアセスメント・異常の評価と対応」について学び、「ケースシナリオを用いたグループディスカッション」をとおして、早期新生児のアセスメントのポイントを言語化し、適切な看護方法を導き出すプロセスを共有するとともに、チーム医療に求められるコミュニ



ケーション能力強化を目指している。さらに4日目には、「産婦人科診療ガイドラインにもとづく緊急時の対応」について、CQのポイントを臨床場面に照らして整理し、周産期医療ケアにおけるガイドラインの意義と母子の医療安全について理解を深める。また、「事例検討をとおした助産師の判断と看護実践」では各所属施設で出会った困難事例について討議し、対象の特性や状況に応じた医療的介入・助産ケアの選択と応用について考察することとしている。

## 2. 研修参加者の受講状況について

10月に県内医療施設108施設（病院21施設、診療所45施設、助産所42施設）、教育機関4施設に開催案内を送付し、参加者を募集した。応募者は28名であり、2日目までの皆出席者は26名（92.9%）、1日のみ2名（7.1%）であった。研修各日の出席者数と出席率（出席者／応募者）は、1日目27名（96.4%）、2日目27名（96.4%）であり、出席者のうち授業形態としてオンライン形式を選択した者は、1日目2名（7.4%）、2日目6名（22.2%）であった。研修参加者のうち、看護師の臨床経験を有する者は4名（1年1名、2年1名、4年1名、11年1名）であった。就業場所は病院22名（うち周産期母子医療センター14名）、診療所6名であった。研修2日目までの時点（回答者28名）で分娩介助経験ありと回答した者21名（75.0%）、なしと回答した者7名（25.0%）であり、分娩介助経験なしと回答した理由は、「病院の方針で分娩介助は2年目以降」、「本来なら実施時期だが進捗が遅れている」、「新生児・婦人科業務を先に行っている」などであった。研修参加者は28名であり、数値目標の新人助産師30名程度の参加、90.0%以上の出席率を確保することができた。

## <評価>

### 1. 研修参加者の自己評価について

研修初日には、助産師としての自らの課題を明確にし、学習の方向性を明らかにするため自己評価シートへの記載を求め、27名から回答を得た。

なりたい助産師像として「母子や家族に寄り添える」、「信頼関係を築き安心してもらえる」、「母子の安全を守ることができる」、「様々な人の価値観を受けとめられる」、「他者に依存することなく自分で考えて行動できる」、「緊急時に冷静に対応できる」などが挙げられた。自分自身の課題として「知識不足・技術不足・経験不足」、「臨機応変に動けない・時間がかかる」、「積極性のなさ・依存的」、「報告・コミュニケーション力の拙さ」、「相談・自己開示のできなさ」などが挙げられた。研修前の学習ニーズ・研修への期待として「新たな知識・より深い知識の獲得」、「助産師に必要な基礎的な知識や技術の再確認」、「実践に活かせる知識・技術の獲得」、「助産師としての自覚・助産観の醸成」、「他施設の助産師との交流・仲間づくり」などが挙げられており、助産実践能力の向上のみならず、助産師同士の交流をとおして日常業務のなかでの悩みの解決、助産師として働くモチベーションの維持を期待していた。

今後、研修修了時にも自己評価シートへの記載を求め、研修初日に実施した自己評価シートへの記述内容を振り返り、研修前後で何が変わったのかあるいは変化しなかったのか省察するよう勧める予定である。

### 2. 研修に関する評価について

研修各日終了時のアンケートへの回答者（回収率）は、1日目27名（100%）、2日

目 27 名（100％）であった。

研修内容が期待通りであったかについては、1 日目には期待通り 14 名（51.9％）、まあまあ期待通り 13 名（48.1％）であり、その理由は「現在のコロナの状況下、医療者として知っておくべき知識や感染対策について学べた」、「母乳育児について理解でき、さらに学習を進める意欲が増した」などであった。2 日目は期待通り 19 名（70.4％）、まあまあ期待通り 8 名（29.6％）であり、その理由は「普段の仕事に直結する内容だった」、「今までの学びの振り返りや知らないことも学べた」などであった。

研修をとおして今後学習を深めたいこととして、1 日目には「現時点でコロナウイルス患者も増加しているので、どのように予防することが大切かを考えて、学習を深めていきたい」、「母乳育児支援について母親の思いを大切にしながらの関わりについて学んでいきたい」、2 日目には「患者からの訴えに対して、もっとアセスメントを深めることができるように主要となってくる疾患の知識をつけなければいけない」、「社会的ハイリスクへの関わりについて、退院後の継続的なフォローや地域他職種との連携について学習を深めて課題を見つけない」などが挙げられた。

研修をとおして日常の看護（助産）に役立てられそうなこととして、1 日目には「時間ではなくこころをかけるということ」、「背部のマッサージやタッチングについてすぐに実践したい」、2 日目には「主要な疾患とそれに対する看護や社会的ハイリスク妊婦に対する関わりについてじっくり考えることができたので臨床で生かしていきたい」、「新生児のケアに苦手意識があるので、今日の話を参考に関わっていけるようにしたい」などが挙げられた。

研修会運営については、1 日目にはよい 14 名（51.9％）、まあまあよい 12 名（44.4％）であり、その理由は「初めてのオンライン受講であったが、実際に講義を受けているようでわかりやすかった」、「さまざまな内容について考えて学ぶことができた」などであった。一方、あまりよくない 1 名（3.7％）であり、その理由は「リモートでのやり取りがもう少しスムーズにしていけたらよかった」であった。2 日目にはよい 20 名（74.1％）、まあまあよい 7 名（25.9％）であり、「オンラインでも話し合いに参加できた」、「施設ごとの発表をとおしてそれぞれの施設の現状を知ることができ、助産師に必要となるさまざまな知識を学ぶことができた」、「感染対策も徹底されており、安心して参加できた」などの理由が挙げられた。なお、寒冷期に感染防止対策をとりつつ適温を保つことが困難であり、「換気のためとはいえ寒かった」との声もみられた。

### Ⅲ．今後の課題

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、本研修の開催時期・方法・内容を工夫しつつ、ようやく半ばに至ったところである。新人助産師は周産期医療・助産ケアに関わる知識・技術の修得・向上だけでなく、助産師同士の交流を深め、助産師としてのモチベーション維持につながる研修を望んでいる。対面とオンラインの併用という受講形態での限界もあるなか、所属施設を越えた助産師同士の交流によるつながりを強化し、助産師としての自覚や助産観を高め合う仲間としての関係性を醸成していくことが課題である。

## 2. 助産師（中堅者）研修

担当者： 永見桂子、大平肇子、岩田朋美、市川陽子、辻まどか  
地域交流センター 川瀬浩子、中山莉子

### 【事業要旨】

三重県では、周産期医療の現場において慢性的な助産師不足、地域特性に基づく助産師の偏在などの課題を抱えており、助産師の県内定着・継続就業支援に向けた取り組みがなされてきた。県内で就業する助産師が、妊産婦の多様なニーズに応え、質の高い助産ケアを提供し、さらに関係職種と連携・協働するためには、助産師の学習ニーズや成長過程に応じた研修体制を整備し、助産実践能力獲得を支援することが必要である。

本事業は、三重県の委託を受け、県内で就業する中堅層以上の助産師を対象とした研修を企画し提供することにより、助産師の自律、実践能力向上に資することを目的とする。

### 【地域貢献のポイント】

三重県内で就業する中堅層以上の助産師の学習ニーズに応え、継続的な卒後教育プログラムの提供をととして臨床実践能力や助産師育成能力の獲得を支援することにより、助産師のキャリアディベロップメントに資する。

三重県内で就業する中堅層以上の助産師の臨床実践能力や助産師育成能力の獲得を支援することにより、地域住民に提供される看護の質向上に寄与する。

### 【昨年度からの課題】

研修参加者の確保が課題であり、中堅層以上の助産師の学習ニーズに応じた魅力ある研修としていく。助産師の就業場所・雇用形態などを考慮した学習方法・内容を工夫する。

### I. 活動計画

三重県より「令和2年度助産師（中堅者）研修事業」を受託し、三重県内の医療施設・教育機関で就業する中堅層（助産師経験年数概ね5年以上）の助産師を対象とした3日間の研修を実施する。昨年度の研修内容・運営方法等の評価に基づき、今年度も「助産師としての役割拡大をめざして～得意分野を広げよう～」をテーマに、周産期のクリティカルケア、ライフステージに応じた母子および女性の健康支援、専門職者の役割移行支援に関する研修を企画し、中堅層以上の助産師の自律、実践能力向上に資することを目標とした。

新型コロナウイルス感染拡大の影響をふまえ、本学の方針に従い、感染防止対策を徹底するとともに、講義形態も対面形式とオンライン形式を併用することとした。県内在住の講師による講義・演習は対面形式とし、県外在住の講師による講義は所属先等からオンラインでつなぎ、研修参加者は大学に集合して受講することとした。

なお、12月現在の三重県内での新型コロナウイルス感染拡大状況をふまえ、研修参加者には受講にあたり、事前に対面・オンライン形式のいずれかを選択できるよう配慮した。また、アンケート実施にあたって Microsoft Teams を活用することとした。

＜重点課題および数値目標＞

1. 昨年度の研修参加者への調査結果を令和2年度卒後教育プログラムに反映できる。

2. 研修参加者から、自らや就業施設の臨床実践能力や助産師育成能力の向上につなげることができるとの回答が得られる。
3. 研修参加者（実人数）30名程度、かつ各日とも80%以上の出席率を確保できる。

## Ⅱ. 活動の結果と評価

### ＜結果＞

#### 1. 研修プログラムについて

令和2年12月13日（日）、12月20日（日）、令和3年1月24日（日）の3日間（10：00～15：30）の研修プログラムを実施した（表1）。

研修初日には、助産師が日常のケア場面で出会う授乳困難を抱える母子をどう支えるか「母乳育児支援―困難事例への対応の実例―」について学び、切れ目のない包括的支援について考察する。「呼吸法と瞑想―こころとからだのリラクゼーション―」では、自律神経と呼吸の関係、瞑想の効果を実践的に学び、自らや他者を受容し物事を前向き捉える大切さを実感できる機会とした。2日目には、女性ケアの基盤となる「フィジカルアセスメント―乳房・腋窩・生殖器―」について理解を深め、助産師が生殖器のアセスメントを行う意義・役割について考察する。「役割移行支援の実例」では、母子とその家族の成長発達のプロセスに関わる助産師として自らの役割移行とキャリア発達について考える機会とした。3日目には、「周産期におけるDV被害者への支援」の原則を理解し、事例をとおして助産師に何ができるか考察する。「子育て支援―子ども虐待防止への専門性の発揮―」では、日頃の母子への関わりを振り返るとともに子育て支援の研究成果を手掛かりに助産実践への示唆を得る機会とした。

表1 令和2年度助産師（中堅者）研修プログラム

	午前（10：00～12：00）	午後（13：00～15：30）
12月13日 （日） （1日目）	母乳育児支援 ―困難事例への対応の実例― 【オンライン講義】	呼吸法と瞑想 ―こころとからだのリラクゼーション― 【講義・演習】
	関西国際大学保健医療学部看護学科 教授 松原まなみ	三重県立看護大学 准教授 清水真由美
12月20日 （日） （2日目）	フィジカルアセスメント ―乳房・腋窩・生殖器― 【オンライン講義】	役割移行支援の実例 【講義・演習】
	常葉大学健康科学部看護学科 教授 白石 葉子	三重県立看護大学 講師 上田 貴子
1月24日 （日） （3日目）	周産期におけるDV被害者への支援 【講義】	子育て支援 ―子ども虐待防止への専門性の発揮― 【講義・演習】
	四日市看護医療大学看護学部 准教授 日比 千恵	三重県立看護大学 教授 宮崎つた子

#### 2. 研修参加者の受講状況について

10月に県内医療施設108施設（病院21施設、診療所45施設、助産所42施設）、教育機関4施設に開催案内を送付し、参加者を募集した。応募者は1日目17名、2日目

13名、3日目10名であり、のべ応募者数は40名であった。応募者（実人数）18名の研修申込み日数の内訳は1日のみ5名、2日間5名、3日間8名であった。

研修各日の出席者数と出席率（出席者／応募者）は、1日目17名（94.4%）、2日目13名（100%）、3日目9名（90.0%）であった。出席者のうち授業形態としてオンライン形式を選択した者は、1日目11名（64.7%）、2日目8名（61.5%）、3日目5名（55.6%）であり、いずれも過半数を超える状況であった。研修参加者の就業場所は病院7名（うち周産期母子医療センター6名）、診療所5名、助産所3名、教育機関1名、その他2名であった。研修参加者は18名（実人数）であり、数値目標の30名程度には至らなかったが、各日とも80%以上の出席率を確保することができた。

#### <評価>

研修参加者のべ39名のうち、研修各日終了時のアンケートへの回答者（回収率）は、1日目14名（82.0%）、2日目7名（54.0%）、3日目6名（67.0%）であった。

研修内容が期待通りであったかについては、1日目には期待通り8名（57.1%）、まあまあ期待通り6名（42.9%）であり、その理由は「興味のある内容で、今の自分の考えと違う新たな考えを持っていかなければならないと考えることができた」、「事例をとおして具体的に学ぶことができた」などであった。2日目は期待通り3名（42.9%）、まあまあ期待通り2名（28.6%）であり、その理由は「フィジカルアセスメントを基礎から学ぶことができ、男性への支援も助産師として必要なことを知った」、「実際のケアに応用できそうだと感じた」などであった。一方、あまり期待通りでなかった2名（28.6%）であり、その理由は「役割移行支援とは母親役割や父性といった内容を題名から想像していたため」、「もう少し実践的な助産技術や知識もあればうれしい」であった。3日目には期待通り5名（83.3%）、まあまあ期待通り1名（16.7%）であり、「DVや虐待防止についての話をたくさん事例を交えて聞くことができ、勉強になった」、「実例を取り入れて実践的な講義がとても興味深く、大変面白かった」などの理由が挙げられた。

本研修が自身または就業施設の助産実践能力の向上につながるかとの問いに、1日目には大変そう思う7名（50.0%）、まあまあそう思う7名（50.0%）であり、その理由として「母乳育児支援の新しい情報や知識を学べ、とても役立った」、「仕事前後に呼吸法・瞑想をしようと思った」などが挙げられた。2日目には大変そう思う3名（42.9%）、まあまあそう思う4名（57.1%）であり、「授乳期に自己の乳房への関心が高まり、乳がんや自己触診について聞かれて戸惑うことも多いので、解剖生理、フィジカルアセスメントへと整理することができた」、「臨床でも積極的にフィジカルアセスメントの視点を持ってやってみたい」などが挙げられた。3日目には大変そう思う5名（83.3%）、まあまあそう思う1名（16.7%）であり、「研究結果や新型コロナ下の現状をふまえた支援の必要性を考える機会となった」、「第一印象や普段の様子からは把握できない家族背景もみようと頑張って関わり、あれっ？と気づけるような意識をスタッフみんなが持てるとよいなと改めて感じた」などが挙げられた。

研修をとおして得られた今後の課題として、1日目には「後輩に頼ってもらったときは一緒に母乳ケアをしていきたい」、「もっと幅広く勉強していかないといけない」、2日目には「具体的な事例や困りごとなど共有しディスカッションしてみたい」、「自

己のキャリアプランについて見直さなければいけない」、3日目には「機会があれば地域の多職種カンファレンスに自ら参加し、どのように地域とつながっていく支援ができるのか学んでいきたい」、「研究結果をアップロードして支援に活かす」などが挙げられた。今後開催を希望する研修内容として、「思春期の性教育」、「児の先天性疾患が見つかった母親等への精神看護」、「痛くない搾乳・マッサージケア」、「地域連携」、「助産師特有の内容」などが挙げられた。

研修会運営については、1日目にはよい9名(64.3%)、まあまあよい5名(35.7%)であり、その理由は「換気、感染対策、映像サポートなどが良かった」、「新型コロナの拡大状況をふまえてオンライン講義が選択できた」などであった。2日目にはよい6名(85.7%)、まあまあよい1名(14.3%)であり、「(講義時間外に)質問にも答えてくださり、助かった」、「感染対策がしっかりしており安心して受講できた」などの理由が挙げられた。3日目にはよい5名(83.3%)、まあまあよい1名(16.7%)であり、「会場だけではなくオンライン受講生の意見や現状をうかがうことができ有意義だった」、「時間通りに進行してくださったこと、オンラインの参加者への配慮もありがたかった」などの理由が挙げられた。

### Ⅲ. 今後の課題

今年度も「助産師としての役割拡大をめざして～得意分野を広げよう～」をテーマに、周産期のクリティカルケア、ライフステージに応じた母子および女性の健康支援、専門職者の役割移行支援に関する研修を実施した。研修参加者(実人数)は数値目標の6割であったが、出席率は全日90%を超えており、感染防止対策を徹底し、受講形態を各自の事情に応じて選択できるようにした点が好評であった。

来年度も新型コロナウイルス感染症の影響は否めず、引き続き、開催時期・方法・内容を工夫し、助産師にとって安心して受講できる環境を整え、魅力ある研修としていくことが課題である。



1日目「呼吸法と瞑想—ところとからだのリラックス—」



3日目「周産期におけるDV被害者への支援」

### 3. 三重県認知症対応力向上研修

担当者：地域交流センター 永見桂子、星野郁子、中山莉子

#### 【事業要旨】

本事業は、三重県の委託をうけ、病院勤務の医療従事者及び指導的立場の看護職員の認知症対応力向上のため、以下の研修を実施するものである。

#### 1. 病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修（半日研修）

三重県内の病院に勤務する医療従事者（医師、看護師等）に対し、認知症の人や家族を支えるために必要な基本知識や、医療と介護の連携の重要性、認知症ケアの原則等の知識について習得するための研修を実施することにより、病院での認知症の人の手術や処置等の適切な実施の確保を図ることを目的とする。

#### 2. 看護職員認知症対応力向上研修（3日間研修）

三重県内の指導的立場の看護師に対し、医療機関等に入院から退院までのプロセスに沿った必要な基本知識や、個々の認知症の特徴等に対する実践的な対応力を習得し、同じ医療機関等の看護職員に対し伝達することで、医療機関内等での認知症ケアの適切な実施とマネジメント体制の構築を目的とする。

#### 【地域貢献のポイント】

- 医療施設等の現場で認知症ケアに携わる医療従事者の質の向上に貢献する。
- 研修で培った専門的な知識や実践的対応力を共に働く看護職や他の職種の人に指導できる人材の育成に貢献する。

#### 【昨年度からの課題】

伊賀、南勢地域での開催について検討する。また、より多くの方に参加していただける工夫をする。

#### I. 活動計画

厚生労働省老健局長通知「認知症地域医療支援事業の実施について」の標準的なカリキュラムに基づき研修を実施する。

#### 1. 病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修（半日研修）

開催回数：5回（前年度は3回開催）

対象者：三重県内の病院で勤務する医師、看護師等の医療従事者

定員：1回あたり50名程度

会場：北勢地域（2か所）、伊賀地域（1か所）、南勢地域（1か所）の医療施設へ協力を仰ぎ、本学を含め5会場で実施する。

#### 2. 看護職員認知症対応力向上研修（3日間研修）

開催回数：1回

対象者：三重県内の医療施設で勤務する指導的立場の看護職員で、3日間の研修に全て参加し、研修受講後に自施設での研修を実施し実施報告書を提出する事ができる者

定 員：50 名程度  
会 場：三重県立看護大学

## Ⅱ．活動の結果と評価

### ＜結果＞

半日研修、3 日間研修ともに、新型コロナウイルス感染防止に配慮し受講者を前年の半数（50 名）として募集した。県内の約 200 施設（医療施設等）へ開催案内を送付し、申し込みを受けた順に受講者を決定し、申込担当者宛てに受講決定通知書を送付した。

受講する際には、体温測定 37.5℃以下であること、マスクの着用をお願いするとともに、演習ではフェイスシールドを着用した。また、新型コロナウイルスの感染拡大状況によってはオンライン開催に変更するなど、感染防止対策を講じながら開催した。

研修修了者には、三重県知事より修了証書が交付された。

### 1．病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修（半日研修）

- |        |                              |                     |
|--------|------------------------------|---------------------|
| 1）開催日  | 第 1 回：令和 2 年 11 月 6 日（金）     |                     |
|        | 第 2 回：令和 2 年 11 月 13 日（金）    |                     |
|        | 第 3 回：令和 2 年 11 月 28 日（土）    |                     |
|        | 第 4 回：令和 2 年 12 月 11 日（金）    |                     |
|        | 第 5 回：令和 3 年 1 月 15 日（金）     |                     |
| 2）会 場  | 第 1 回：三重北医療センターいなべ総合病院（いなべ市） |                     |
|        | 第 2 回：伊賀市立上野総合市民病院（伊賀市）      |                     |
|        | 第 3 回：町立南伊勢病院（南伊勢町）          |                     |
|        | 第 4 回：三重県立看護大学（津市）           |                     |
|        | 第 5 回：鈴鹿回生病院（鈴鹿市）            |                     |
| 3）受講者数 | 第 1 回：14 名（うち修了者数 14 名）      |                     |
|        | 第 2 回：35 名（うち修了者数 35 名）      |                     |
|        | 第 3 回：40 名（うち修了者数 40 名）      |                     |
|        | 第 4 回：24 名（うち修了者数 23 名）      |                     |
|        | 第 5 回：16 名（うち修了者数 13 名）      | <u>受講者合計数 129 名</u> |

### 4）アンケート結果

受講者アンケートによると、受講者の職種は、看護師が最も多く 67.2%であった。次いで介護福祉士 7.2%、理学療法士及び社会福祉士 4.0%、保健師及び検査技師 1.6%、医師 0.8%であった。その他 13.6%では、薬剤師、診療放射線技師、管理栄養士、看護助手、介護支援専門員等、多職種からの参加があった。受講理由（複数回答）は、「自己研鑽」44.8%が最も多く、次いで「認知症に興味がある」40.0%、「勧められた」34.4%の順であった。研修の全体評価では、とてもよかった（第 1 回 42.9%、第 2 回 48.6%、第 3 回 56.4%、第 4 回 58.3%、第 5 回 53.8%）、よかった（第 1 回 50.0%、第 2 回 51.4%、第 3 回 38.5%、第 4 回 41.7%、第 5 回 46.2%）を合わせて約 98%の回答があった



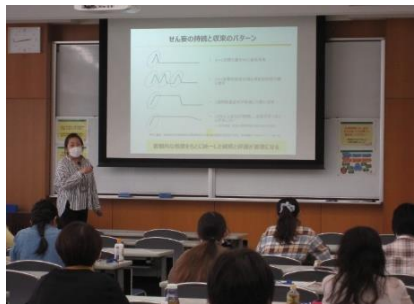


## 2. 看護職員認知症対応力向上研修（3日間研修）

- 1) 開催日：令和2年9月13日（日）、14日（月）、15日（火）
- 2) 会場：三重県立看護大学（津市）
- 3) 受講者数：41名（うち修了者数41名）
- 4) アンケート結果

三重県内の21医療施設から参加があった。地域としては北勢（7施設：11名）中勢（8施設：15名）南勢（5施設：14名）東紀州（1施設：1名）であった。

受講者アンケートによると、受講理由（複数回答）は「勧められた」が78.0%と最も多く、次いで「自己研鑽」31.7%、「認知症に興味がある」17.1%の順であった。研修の全体評価では、とてもよかった75.6%、よかった17.1%を合わせて92.7%の回答があった（無回答が7.3%）。



### <評価>

北勢、中勢、南勢、東紀州地域から参加があり、4医療施設の協力を得て研修が実施できたことから、広域的に認知症ケア等に係る知識の習得に寄与できたと考える。

## Ⅲ. 今後の課題

病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修については、医療施設の協力を仰ぐことで多職種の参加が得られやすい。特に演習では、多職種での意見交換により違う視点で考えることができ、多くの気づきを得ることができる。そのため、今後も医療施設へ直接出向き開催できることが望ましいと考えるが、未だ収束していない新型コロナウイルスの感染状況から、医療施設への負担も考慮する必要がある。

看護職員認知症対応力向上研修については、高評価を得られる研修でもあり、できるだけ多くの方に参加していただけることが望ましい。

いずれの研修についても、受講者の感染防止に充分努めるとともに、受講者数や開催時期など、より効果的な開催方法について慎重に検討したい。

（担当：星野）

## 4. 母子保健体制構築アドバイザー事業

担当者：地域交流センター 永見桂子、星野郁子

### 【事業要旨】

本事業は、三重県の委託をうけ、各市町における地域課題の分析及び事業評価、支援体制の整備、支援ネットワークの強化等、対象市町に応じた内容について、以下1又は2により、アドバイザーが必要な助言・指導を行うものである。

#### 1. 個別支援型アドバイザー派遣

市町からの申請に基づき、市町に必要な助言・指導等を行う。

#### 2. 広域支援型アドバイザー派遣

市町からの申請の有無にかかわらず、随時アウトリーチを行い市町の現状を把握し、課題や今後の取組み等を整理し、助言・指導等を行う。

### 【地域貢献のポイント】

○母子保健対策に携わる行政保健師の質の向上に貢献する。

○地域の実情に応じた体制づくりを支援し、県内の母子保健対策の充実に貢献する。

### I. 活動計画

三重県における母子保健体制構築アドバイザー事業実施要領に基づき事業を実施する。

#### 1. 個別支援型アドバイザー派遣

個別支援型アドバイザーによる助言・指導を希望する市町からの申請内容を審査し、三重県が認めたアドバイザーを選定して派遣（指導依頼）を行うものである。

#### 2. 広域支援型アドバイザー派遣

対象市町の選定基準は、三重県の母子保健計画「健やか親子いきいきプランみえ（第2次）」の指標である、「産婦健診・産後ケアを実施している市町数」及び「子育て世代包括支援センター設置市町数」について、未実施及び未設置の市町を中心に選定する。

### II. 活動の結果と評価

#### ＜結果＞

個別支援型アドバイザー派遣・広域支援型アドバイザー派遣ともに、三重県を通じて各市町に事業が周知された。個別支援型アドバイザー派遣では1町へ派遣を行った。広域支援型アドバイザー派遣では17市町を訪問した。また、現状把握の一環として「新型コロナウイルスの感染拡大に伴う市町母子保健事業の実施状況等に関する調査」を実施した。さらに、県・市町保健師を対象とした三重県主催の母子保健担当者会議へ出席した。

#### 1. 個別支援型アドバイザー派遣

1町から依頼があり6月に1回派遣を行った。内容は、子育て世代包括支援センターを設置し、現状のマンパワーで切れ目のない子育て支援体制の構築について検討するにあたり助言を求めるものであった。町保健師5名が参加し、事業評価、個別支援、ネッ

トワークの重要性等について助言・指導を受け今後の参考とした。

## 2. 広域支援型アドバイザー派遣

### 1) 新型コロナウイルスの感染拡大に伴う市町母子保健事業の実施状況等に関する調査

6月に調査を実施し、29市町(100%)から回答を得た。母子保健事業における住民を対象に実施した COVID-19 対策では、「事業を行う会場の換気」「手指消毒液の設置」「マスクの着用を依頼した」の3項目では29市町(100%)、「手洗いの励行を指導」「チラシの配布」の2項目では25市町(86.2%)で実施されていた。発生時の対応で困った事では「中止となった事業について住民への連絡に時間を要した」が16市町(55.2%)と多かった。

### 2) 母子保健担当者意見交換会

開催日	会 場	出席者数	内 容
7月16日(木)	鈴鹿保健所	11名	保健所、管内市町、中央児童相談所(鈴鹿、津のみ参加)、県庁子育て支援課の保健師等から母子保健に係る事業報告及び情報交換を行った。
7月28日(火)	津保健所	13名	
7月20日(月)	尾鷲保健所	14名	
8月24日(月)	伊勢保健所	17名	

\*尾鷲保健所での開催は熊野保健所との合同開催であった。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、桑名・四日市市・松阪・伊賀保健所については開催中止となった。

### 3) アドバイザー派遣(市町訪問)

地域	市	町
北勢地域	桑名市・いなべ市・四日市市・鈴鹿市	木曽岬町・東員町・菰野町・朝日町
中勢地域	津市・名張市	—
南勢地域	志摩市	大台町・南伊勢町・度会町
東紀州地域	尾鷲市	紀北町・紀宝町

8月から11月にかけて17市町を訪問。産婦健診・産後ケア未実施の市町9ヶ所について、令和3年度までに7ヶ所で開始予定であることを確認した。子育て世代包括支援センター未設置の市町3ヶ所については、今年度中に全市町で設置される予定であることを確認した。

## <評価>

個別支援型アドバイザー派遣は、業務の整理や今後の方針を見出すことができ、一定の成果が得られた。広域支援型アドバイザー派遣では、今後の取組への具体的な提案ができ、母子保健対策の充実に貢献できた。

## Ⅲ. 今後の課題

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、感染防止策を講じた母子保健事業の在り方が喫緊の課題である。また、感染状況等は各地域により異なり、地域性を考慮した事業展開が今後ますます求められる。個別支援型アドバイザー派遣と広域支援型アドバイザー派遣で得た情報を連動させ、母子保健体制の充実に反映させられるよう検討する。

(担当：星野)



#### IV. 認定看護師教育課程「認知症看護」

1. 認定看護師養成

2. 認定看護師フォローアップ研修



# 1. 認定看護師養成

担当者：小松美砂、永見桂子、星野郁子、山本理恵子、中山莉子

## 【事業要旨】

本教育課程は、看護の質向上及び看護職者のキャリア支援に向けた教育を行うことを目的とし、認知症看護分野において、実践の基盤となる科学的思考と熟練した看護技術を用い、看護師としての倫理観に基づいた役割機能を発揮できる人材を育成する。

## 【地域貢献のポイント】

認知症者とその家族の支援に関する最新の知識と技術を習得し、水準の高い看護実践を、共に働く看護職や他職種と協働して提供できる人材を育成することにより、医療施設等における認知症看護の質的向上に貢献する。

## 【昨年度からの課題】

研修生にとって充実した学修環境を確保できるよう、教育体制や実習環境を整備し、研修生の実践力を高めるための事業内容を検討し実施していく。特に、研修生が就学を継続できるよう、健康状態や勤務状況等に留意し、困難な状況が生じた場合には所属施設と共に早期に対応する支援体制を整える。

## I. 活動の実際

1. 教育期間：5月15日～2月19日
2. 授業時間：90分を1時限とし、原則1日5時限
3. 授業科目：

区分	科目	時間数（単位）
共通科目	医療安全学：医療倫理	16（1）
	医療安全学：医療安全管理	16（1）
	医療安全学：看護管理	16（1）
	臨床薬理学：薬理作用	16（1）
	チーム医療論（特定行為実践）	16（1）
	相談（特定行為実践）	16（1）
	指導	16（1）
	〔小計〕	〔112（7）〕
専門科目	認知症看護原論	16（1）
	認知症基礎病態論	16（1）
	認知症病態論（認知症の原因疾患と治療）	46（3）
	認知症に関わる保健・医療・福祉制度	16（1）
	認知症看護倫理	16（1）
	認知症者とのコミュニケーション	16（1）
	認知症看護援助方法論Ⅰ（アセスメントとケア）	46（3）
	認知症看護援助方法論Ⅱ（生活・療養・環境づくり）	30（2）
	認知症看護援助方法論Ⅲ（ケアマネジメント）	30（2）
	認知症者の家族への支援・家族関係調整	16（1）
	〔小計〕	〔248（16）〕

演習 および 臨地実習	学内演習 臨地実習	90 (3) 180 (4) 〔小計〕 〔270 (7)〕
合 計		630 時間   〔30 単位〕

#### 4. 令和2年度研修生の概要

- 1) 研修生：男性2名（7%）  
女性28名（93%）  
計30名、平均年齢39.8歳
- 2) 所属施設：病院29名（97%）  
その他（事業所）1名（3%）
- 3) 所属施設所在地：県内8名（27%）  
県外22名（73%）



講義室の新型コロナウイルス感染防止対策

## II. 活動の結果と評価

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、5月15日の入学式は中止し、授業については本学学部生と同様に、オンライン授業や課題提示等による自宅学習を進めた。7月4日からは土曜日のみ登校を開始し、体温および体調の確認、密を避けるための講義室等の調整、フェイスシールドの配布など感染防止対策を徹底した上で、一部の授業と科目試験を対面で実施した。

臨地実習については、高齢者施設における見学実習2日間のみ、感染防止のため課題およびオンラインでのプレゼンテーションに変更したが、実践実習については、研修生が在住するそれぞれの県内において実習施設を確保し、認知症看護認定看護師等の指導のもと、医療機関における5週間の臨地実習を行った。

再度の感染拡大に伴い修了試験は遠隔試験に、実習報告会および修了式はオンライン開催に変更したが、29名の研修生が2月に本教育課程を修了することができた。体調不良により休学中の1名については、修了時期の延期を検討している。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、遠隔授業を中心とした教育となったが、本学のオンラインシステムを活用し授業や面談等を実施できる体制を整え、研修生とのコミュニケーションを図った。また、臨地実習開始にあたり、図書館の医学系雑誌論文データベースを自宅でも利用可能にするなど、学生が自主的に学修できる環境の整備を行った。

令和2年度日本看護協会認定審査において、令和元年度修了生28名全員が合格したため、1期生から3期生の修了生全員が認定試験に合格し、本教育課程から88名の認知症看護認定看護師を育成することができた。また、合格者88名のうち45名（51%）は、三重県内の医療機関および高齢者施設等に所属する修了生であった。

認定看護師教育課程「認知症看護」は令和2年度で終了となるが、4年間の教育活動を通して、三重県の認知症看護の質的向上に寄与することができたと考える。



## 2. 認定看護師フォローアップ研修

担当者：小松美砂

地域交流センター 永見桂子、星野郁子、中山莉子

### 【事業要旨】

本教育課程修了生が自施設や地域において、より質の高い看護を実践するため、フォローアップ研修を実施する。研修においては、最新の知見や先駆的な活動を共有することによって、認定資格取得後の各自の活動を振り返り、自己研鑽だけでは補えない資質の向上を図る。

### 【地域貢献のポイント】

- 医療施設等の現場で認知症ケアの質の向上に貢献する。
- 研修で培った専門的な知識や実践的対応力を共に働く看護職や他の職種の人に指導できる人材の育成に貢献する。

### 【昨年度からの課題】

認知症看護認定看護師のネットワークづくりにつながる研修会を企画する。

### I. 活動計画

対象者：本学の認定看護師教育課程「認知症看護」修了者（88名）

研修日時：令和3年2月5日（金）13時～14時30分

2月6日（土）13時～14時30分

会場：オンライン研修（三重県立看護大学）

研修内容：新型コロナウイルス感染拡大により、特に県外在住の修了者の参加が困難な状況にある。より多くの修了生が参加できるよう、オンラインで認知症看護に関する講義を行う。

### II. 活動の結果と評価

<結果>

#### 1. 参加者の概要

参加者 61名。内訳としては、1期生 19名、2期生 21名、3期生 21名。

#### 2. 研修内容

2月5日（金） 特別講義「看護には力がある」

講師：菱沼典子（三重県立看護大学 学長）

2月6日（土） 特別講義「認知症看護認定看護師に期待するもの」

講師：富本秀和 氏（三重大学大学院医学系研究科 教授）

#### 3. 参加者アンケート

アンケート回収数 59（回収率 96.7%）

参加した理由（複数回答）としては、「自己研鑽」が最も多く 58人（98.3%）であった。

満足度では、とてもよかった 34 人 (57.6%) と、良かった 23 人 (39.0%) が全体の 96.6% を占めた。自由記載欄では、「DCN としての使命・あるべき姿について考えることができた」「看護とは、どのような時代でも環境下でも変わらないことを改めて考えることができた」等の感想がみられた。

また、COVID-19 の影響によりオンライン開催となったが、「COVID-19 に関する内容もあり、最新の知見を知ることができたのでよかった」「COVID-19 の知識が深められ、看護師としての役割を振り返ることができた」等、前向きな感想や、「コロナ禍でどう活動すべきか、どんな活動ができるのかなどと考えひとりで悶々としていましたが、基本を思い出す、今後の支えになる研修だった」等有益な研修であったことが伺えた。

<評価>

新型コロナウイルス感染拡大に伴い研修の機会も減っている中、オンライン開催できたことで、医療現場での認知症ケアの質の向上に貢献できたと考える。

### Ⅲ. 今後の課題

新型コロナウイルス感染拡大により集合研修の開催が困難な状況にある中で、認知症看護認定看護師のネットワークづくりに寄与できる研修企画を検討するとともに、取組が自主的な研修会に発展できるよう検討する。

(担当：星野)

## V．地域交流センター企画事業

### 1．講師派遣



# 1) みかん大出前講座

担当者：＜講師＞出前講座テーマ登録教員

＜運営＞地域交流センター

## 【事業要旨】

教員が、自身の教育、研究、社会活動の専門性や成果をもとに、保健・医療・福祉の専門家および県民を対象としたテーマを提案し、依頼に応じ、その講座を出張して行う。

## 【地域貢献のポイント】

- ・本学教員の研究や社会的活動の成果として看護・医療・健康に対する知識を、県民に還元するとともに、県民の看護・医療・健康への関心や意識を高める。
- ・看護職向けの講座を提供し、県内の看護の質向上に貢献する。

## 【昨年度からの課題】

- ・希望に沿えなかった依頼者への連絡を行う
- ・公開講座等を活用し、講師派遣のパンフレットを配布し周知の機会を増やす。

## I. 活動計画

### ＜数値目標＞

過去3年間(H29-R1)における出前講座の平均実施件数(70件)の半数以上の実施を目指す。参加者総数については、COVID-19の感染拡大防止のため少人数での開催になることを想定し、今年度は目標値として設定しない。

### ＜実施計画＞

#### 1. 昨年度からの変更点

- ・県民への周知の促進のため、講師派遣のパンフレットの配布先を増やす。昨年度までの送付先に加え、県内全域の地域包括支援センター、津市・隣接5市の子育て支援センター、認定こども園・幼稚園・保育園への送付を追加する。
  - ・「出前講座」から「みかん大出前講座」へと名称変更する。
  - ・講師派遣の案内パンフレットの配布は、三重県がCOVID-19による国の緊急事態宣言の対象区域から外れた後に、開始する。
  - ・講座の開催は、COVID-19の感染防止対策のため、本学出校停止全解除日の翌月の7月以降に設定する。開催希望日120日前までの申し込みが原則だが、今年度は申込開始時期の延期も考慮し、担当教員と調整のうえ、臨機応変に対応する。
  - ・依頼元への連絡内容に、COVID-19の感染防止対策の徹底と中止の判断に関する連絡を追記する。
  - ・申込開始、講座の開始とともに例年より遅れたことから、申込受付期限を延長する。
2. 5月初旬に講師派遣の案内パンフレットを作成し、5月下旬より県内各所に送付するとともに、本学ホームページに掲載する。
  3. 申込受付の期限は、令和2年11月27日から、12月21日へ延長する。
  4. 申込があった際には、担当教員と日程調整を行い、日時を決定する。

5. 講座の開催は、令和3年3月末日までとする。
6. 出前講座のうち、広く県民が参加できる公開の講座として依頼者から了解を得た場合は、本学ホームページで参加者を募り、公開講座として実施する。
7. テーマ毎の受付上限件数に達した場合は、本学ホームページに掲載し周知する。

## Ⅱ. 活動の結果と評価

### ＜結果＞

今年度の出前講座のテーマを表1に示す。【A 健やかな暮らしのために】のテーマ数は19、【B 将来の職業選択のために】のテーマ数は7、【C 高めよう保健・看護の力】のテーマ数は6であり、合計32テーマの登録があった。一般の対象は幼児から高齢者までと幅広く、専門職では、看護職を含む医療職、介護職、教員を対象としていた。

表1 令和2年度 みかん大出前講座のテーマ

分類	テーマ	対象
A 健やかな暮らしのために	タッピングタッチでこころと体をリフレッシュ	幼児～高齢者
	地域で育てよう！子どものやる気と自己肯定感	保護者、関係職員等、一般
	子育て・孫育てに役立つ基礎知識-子どもの成長発達と毎日の生活習慣-	保護者、関係職員等、一般
	思春期男子のこころとからだを理解しよう	主に中・高校生の男子に関わる方（中・高校生の男女可）
	知って防ごう熱中症	中学生～一般、看護職
	「普通」ってなんだろう	高校生、一般
	社会的活動としての話すこと・聴くこと	高校生、一般
	知っておきたい！「女性のこころとからだ」	一般
	呼吸法と瞑想で心と身体をすこやかに！	一般
	心肺蘇生法をマスターしよう！	一般
	VDT作業による疲労を防ごう！-快適な職場を旨ざすコンピュータ労働の人間工学-	学生、看護職、医療職、一般
	薬に関する四方山話	一般
	血栓症の発症原因とその治療薬	一般
	楽しく・おいしく減塩しましょう！	一般
	コケない・転ばない・折れないための足のケアを学ぼう	一般
	サルコペニアって何？	看護職、一般
	みんなで楽しく！スクエアステップ！！	一般
	自宅で介護が必要といわれたら	一般
	認知症介護の考え方と技術	一般
B 将来の職業選択のために	どんな仕事に興味があるかな	中・高校生（看護職志望でなくても可）
	看護の仕事について	小学生、中学生
	看護職（保健師、助産師）のお仕事を知ろう	中学生、高校生
	訪問看護師のお仕事を見てみよう	中学生、高校生
	大学で学ぶこと	高校生
	看護大学で学ぶ「看護技術」の授業	高校生
	母性看護専門看護師をめざしてみませんか？	学生、看護職
C 保健・高めよう看護の力	医療事故はなぜ起きる？-ヒューマンエラーを防ぐための人間工学-	学生、看護職、医療職、一般
	職場のメンタルヘルス	医療職
	知ってるようで知らない感染看護	医療・介護関連施設・教員、一般
	人工呼吸器装着中の看護	看護職
	WOC関連の困りごと相談室と実践を学ぼう	看護職
	認知症ケアの考え方と技術	看護職、介護職、医療職

申込件数は、58 件、実施件数は 39 件（2021.3 までの予定を含む）、中止 12 件、その他 7 件であった。その他 7 件について、うち 5 件は受付上限件数を越えたことによる受付終了や希望内容が出前講座のテーマ・内容に合わない等の理由でリクエスト講座を紹介し変更した講座であり、うち 2 件は講師との日程が合わず開催できなかった講座である。また、中止の 12 件は、COVID-19 の影響によりキャンセルの申し出を受け、中止した。中止となる講座も増える中、年度途中からは感染防止対策として、依頼元の要望に合わせ、オンラインによる講座にも対応した。実施件数は 39 件と過去 3 年間の実施件数(70 件)の半数を超えたが、参加者総数は、1,028 名(2020.1.31 現在)であり、昨年度参加者総数(2,578 名)の半数以下となった。

今年度の出前講座の実績を表 2 に示す。出前講座のテーマ分類別では【A 健やかな暮らしのために】が 20 件、【B 将来の職業選択のために】が 7 件、【C 高めよう保健・看護の力】が 12 件であった。出前講座のうち、公開の講座として予定したものが 5 件あったが、COVID-19 の影響によりうち 2 件は中止となり、うち 1 件は感染防止対策のため公開を中止した。

表 2. 令和 2 年度 みかん大出前講座実績

分類	テーマ	実施数	依頼元	参加者
A 健やかな暮らしのために	地域で育てよう！子どものやる気と自己肯定感	3	一般	保護者
	子育て・孫育てに役立つ基礎知識-子どもの成長発達と毎日の生活習慣-	2	行政機関	保健師、保育士、教育委員会職員、保護者、一般
	思春期男子のこころとからだを理解しよう	2	教育機関	特別支援学校高等部の生徒
	社会的活動としての話すこと・聴くこと	3	社会福祉関連機関、ボランティア団体	生活介護支援サポーター、包括支援センター職員、ボランティア団体役員
	知っておきたい！「女性のこころとからだ」	1	教育機関	特別支援学校高等部の生徒
	呼吸法と瞑想で心と身体をすこやかに！	1	一般	60歳以上の一般
	心肺蘇生法をマスターしよう！	2	企業	会社従業員
	薬に関する四方山話	1	社旗福祉関連機関	生活介護支援サポーター、包括支援センター職員
	血栓症の発症原因とその治療薬	2	社旗福祉関連機関	一般
	コケない・転ばない・折れないための足のケアを学ぼう	1	社会福祉関連機関	一般
B 将来の職業選択のために	認知症介護の考え方と技術	2	一般	民生委員等一般、包括支援センター職員、認知症サポーター
	どんな仕事に興味があるかな	2	教育機関	中学2年生
	看護の仕事について	2	教育機関	中学2年生、中学校教員
	看護職（保健師、助産師）のお仕事を知ろう	2	教育機関	高校1、2年生
C 高めよう保健・看護の力	大学で学ぶこと	1	高校生	
	医療事故はなぜ起きる？ーヒューマンエラーを防ぐための人間工学ー	2	医療機関、社旗福祉関連機関	看護師、介護士、一般、生活支援員、福祉関連事務職員
	職場のメンタルヘルス	3	医療機関	看護師、看護補助員、介護福祉士、看護管理者、コメディカル
	知ってるようで知らない感染看護	3	医療・介護関連施設・教員、一般	高齢者、介護士、看護師、調理員、介護支援専門員、包括支援センター職員
	WOC関連の困りごと相談室と実践を学ぼう	3	医療機関、社会福祉関連機関	看護師、介護士、介護福祉士、栄養士、介護支援専門員
	認知症ケアの考え方と技術	1	医療機関	

要望の多かった講座は、「知ってるようで知らない感染看護」、「医療事故はなぜ起きる？ーヒューマンエラーを防ぐための人間工学ー」、「社会的活動としての話すこと・聴くこと」であったが、テーマの受付上限数に達し受付できなかったもの、COVID-19 の影響により中止になったものがあった。

依頼元の分類別にみると、医療機関が 6 件、社会福祉関連機関 13 件、教育機関 11 件、行政機関 2 件、その他 7 件であった。医療機関においては、コロナ禍の特殊な状況下での看護や厳重な感染防止対策等による看護職の精神的なストレスについても相談が寄せられ、「職場のメンタルヘルス」の開催件数が多かった。また、中学校、高校からは、COVID-19 の感染防止のため例年実施している職業体験や課外授業ができないとの理由で、「看護の仕事について」、「どんな仕事に興味があるかな」、「大学で学ぶこと」等のテーマへの申し込みがあり、教育機関の申し込み件数は増加した。社会福祉関連機関においては、今年度の申込開始直後より「知ってるようで知らない感染看護」の申し込みが相次いだ。行政機関の 2 件は「子どもの自己肯定感を高める関わり方」等の子育てに関する講座であった。その他の 7 件は、ボランティア団体や児童福祉関連のサークル、企業等であった。申込の際には、COVID-19 の影響で、県外からの講師による研修会や講演会が困難なため、県内の講師を探しているといった声やコロナ禍にも開催できる講座はないか探しているという声が複数寄せられた。

終了後のアンケートへの協力は、934 名(1.31 現在回収分まで)より得られ、全参加者の 93.7%より回答が得られた。講座への満足度は、「とてもよかった」が 686 名(73.45%)、「よかった」が 236 名(25.27%)であった。「あまりよくなかった」が 7 名(0.08%)「よくなかった」が 1 名あったが、その理由は、「問題解決は難しい」、「恥ずかしかったけど勉強になった」、「(講座中の適正チェック項目)に当てはまるものが少なく答えにくかった」等であった。無回答は、4 名であった。アンケートの自由記載においては、【A 健やかな暮らしのために】では、「専門の先生の詳しいお話を聴くことができて日頃の生活に役立てることができそう」、「タイムリーな話題で参考になった」等の感想があった。【B 将来の職業選択のために】では、「今回の話を聞いてなりたい職業について、もっと調べたり、なるための努力をしたいと思います」、「いろいろな仕事について知れたので、また自分でも探してみようと思う」、「実際に看護師の経験がある人の経験談を聴ける貴重な機会だった」等、職業選択への前向きな言葉が聞かれた。【C 高めよう保健・看護の力】では、「具体例やデータが示され興味深く聴くことができた」、「日常の中でよりよいケアを提供するための技術を教えていただけて、とても良かった」等、専門的な知識や技術を伝える好評な講座であることがうかがわれた。また、オンラインの講座についても、「感染リスクを減らせてよかった」、「時期的にはリモートで安心だった」、「普段の講義と変わらず聞きやすかった」との感想があった。

#### < 評価 >

実施件数、参加者総数ともに過去 3 年間より減少したが、これについては、COVID-19 の感染防止のための、対面でのイベントの自粛、参加人数の縮小などの対策が影響していると考えられる。しかし、数値目標である過去 3 年間の出前講座の平均実施件数の半数を超える実施ができ、また、申込時に寄せられた県民の声からも、コロナ禍においても、オンラインへの対応、少人数の講座への対応等、感染防止対策を十分にとったうえで講座を開催することで、県民のニーズに応えることができたのではないかと考えられる。

また、アンケートの結果より、講座への満足度は高く、また、自由記載の内容から、



本学教員の看護・医療・健康に対する知識の提供を通して、県内の医療、介護に関わる専門職だけでなく、地域住民、地域で働く人の健康への知識の獲得や意識の向上へ幅広く貢献できたと評価する。特に、感染看護やストレスに関するテーマは、COVID-19の影響により前例なく厳しい状況下で医療や介護に従事する県民のニーズにも応じることができたのではないかと考える。

### Ⅲ．今後の課題

次年度も COVID-19 による影響は続くことが予測されることから、感染防止対策としてオンラインによる講座にも積極的に対応できるよう講座のあり方を検討する必要がある。

（担当：長谷川明）

## 2) みかん大リクエスト講座

担当者：＜講師＞全教員

＜運営＞地域交流センター

### 【事業要旨】

みかん大出前講座のテーマに該当しない講師派遣について、県民から要望のあったテーマ・内容に応じて講師を派遣し、有料で出張講座を行う。

### 【地域貢献のポイント】

- ・みかん大出前講座に該当しないテーマに対し、「みかん大リクエスト講座」により依頼に応じることで、広く県民の要望に応えることができる。
- ・看護職向けの講座の依頼に応じ、県内の看護の質向上に貢献する。

### 【昨年度からの課題】

- ・県民によりわかりやすい活動とするため、名称の変更、活用例の紹介を行う。

## I. 活動計画

### ＜数値目標＞

過去3年間(H29-R1)における講師派遣の平均実施件数(26件)の半数以上の講座を実施する。参加者総数については、COVID-19の感染拡大防止のため少人数での開催になることを想定し、今年度は目標値として設定しない。

### ＜実施計画＞

#### 1. 昨年度からの変更点

- ・名称を「その他の講師派遣」から「みかん大出前講座」へ変更する。
- ・講師派遣の案内には、前年度の講師派遣テーマ一覧表を載せ、活用例を紹介する。
- ・講師派遣の案内パンフレットの配布は、三重県がCOVID-19による国の緊急事態宣言の対象区域から外れた後に、開始する。
- ・講座の開催は、COVID-19の感染防止対策のため、本学出校停止全解除日の翌月である7月以降に設定する。
- ・依頼元への連絡内容に、COVID-19の感染防止対策の徹底と中止の判断に関する連絡を追記する。

- ・申込開始、講座の開始ともに例年より遅れたことから、申込受付期限を延長する。

#### 2. 5月初旬に講師派遣の案内パンフレットを作成し、5月下旬より県内各所に送付するとともに、本学ホームページに掲載する。

#### 3. 申込受付の期限は、令和2年11月27日から、12月21日へ延長する。

#### 4. 申し込みのあったテーマや内容に合わせて、教員を選出し、依頼元と教員双方の条件が合致した際には、日程・テーマを決定し講師を派遣する。講座までの準備期間には、依頼元と教員間で講座の内容等について直接調整をすすめる。

#### 5. 講座の開催は、令和3年3月末日までとする。

## Ⅱ．活動の結果と評価

### < 結果 >

今年度の派遣先分類別リクエスト講座の実績を表 1 に示す。

申込み件数は 21 件、実施件数は 17 件であり、他 4 件は、COVID-19 の影響によりキャンセルの申し出を受け、中止した。過去 3 年間 (H29～R1) における講師派遣の平均実施件数 (26 件) を下回り、参加者総数も 586 名と昨年度参加者総数 824 名を下回る結果となった。今年度は COVID-19 の感染防止対策として、依頼元の希望に合わせ、オンラインによる講座にも対応した。なお、キャンセルの申し出があった 4 件のうち 3 件には、オンラインでの対応も可能であることを伝えたが、リモート環境が整わないとの理由から中止となった。

派遣先は医療機関が最も多く 11 件、次いで教育機関 2 件であり、中止となった 4 件も医療機関であった。テーマ・内容は、実践 5 件、教育 4 件、研究 2 件であった。また、医療機関の中には、数年にわたり継続して、同じテーマで講座を申し込む施設も複数みられた。一方で、教育機関・企業・その他からの新規申し込みも 5 件あり、申し込みの際には、講師派遣の案内パンフレットやホームページ上に掲載した前年度の講師派遣テーマ一覧表を参考にしながら、テーマ・内容についての相談があった。

終了後の各講座の評価は、アンケートを実施できた 9 件のうち、8 件において、「とてもよかった」「よかった」の肯定的評価が 100%であった。肯定的評価が 100%とならなかった 1 件の講座の否定的評価は 1 名であり、その評価理由についての記載はなかった。コロナ禍の生活に役立つ講座として、「熱中症 with 新型コロナウイルス」、「学校における感染症の予防と対策」といった講座を実施した。「熱中症 with 新型コロナウイルス」では、「熱中症対策と新型コロナウイルス対策のポイントとその関連性がよくわかった」等の感想が聞かれた。また、「学校における感染症の予防と対策」については、会場から講師と個々の参加者をオンラインでつなぎ、講座を開催したが、「画面の資料は見やすく、声も聴きとりやすかった」「『密』を避けていてよかった」「この状況下では、オンラインであっても講義が聞けてよかった」等の感想があった。

### < 評価 >

実施件数は、過去 3 年間の平均実施件数の 7 割以下に減少し、参加者総数の大幅に減少したが、これについては、COVID-19 の感染防止のための、対面でのイベント等の自粛、参加人数の縮小などの対策が影響していると考えられる。実施件数、参加者総数は減少したものの、COVID-19 の感染拡大状況等をふまえつつ、依頼者の要望に合わせ、中止またはオンライン講座での対応をとり、ニーズに合わせた講座の実施ができたと考える。また、各講座への参加者による評価は高く、COVID-19 関連の講座の開催など、昨今の状況に応じた内容にも対応し、好評であった。

申し込みは、医療機関が全申し込みの 7 割を超え、医療機関における講座のテーマ・内容は、実践・教育・研究、それぞれの側面から展開されていることから、看護職者のニーズに合わせた講座を開催し、県内の看護の質の向上に貢献することができたのではないかと考える。また、その他の申し込みは、前年度の講師派遣テーマを参考に問い合わせがあり、それぞれの組織の課題や問題に応じてテーマ・内容を調整し、講座を開催することができたことから、前年度実施例の提示は県民の要望を汲み取ることに効果的

であったと考える。

表 1 令和 2 年度 派遣先分類別リクエスト講座の実績

派遣先 分類	テーマ	参加人数 (名)	肯定的評価 の割合(%)
医療機関	新キャリアラダー評価の検討会（4回）	28	開催中
	看護研究（2回）	16	100.0
	形態機能学を活かした看護実践（2回）	37	100.0
	フィジカルアセスメント～呼吸・循環～	28	100.0
	フィジカルアセスメント～呼吸・循環～新人編	31	96.7
	コーチングの基本	12	100.0
行政機関	子どもの家庭福祉	20	100.0
教育機関	学校における感染症の予防と対策	46	100.0
	思春期のころとからだ	275	—
企業等	健康寿命をのばそう！～食生活を中心に生活習慣を改善する～	19	100.0
	健康寿命をのばそう	50	—
	熱中症 with 新型コロナウイルス ～急変時対応も含めて～	24	100.0

### Ⅲ．今後の課題

今年度はリモート環境が整わず、中止となった講座もあったが、次年度も COVID-19 による影響は続くことが予測されることから、感染防止対策としてオンラインによる講座にも積極的に対応できるよう講座のあり方を検討する必要がある。

（担当：長谷川明）

## 2. 看護研究支援



# 1) 看護研究 S E E D (集合研修)

担当者： <講師> 脇坂浩、大川明子、上田貴子、関根由紀、長谷川智之、  
別當直子（株式会社紀伊國屋書店）  
<運営> 地域交流センター

## 【事業要旨】

看護職者の研究基礎能力を培うことを目的に、看護研究の基礎知識に関する研修を実施する。

## 【地域貢献のポイント】

県内の看護職者が、看護研究の基礎知識に関する研修を受講することにより、研究的思考や研究遂行能力の礎を築く。また日常の看護業務の中から研究テーマを見出すことによって、看護研究へ取組む意欲を高め、研究を実践し、結果看護の質の向上につながる。

## 【昨年度からの課題】

- ・受講者の興味を得るような科目の構成の見直しとよりわかりやすい講座等の企画
- ・間隔を空けての開催スケジュールの計画

## I. 活動計画

<数値目標>

- ・ COVID-19 感染症拡大防止対策のため、使用講義室の最小定員（56 名）の半数（28 名）程度を目指す。

<実施計画>

### ・昨年度からの変更点（昨年度の課題を含む）

1. 旧：看護研究の基本 STEP 研修に、新規テーマ「看護研究における倫理的配慮」と「研究デザインのタイプと選択」を加え、看護職者が日常の業務の中から疑問を見出し、スムーズに看護研究へ取りくめるよう企画した。また、次のステップである研究実践能力の向上のための「ハウツー看護研究」事業につながるよう「量的研究（実験・計測）」のテーマも加えた。事業名を、受講者に看護研究の種を届けることを願い、「看護研究 SEED」と改名した。
2. 受講方法に「単回受講コース」を加え、受講しやすくした。
3. 間隔を空けての開催スケジュールを目指し、半月に 1 回を目安に調整した。
4. COVID-19 感染症拡大防止対策のため、研修開始を本学出校停止全解除日 1 週間後の 6 月 22 日以降とし、実施時は学内基準に基づき、感染防御対策に努めた。

### ・実施計画

1. 看護研究 SEED（旧：看護研究の基本ステップ）は、平成 28 年度以降集合研修と遠隔配信講座を毎年交互に実施しており、今年度は集合研修とする。
2. 令和 2 年 4 月に研修計画を立て、プログラムと受講案内を県内各医療福祉行政機関等（161 施設）へ送付するとともに、本学ホームページに掲載する。

3. 今年度は6月22日以降から8月まで、集合研修にて行う。
4. 各回終了時に、アンケート調査を行う。
5. 本センターホームページに報告記事を掲載する。

## Ⅱ. 活動の結果と評価

### < 結果 >

#### 1. 研修の実際

看護研究 SEED は、研修プログラムと参加者数（表 1）のとおり、10 科目を 5 日間で実施した。また、間隔を空けての開催スケジュールを調整したが、COVID-19 感染症拡大防止対策のため、看護研究 SEED の開始が 6 月 23 日以降と遅れたため、調整がつかず、7 月に 3 回の開催となった。

受講申込は、全 5 回受講コースに 8 施設より 13 名、単回受講コースに 2 施設より延べ 4 名であった。各回の参加者数は 9～14 名で、第 1 回の参加者数が少ないのは、感染症拡大防止対策のため、募集期間が短く、受講者の勤務調整ができなかったことが影響していた。受講生は 5 日間の研修の内の 4 日間以上受講し、全 5 回受講コース全員が修了証書を受け取った。

表 1 令和 2 年度 研修プログラムと参加者数

回	テーマ	開催日	曜日	時間	担当者	場所	参加者数
1	看護研究の意義と文献の活用	6月23日	火	13:00～14:30	脇坂 浩	講義室1	9
	文献検索と図書館の利用			14:40～16:10	図書館 別當直子	第1情報処理教室	
2	研究計画の立て方と書き方	7月3日	金	13:00～14:30	大川 明子	講義室1	14
	看護研究における倫理的配慮			14:40～16:10	大川 明子	講義室1	
3	研究デザインのタイプと選択	7月16日	木	13:00～14:30	上田 貴子	講義室1	12
	質的研究(インタビュー)			14:40～16:10	関根 由紀	講義室1	
4	量的研究(実験・計測)	7月22日	水	13:00～14:30	長谷川 智之	講義室1	13
	量的研究(アンケート)			14:40～16:10	関根 由紀	講義室1	
5	情報処理教室 フリー開放	8月4日	火	10:00～12:00	地域交流センター	第2情報処理教室	3
	研究論文作成			13:00～14:30	脇坂 浩	講義室1	13
	プレゼンテーション(演習含む)			14:40～16:40	上田 貴子	多目的講義室	





## 研修の様子

### 2. 受講生アンケート結果

アンケート回答者数 15 名

アンケート回収数延べ 61 (回収率 100%)

#### 1) 受講生の属性 (n=15)

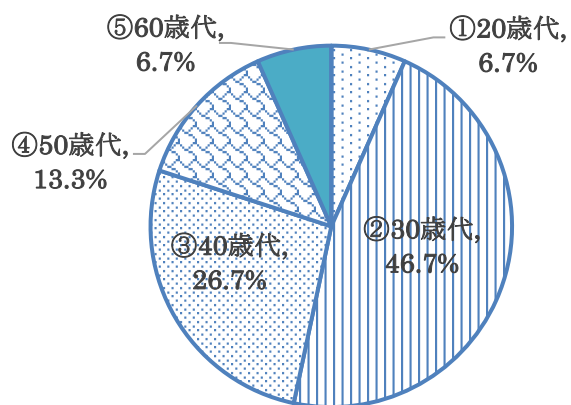


図1 受講生の年代

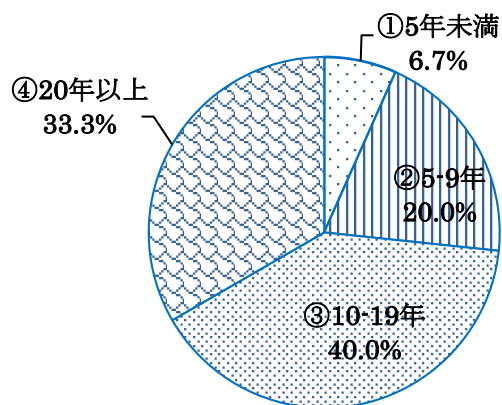


図2 受講生の経験年数



図3 受講生の職位 (複数回答)

受講生の年代 (図1) は、30～40 歳代で 73.4% を占め、経験年齢 (図2) も中堅層以上、職位 (複数回答) (図3) では管理職や教育担当者が多数含まれていた。

## 2) 講義内容について

各講義内容の理解度は図4に示す。「①とても理解しやすかった」「②理解しやすかった」と回答した者は「看護研究の意義と文献の活用」で77.8%、その他の科目は91.7~100%で、その理由は「基本的な内容だった」「具体的に説明いただき、分かりやすかった」であった。また新規テーマの「量的研究（実験・計測）」では、「実験について概要を知ることができた」「次の研修も受けてみたい」の意見が得られた。「③やや理解しにくかった」と回答した理由が記載されていたのは、「看護研究の意義と文献の活用」の1件のみで、「看護の現場ではなかったため、自分の疑問をどう研究に結びつければよいかがまだわからなかった」であった。さらに「④理解しにくかった」と回答した者はすべての講義でみられず、これはH25年以来の好結果であった。

\* 下線は新規テーマ

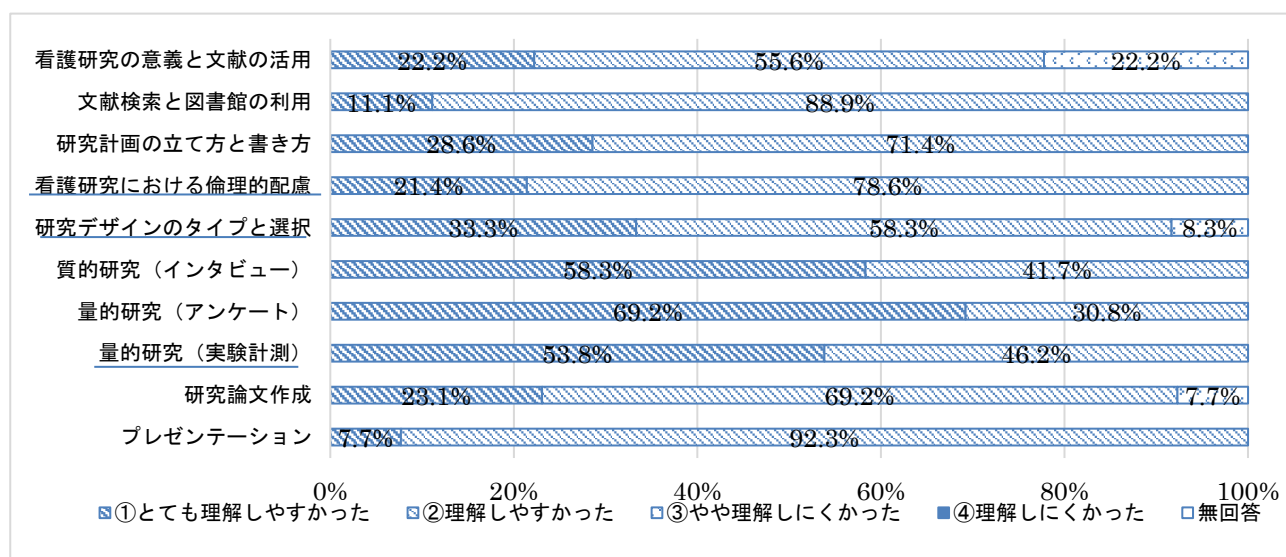


図4 講義内容の理解度

講義内容の満足度（図5）は10科目とも「①大変満足」「②満足」と回答した者は88.9~100%で、その理由は「具体的に知ることができた」「実際に演習してみて、よくわかった」であった。「③やや不満」と回答した理由は記載がなかった。

\* 下線は新規テーマ

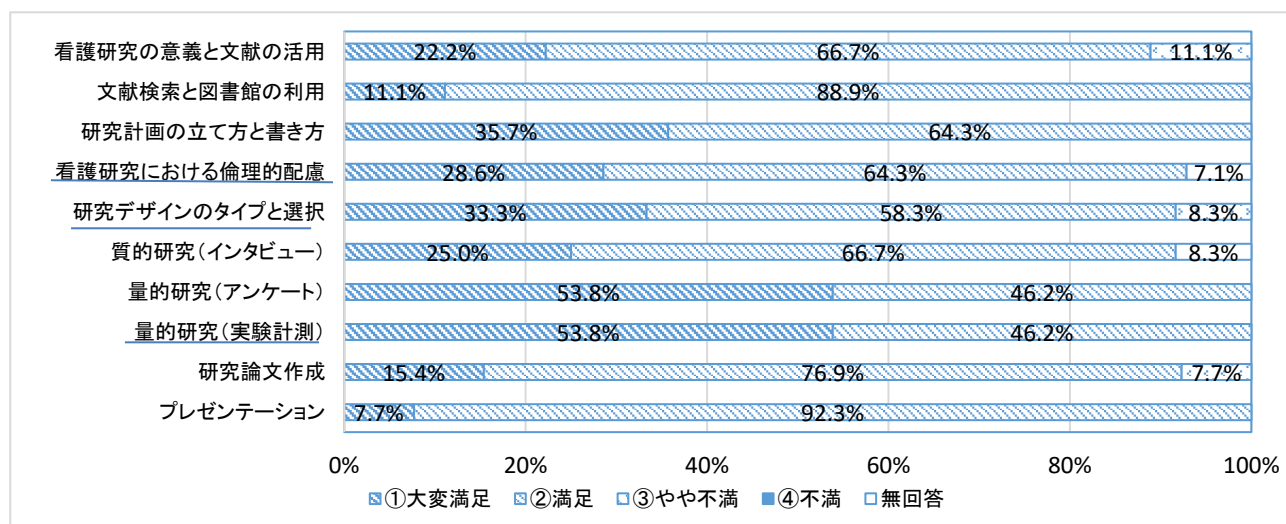


図5 講義内容の満足度

### 3) 看護研究 SEED 全般について 【最終回に実施: アンケート回収数 13(回収率 100%)】

全般に対する満足度（図 6）では、「①大変満足」・「②満足」と回答した割合が、「研修テーマ」と「研修の参加方法」で 100%、「研修回数」と「研修時間」で 84.6%であった。「③やや不満」と回答した理由が記載されていたのは「研修回数」の 1 件で、「午後からの研修が多く、休みがとりづらい状況だった。1 日にまとめるののほうが、行きやすく感じた。」とスケジュールに関する内容であった。一方、「①大変満足」・「②満足」と回答した理由では、「ちょうどいい回数だと思う」「夏季休暇取得の時期だったので、休みやすかった」という意見もあった。

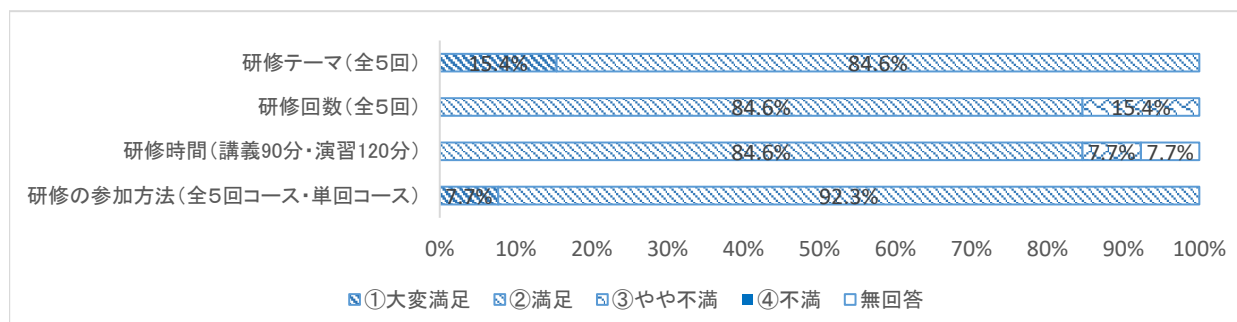


図 6 講義全般の満足度

「看護研究 SEED を受講し、看護研究をしよう（又は続けよう）と思う」の設問には、全員が「はい」と回答し、その理由は「看護学校で学んでいない所もあるので、少しでもわかって良かった」、「難しいが、研究することでより良いケアに繋がると感じた」等の意見があった。

「看護研究 SEED への意見・感想」では、「研究についての基礎的な内容から具体的な内容まで幅広い内容を講義していただき、大変良かった」、「日々の業務で疑問に思うこと、実際の看護ケアから学ぶこと、利用者多数の反応等、1 つ 1 つ丁寧に情報を整理すること、文字化することで研究につながることを学べた」、「自分が指導する上で、今回学んだことを伝えたい」等の意見があった。また「平日よりも土曜日などの休日での開催だとより参加しやすい」という意見もあった。

#### < 評価 >

「数値目標：COVID-19 感染症拡大防止対策のため、使用講義室の最小定員（56 名）の半数（28 名）程度を目指す」では、研修開始日の遅れや募集期間が短かったことが影響し、例年の半数程度の受講者数としても達成できなかった。次年度は、より COVID-19 感染症拡大防止対策を講じ、オンライン受講等、受講者が安心して参加できる形式を取り入れたい。

講義内容に関しては理解度、満足度ともに高い結果であった。受講者が記載した「その理由」より、担当講師が実例を示したり、演習を組み入れたりして具体的に講義を行ったことが結果につながったと考える。また、今年度から取り入れた新規のテーマへの評価も高く、「量的研究（実験・計測）」では、次のステップである研究実践能力の向上のための

「ハウツー看護研究」事業につながる感想を得られた。

事業全般に対しては、看護研究 SEED は、受講者の研究基礎能力を培い、今後の看護研究へ取り組む意欲を高めるきっかけとなったことが伺えた。また受講者に教育担当者や管理職が多く、今回得られた知識が所属施設に伝わることも期待できる。

以上より、昨年度の課題であった「・受講者の興味を得るような科目の構成の見直しとよりわかりやすい講座等の企画」「・間隔を空けての開催スケジュールの計画」を克服できたと評価できるが、研修の開催曜日や回数へは様々な意見を得られたので、研修の教育効果や本学担当講師のスケジュールも考慮し、今後もより看護職者が参加しやすくなるよう、形態を検討していく必要がある。

### Ⅲ．今後の課題

- ・ COVID-19 感染症拡大防止対策を講じ、オンライン受講等、受講者が安心して参加できる形式を取り入れ、「数値目標：使用講義室の最小定員（56 名）の半数（28 名）程度受講生が得られる」の達成
- ・ 研修の開催曜日や回数等、研修形態の検討

（担当：川瀬）

## 2) 看護研究エッセンス（新規）

担当者：＜講師＞斎藤真  
＜運営＞地域交流センター

### 【事業要旨】

看護研究の基礎知識に関する研修（看護研究 SEED 等）を修了した看護職者を対象に、看護研究の質の向上を目的に、研究遂行能力の強化に関する研修を実施する。

### 【地域貢献のポイント】

看護研究の基礎知識を習得した看護職者が、研究遂行能力を強化する方法を学び、演習型の研修を受講することにより、看護現場での研究実践が充実し、看護の質向上につながる。

## I. 活動計画

### ＜数値目標＞

- ・10名程度の受講生が得られる。

### ＜実施計画＞

#### ・実施計画

1. 令和2年4月に教員からの研修コースの募集を行い、それに基づき計画を立て、プログラムと受講案内を県内各医療福祉行政機関等（161施設）へ送付するとともに、本学ホームページに募集記事を掲載する。
3. 今年度は「統計解析（基本編）」の1コースを7月と11月に、集合研修にて行う。
4. 各回終了時に、アンケート調査を行う
5. 本センターホームページに報告記事を掲載する。
6. 受講申込締切1週間前にHPにて再案内を掲載した。
7. COVID-19感染症拡大防止対策のため、学内基準に基づき、感染防御対策に努め、実施する。

## II. 活動の結果と評価

### ＜結果＞

#### 1. 研修の実際

教員から応募されたコースは「統計解析（基本編）」の1コースで、研修内容は、研修プログラムと参加者数（表1）のとおり、3コマで実施した。

受講申込は、統計解析①には4施設6名、統計解析②は申し込み者がなく中止となった。



研修の様子

表 1 令和 2 年度 研修プログラムと参加者数

コース	日時	担当者	概要	参加者数
統計解析① (基本編)	7月4日(土) 10:40~16:10	斎藤 真	初学者を対象に、看護研究でよく用いる統計手法について考え方と実際の使い方を学びます。 アンケートや調査、実験データの集計や処理、結果の解釈につなげるための講座です。	6
統計解析② (基本編)	11月28日(土) 10:40~16:10	斎藤 真		中止

## 2. 受講生アンケート結果

アンケート回収数 6 (回収率 100%)

### 1) 受講生の属性

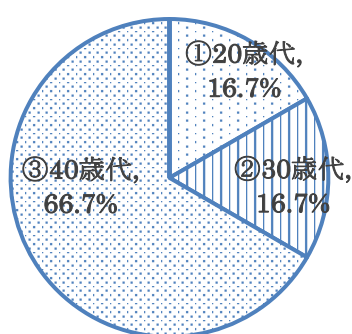


図 1 受講生の年代

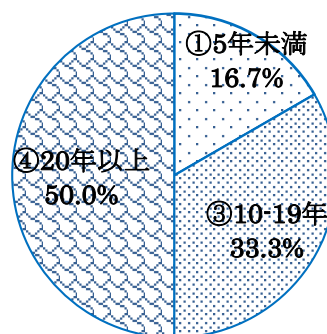


図 2 受講生の経験年数

今年度の受講生の年代（図 1）では 40 歳代 が最も多く、経験年齢（図 2）も 20 年以上が 50.0%を占めた。

職位（複数回答）（図 3）は、スタッフ、管理職・教育担当者の順であった。

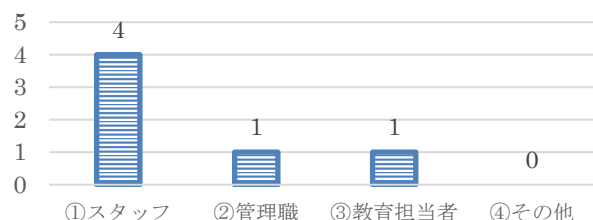


図 3 受講生の職位（複数回答）

### 2) 講義内容について

各講義内容の理解度（図 4）は「①とても理解しやすかった」と回答した者は 83.3%で、その理由は「模擬アンケートもあり、自身のアンケートに役立てそう」「データを分析する方法論はわかりやすかった」であった。

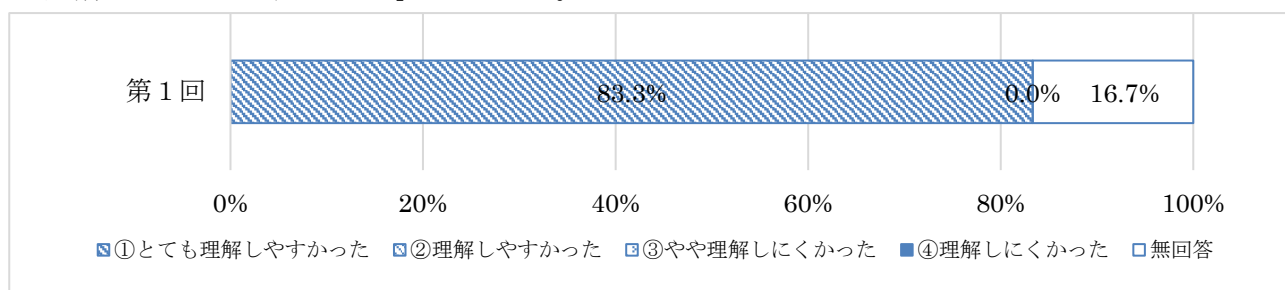


図 4 講義内容の理解度

講義内容の満足度（図 5）は「①大変満足」・「②やや満足」と回答した者は 100%で、その理由は「わかりやすかった」であった。

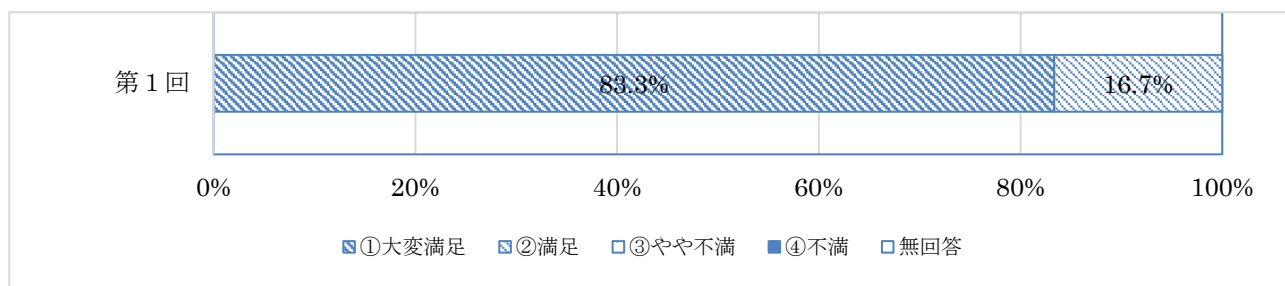


図 5 講義内容の満足度について

### 3) 看護研究エッセンス全般について

全般に対する満足度（図 6）は、「①大変満足」・「②満足」と回答した割合が、回数・時間とも 100%であった。

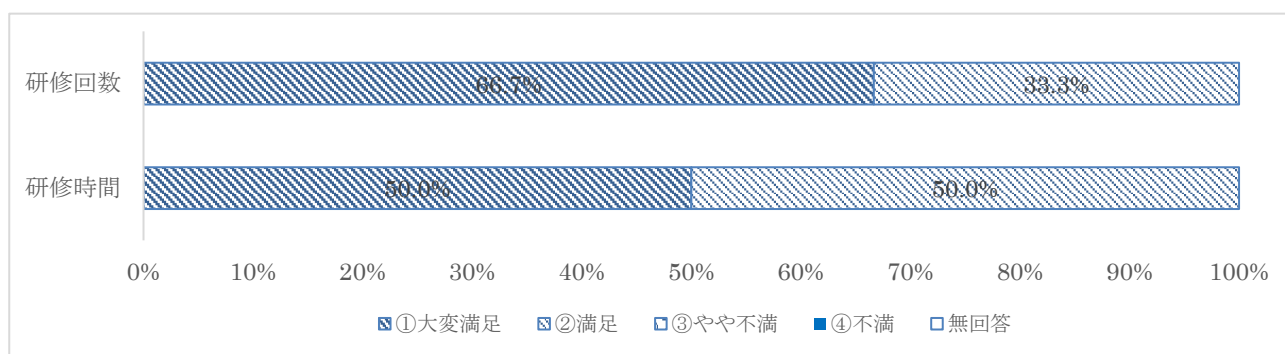


図 6 研修全般について

「このコースで学んだことは、あなたの今後に役に立ちますか」（図 7）の設問に、「①とても役に立つ」「②役に立つ」と回答した割合は 100%で、その理由は「自身の研究でどれが当てはまるか、考える時間になった」「今後の研究では、計画段階から分析について考えていくようにしていかなければと分かった」であった。

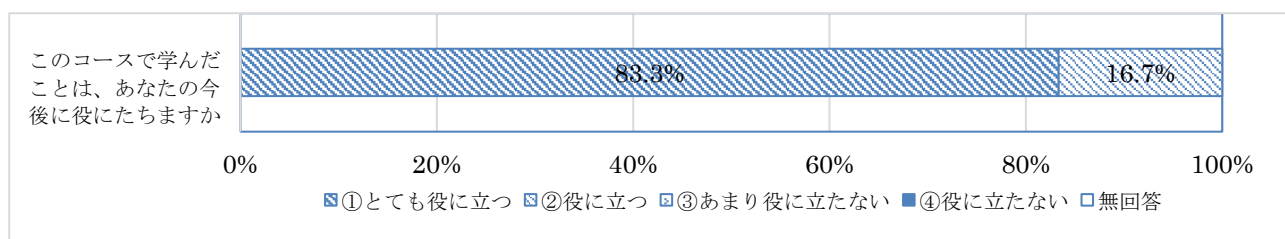


図 7 学びが今後に役立つか

「看護研究エッセンスへの意見・感想」では、「次の研究の講習にも参加したい。パソコンの扱いも含め、今後も学びたいと思った」「お話しも楽しく、集中して聞くことができた。先生の作成したエクセルファイルもとても見やすく、分かりやすかった」であった。

### < 評価 >

コースは「統計解析（基本編）」の 1 コースのみであったため、次年度は「学会発表にむ

けたポスター作製」など受講者の研究遂行能力が強化に関するコースの企画を増やしていきたい。

「数値目標：10名程度の受講生が得られる」では、県内の COVID-19 感染症拡大が影響し、目標を達成できなかった。看護研究エッセンスは、その内容より対面での講義が望ましい研修であるため、フェイスシールドやパーテーション等で COVID-19 感染症拡大防止対策を講じ、受講者が安心して参加できる形式を取り入れたい。

一方、講義内容の理解度や満足度、研修全般への満足度は高く、その理由からも、受講者の研究遂行能力が強化でき、看護研究の質の向上に繋がることがうかがえた。

### Ⅲ．今後の課題

- ・受講者の研究遂行能力の強化に関する企画コースの増加
- ・COVID-19 感染症拡大防止対策を講じ、フェイスシールドやパーテーション等で、受講者が安心して参加できる形式を取り入れ、「数値目標：10名程度の受講生が得られる」の達成

（担当：川瀬）



### 3) ハウツー看護研究

担当者：＜講師＞浦野茂、関根由紀、斎藤真、菅原啓太、長谷川智之  
＜運営＞地域交流センター

#### 【事業要旨】

看護研究の基礎知識に関する研修（看護研究 SEED 等）を修了した看護職者を対象に、研究遂行能力の向上を目的に、実際に行うための具体的な研究方法について研修を実施する。

#### 【地域貢献のポイント】

看護研究の基礎知識を習得した看護職者が、実際に行うための具体的な研究方法を学び、体験することにより、看護現場での研究実践が充実し、看護の質の向上につながる。

#### 【昨年度からの課題】

- ・受講生が求める講義難度に調整する
- ・受講生が求める講義時間・回数に足りない

#### I. 活動計画

＜数値目標＞

- ・COVID-19 感染症拡大防止対策に留意し、過去 3 年間の受講者数 24～27 名の半数程度を目指す。

＜実施計画＞

##### ・昨年度からの変更点（昨年度の課題を含む）

1. 昨年度の受講者アンケートでの「時間が短かった」の意見に対応し、研修時間を 90 分延長し、じっくり具体的な研究方法を学べる研修とした。
2. 他の事業を実施する際、本事業への受講生の反響を広報し、受講をすすめた。
3. チラシに担当者からのコメントを掲載し、研修のおすすめポイントを紹介した。
4. 今までの本プログラムと受講案内の送付先は、看護研究の基礎知識の研修である看護研究 SEED（旧看護研究の基本ステップ）の受講経験者の所属施設であったが、今年度より看護研究エッセンスを同封し、県内全ての医療福祉行政機関等に広げ、受講者自身が研究能力に沿った研究支援のコースを選べるようにした。
5. 受講申込締切 1 週間前に HP にて再案内を掲載した。
6. COVID-19 感染症拡大防止対策のため、学内基準に基づき、感染防御対策に努めた。

##### ・実施計画

1. 令和 2 年 4 月から 5 月に研修計画を立て、プログラムと受講案内を県内各医療福祉行政機関等（161 施設）へ送付するとともに、本学ホームページに募集記事を掲載する。
2. 8 月から 12 月に、各コース、プログラムに沿った研修の実施を行う。
3. 各コース終了時に、アンケート調査を行う。
4. 本学ホームページに報告記事を掲載する。

## Ⅱ．活動の結果と評価

### < 結果 >

#### 1. 研修の実際

ハウツー看護研究は、研修プログラムと参加者数（表 1）のとおり、3 コースとも 3 回（計 7 コマ）を 2～3 日間で計画した。量的研究コース（実験・計測）は申し込み者がなく中止となった。受講申込は、インタビューコースには 4 施設より 6 名（のち、キャンセル 1 施設 3 名）、アンケートコースには 4 施設より 5 名、計 8 名であった。

表 1 令和 2 年度 研修プログラムと参加者数

コース	質的研究コース (インタビュー)	量的研究コース (アンケート)	量的研究コース (実験・計測)
日時	①8月21日(金) 13:00～16:10 ②9月 4日(金) 13:00～16:10 ③9月18日(金) 10:40～16:10	①10月10日(土) 9:00～12:10 ②10月10日(土) 13:00～16:10 ③10月24日(土) 9:00～14:30	①12月 5日(土) 9:00～12:10 ②12月 5日(土) 13:00～16:10 ③12月12日(土) 9:00～14:30
担当者	浦野 茂・関根由紀	斎藤 真・菅原啓太	斎藤 真・長谷川智之
テーマ	インタビューによる 質的研究を行ってみる	「質問紙の作成と調査の実施」 ー職務満足度について考えをさぐるー	「看護職者の腰痛に関連する援助時のベッドの高さについて」 ～身近にあるモノを使用し、明日から使える実験研究！～
第 1 回	1. 質的研究法の内容と特徴 2. 研究課題を作る 3. 研究デザインを考える 4. インタビューガイドを作る	1. はじめに 2. 調査を行う前に 倫理的配慮を含めた調査研究の注意事項 3. 調査用紙に用いる尺度 4. 調査用紙の作成： フェースシート、単一回答/選択、 複数回答/選択、順位法、数値配分法、 SD法、自由記述 5. 調査開始 6. データの入力・集計	1. 看護研究における実験研究とは 2. 実験研究の紹介 3. 実験を行う前に： 倫理的配慮を含めた実験の注意事項
第 2 回	1. インタビューを行う 2. トランスクリプトを作る 3. 分析する	1. 集計結果の整理、図式化 2. 統計的解析 3. データの検討 4. 結果の整理と考察への展開	1. 実験の準備： 実験環境、必要な物品、実験手順の確認など 2. 実験開始： 実験協力者への説明と同意 2種類のベッドの高さで看護援助を行った 際の腰部負担の測定 3. データの集計
第 3 回	1. 分析結果をまとめる 2. 「発見」を作る	・論文の作成： 目的、方法、結果、考察の記述	1. データ分析： 図表の作成、excelを使用した検定 2. 「考察」の検討： 論文の考察について、何を記述すべきか 3. 抄録（学会発表レベル）の作成
参加者数	3	4	開催中止



質的研究コース  
「インタビュー」の様子



### 量的研究コース 「アンケート」の様子

## 2. 受講生アンケート結果

アンケート回収数 7 (回収率 100%) \* 最終日 1 名欠席のため 7 名対象

### 1) 受講生の属性

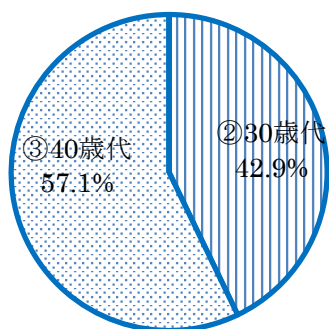


図 1 受講者の年代

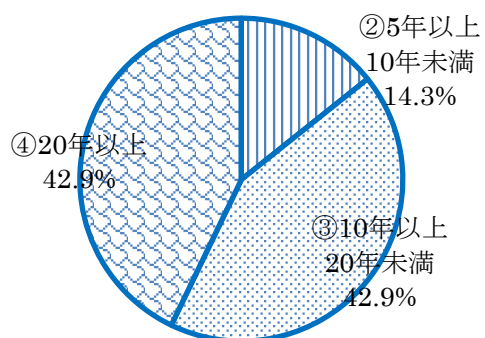


図 2 受講者の経験年数

今年度の受講生の年代(図 1)は 40 歳代が 57.1%と最も多く、次いで 30 歳代であった。経験年齢(図 2)は 20 年以上が最も多く、42.9%であった。また、職位(図 3)は、スタッフ、管理職の順であった。

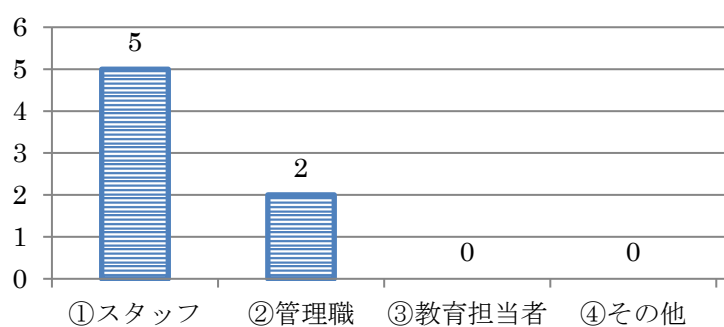


図 3 受講生の職位 (複数回答)

## 2) 講義内容について

各講義内容の理解度（図 4）は「①とても理解しやすかった」と回答した者は 57.1%、「②理解しやすかった」42.9%と回答しており、「やや理解しにくかった」「理解しにくかった」と回答した者はいなかった。その理由は「資料や講師の先生の言葉など、具体的な例を提示してもらったので、イメージしやすかった」であった。

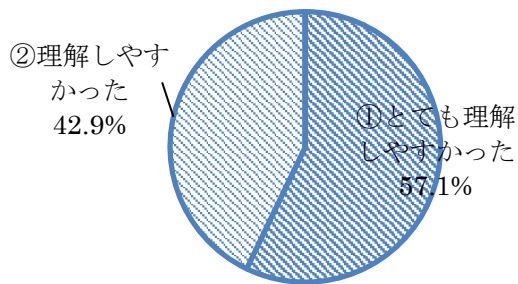


図 4 講義内容の理解度

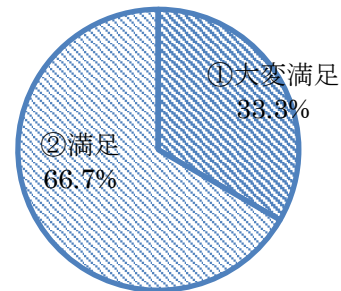


図 5 本コースの満足度について

## 3) 本事業全般について

本コースの満足度（図 5）は「①大変満足」と回答した者は 33.3%、「②満足」と回答した者は 66.7%で、その理由は「今までなんとなく実践して覚えてきた知識が少しつながって理解できたので」であった。

講座の回数や時間（7 コマ）についても、「大変満足」「満足」と回答した者は 100%で、その理由は「自身で経験しないと理解できないと思った」「仕事をしながら受講できる回数として妥当だった」であった。

「このコースで学んだことは、あなたの今後役に立ちますか」の設問には、「とても役に立つ」「役に立つ」と回答した者は 100%で、その理由は「今まさに研究にとりくんでいるので、頭の中を整理するのに役立った」「体験しながら学べた」であった。

「本コースを受講し、看護研究をしよう（又は続けよう）と思う」の設問には、全員が「はい」と回答し、その理由は、「看護研究の基本的なところから、抄録の作成まで教えていただき、看護研究の流れを理解することができた」「普段の業務から出てくる疑問を解決するための 1 つの方法だとおもえば、それほど苦にならないと思った」であった。

「本コースへの意見・感想」では、「一覧の流れで経験できたことで、研究への苦手意識が少し解消された」「抵抗感を持ちやすい難しい言葉を分かりやすく伝えていただいたので、気持ちが楽になった」等であった。

## < 評価 >

「数値目標：COVID-19 感染症拡大防止対策に留意し、過去 3 年間の受講者数 24～27 名の半数程度を目指す」では、県内の COVID-19 感染症拡大が影響し、キャンセルも出たため、目標を達成できなかった。ハウツー看護研究は、その内容より対面での講義が望ましい研修であるため、フェイスシールドやパーティション等で COVID-19 感染症拡大防止対策を講じ、受講者が安心して参加できる形式を取り入れたい。

一方、講義内容の理解度やコースの満足度が高く、受講者が記載した「その理由」からも、昨年度の課題であった「・受講生が求める講義難度に調整する」「・受講生が求める講義時間・回数に足りない」を克服できたと評価でき、受講者の研究遂行能力の向上が「看護現場での研究実践の充実」や「看護の質の向上」に繋がることがうかがえた。

### Ⅲ. 今後の課題

- ・ COVID-19 感染症拡大防止対策を講じ、フェイスシールドやパーテーション等で、受講者が安心して参加できる形式を取り入れ、「数値目標：10 名程度の受講生が得られる」の達成

(担当：川瀬)

## 4) その他の看護研究支援

担当者：＜講師＞大川明子、前田貴彦、川島 珠実、宮崎つた子、中西貴美子、玉田章、  
上田貴子、大平肇子、長谷川智之  
＜運営＞地域交流センター

### 【事業要旨】

県内医療機関等における看護職者の研究意欲を高めるとともに、研究的思考や研究遂行能力を培うことを目的とする。看護研究に取り組んでいる県内医療機関等を対象とし、看護研究を行う看護職の複数のグループ又は個人に対し、看護研究のプロセスに沿った支援、施設内における研究支援体制構築への支援等を行う「施設単位看護研究支援」と、看護研究発表会における講評・審査を行う「看護研究発表会支援」を実施する。

### 【地域貢献のポイント】

看護職者が、臨床現場における課題について看護研究を行うことは、職業人としての意識を高め、看護の質の向上につながる。本事業により、地域の人々によりよい看護実践を還元することに繋がる。

### 【昨年度からの課題】

- ・看護研究発表会の利用者増加のため、支援の案内を、他の看護研究支援の案内送付時にも同封し、看護研究発表会支援の利用者の増加を図る。

## I. 活動計画

### ＜数値目標＞

過去3年間の利用件数、施設単位看護研究支援8～12件、看護研究発表会支援1～4件を維持する。

### ＜研究支援内容＞

#### 1. 施設単位看護研究支援

- 1) 施設で看護研究を行っている看護職者のグループまたは個人に対し、本学の教員が出張して指導を行う。施設からの申し込みは1施設6研究以内とする。
- 2) 基本単位を、3時間×4回の指導とする。

#### 2. 看護研究発表会支援

- ・施設等の看護研究発表会における講評・審査を本学の教員が担当する。

### ＜実施計画＞

#### ・昨年度からの変更点（昨年度の課題を含む）

1. COVID-19感染症拡大防止対策のため、支援開始を本学出校停止全解除日1週間後の6月22日からとした。
2. 看護研究発表会の支援の案内を、他の看護研究支援の案内送付時にも同封した。

#### ・実施計画

##### 《施設単位看護研究支援》

令和2年1月：募集案内を県内医療機関等（105施設）に送付するとともに、本学

ホームページに募集記事を掲載する。(締切 2 月末日)

3 月：申込みのあった施設に対し、全教員から支援担当者を募集する。双方の条件が合致したら実施にむけて調整を進める。

令和 2 年 4 月：支援の決定した医療機関へ決定通知を送付する。

令和 2 年 6 月～令和 2 年 3 月：担当教員が研究指導を行う。

支援終了時、事業参加者にアンケートを実施する。

#### 《看護研究発表会支援》

令和 2 年 1 月：募集案内を県内医療機関等（105 施設）に送付するとともに、本学ホームページに募集記事を掲載する。(締切 11 月末日)

令和 2 年 4 月：全教員から支援担当者を募集する。

令和 2 年 5～6 月：募集案内を看護研究エッセンスおよびハウツー看護研究支援の案内に同封し、県内各医療・行政機関等（161 施設）へ送付。

令和 3 年 3 月迄：支援の申込みに対し、発表演題について対応可能な教員を派遣する。

支援終了時、事業参加者にアンケートを実施する。

## Ⅱ．活動の結果と評価

### ＜結果＞

「支援の実際」は今年度の結果、「受講生アンケート結果」では、昨年度の年報で全結果を掲載できなかった令和元年度分と、現時点（1.31）で回収できている今年度分を記載する。

#### 1. 支援の実際

##### 1) 今年度の支援施設の概要

施設単位看護研究支援施設（表 1）は 9 件、1 病院より 2 支援を利用する施設もあった。また、看護研究発表会支援は申し込みがなかった。

##### 2) 今年度の支援状況

支援開始時期は 6 月から 11 月、終了時期は翌年 3 月までを予定している。COVID-19 感染症拡大防止対策のため、対面での支援が難しい場合は、メールやオンライン会議での研究支援も行った。

表 1 令和 2 年度 施設単位看護研究支援施設一覧

	施設名	担当教員
1	県立総合医療センター	大川 明子
2	藤田医科大学七栗記念病院	前田 貴彦
3	武内病院	川島 珠実
4	独立行政法人 国立病院機構 鈴鹿病院	宮崎 つた子
5	榊原温泉病院	中西 貴美子
6	県立志摩病院	玉田 章
7	伊勢赤十字病院①（新規）	上田 貴子
8	伊勢赤十字病院②（継続）	大平 肇子
9	四日市羽津医療センター	長谷川 智之

## 2. 受講生アンケート結果

### 1) 施設単位看護研究支援

#### ①令和元年度の結果

アンケート回収数は 11 件 110（回収率 91.1%）であった。

参考 表 2 令和元年度 施設単位看護研究支援施設一覧

No.	施設名	担当教員	No.	施設名	担当教員
1	県立総合医療センター	大川 明子	7	松阪市民病院②	小池 敦
2	武内病院	前田 貴彦	8	伊勢赤十字病院①	大平 肇子
3	榊原温泉病院	脇坂 浩	9	伊勢赤十字病院②	関根 由紀
4	県立志摩病院	玉田 章	10	四日市羽津医療センター	長谷川 智之
5	済生会明和病院	小松 美沙	11	藤田保健衛生大学 七栗記念病院	白石 葉子
6	松阪市民病院①	中西 貴美子	12	独立行政法人 国立病院機構 鈴鹿病院	宮崎 つた子

令和元年度施設単位看護研究支援の満足度は図 1 に示す。「とてもよかった」「よかった」が 95.5%を占めており、その理由は「研究に対する分析や論文としてのまとめ方 etc。臨床では難しく、判断しがたい事を教えてもらえ、いつも勉強になる」「研究をすすめていくうちに、先生の指導がわかるようになってきた」と、好評であった。一方、「あまりよくなかった」「よくなかった」を選択した者のその理由は、「院内サポーターに相談し、修正した部分について、『どうしてこうしたのか』や、反対の指摘を受けることが多く、戸惑う場面があった。」といった本学支援教員と施設の研究指導者との支援方針が違うことへの戸惑いや、「専門の先生からのアドバイスが欲しかった。」といった本学支援教員の専門領域と違う研究内容への専門的な助言への希望があった。

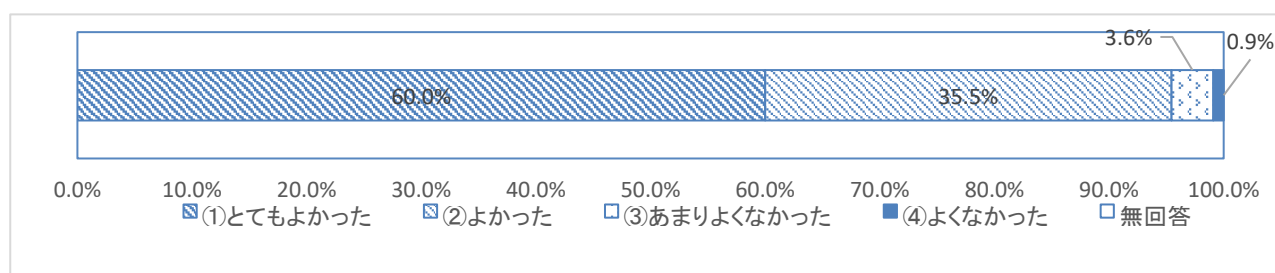


図 1 施設単位看護研究支援の満足度

#### ②令和 2 年度の反応

回収できている 2 施設の結果をみると、事業満足度は「とてもよかった」「よかった」で 100%であった。その理由では「初めての質的研究で不安ばかりだったが、的確な指導を頂き、とても勉強になった」「研究について知識不足だったが、一つ一つ丁寧に指導していただき、方向性や自分たちの研究の形がみえてきた」「段階を踏んで相談することができ、確



実に進めることができるため、とてもよかった」と記載されていた。

## ２）看護研究発表会支援

### ①令和元年度の結果

アンケート回収数は１施設 93（回収率 100％）であった。

令和元年度施設単位看護研究支援の満足度は図２に示す。「とてもよかった」「よかった」が 95.7％を占めており、その理由は「看護研究について全部署を通して気を付ける事、各部署ごとに評価をもらい、勉強になった」「研究についての知識がない者の集団での取り組みであったが、丁寧なご指導で、大変助かった。多くの学びを得ることができた。もっと研究を身近なものと感じることができるよう、回数を重ねていきたい」等、好評であった。一方、「あまりよくなかった」を選択した者の理由は、「まとまりがない」といった意見があった。

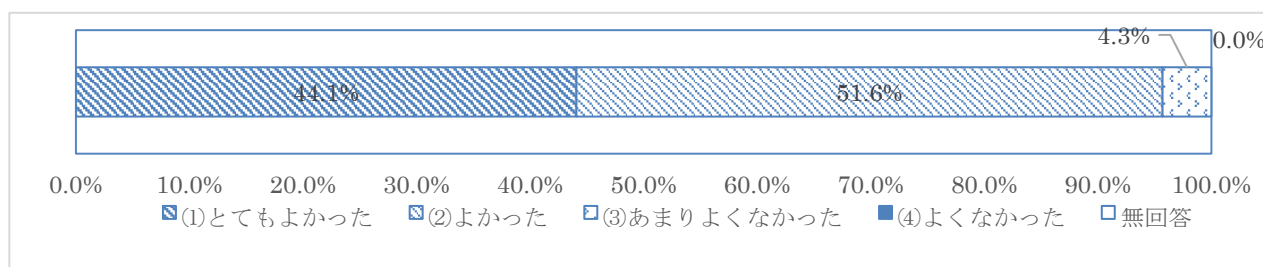


図２ 看護研究発表会支援の満足度

### ②令和２年度の反応

今年度は実施がなかった。

#### <評価>

「数値目標：過去３年間の利用件数、施設単位看護研究支援 8～12 件、看護研究発表会支援 1～4 件を維持する」では、施設単位看護研究支援では達成できたが、看護研究発表会支援では達成できず、また昨年度の課題であった「・看護研究発表会支援の利用者の増加」も克服できなかった。看護研究発表会支援は年度末に行われるため、県内の COVID-19 感染症拡大状況が影響したと考えられる。次年度は、より COVID-19 感染症拡大防止対策を講じ、オンライン受講等、受講生が安心して参加できる形式を提案したい。

昨年度のアンケート結果より、「施設単位看護研究支援」では看護研究のプロセスに沿った支援、「看護研究発表会支援」では講評・審査によって、県内医療機関等における看護職者の研究意欲を高めるとともに、研究的思考や研究遂行能力を培うことで「職業人としての意識」および「看護の質」の向上に繋がっていると評価できる。一方、否定的な評価の受講者が記載した「本学支援教員と施設の研究指導者との支援方針が違うことへの戸惑い」へは、本学支援教員と施設の研究指導者との連携を図ること、「本学支援教員の専門領域と違う研究内容への専門的な助言への希望」へは、講師派遣事業の「みかん大リクエスト講座」を利用し、研究内容にあった専門的な支援を勧めていきたい。

## Ⅲ．今後の課題

- ・ COVID-19 感染症拡大防止対策を講じ、オンライン受講等、受講者が安心して参加でき

る形式を提案し、「数値目標：過去３年間の利用件数、施設単位看護研究支援 8～12 件、看護研究発表会支援 1～4 件を維持する」の達成

- ・ 本学支援教員と施設の研究指導者との連携を図る
- ・ 専門分野からの研究への助言への希望は、講師派遣事業の「みかん大リクエスト講座」の利用を勧める

（担当 川瀬）

### 3. 公開講座



### 3. 公開講座

#### 【事業要旨】

広く県民を対象としたテーマの公開講座等を定期的実施する。

#### 【地域貢献のポイント】

- ・ 県民の看護・医療・健康への関心や意識を高める。
- ・ 県民の学習ニーズの把握に努め、本学が有する資源や教員各自の専門分野を活かした生涯学習等を行う。

#### 【昨年度からの課題】

心の健康や高齢者の健康など、県民のニーズが高いテーマを盛り込むことで、より多くの方々に参加いただけるようにする。

#### I. 活動計画

##### ＜数値目標＞

- ・ 参加者数の目標値 来場者 50 名、オンライン受講（施設）30 施設

##### ＜実施計画＞

- ・ 昨年度からの変更点

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、マスクの着用や体温チェック（37.5℃以下）に加え、参加者数を 50 名に限定するとともに施設を対象にオンラインを取り入れるなど、様々な感染防止策を講じる。

また、開催回数を例年の 3 回から見直し 1 回とする。

- ・ 実施計画

1. 案内パンフレットを作成し、県内各所に送付するとともに本学ホームページに掲載して周知啓発を行う。
2. 個人の申込定員は 50 名、定員になり次第申込受付を終了する。キャンセル待ちを希望される方へは連絡を入れる。
3. 初めてのオンライン開催であり、今後の実施に向けてはアンケートの意見を参考にする。

#### II. 活動の結果と評価

##### ＜結果＞

1. 令和 2 年度は 1 回の公開講座を開催した。（実施の詳細は後半に記載）
2. 会場での受講者を定員 50 名とした。
3. オンライン受講（施設）を 30 施設とした。
4. 受講者数は、来場者 32 名、オンライン受講 32 名（8 施設）であった。
5. 来場者及びオンライン施設の聴講者へのアンケートを実施したところ、公開講座を知るきっかけ（図 1）は、「大学案内」が最も多く、次いで「チラシ・ポスター」「友人・知人」の順と、例年と同様の傾向が見られた。
6. 満足度では、満足及びやや満足との回答が 96.5%であった（無回答除く）。

7. 今後希望する公開講座のテーマ（図2）は、「認知症」「心の健康」「高齢者と健康」「在宅看護・介護」の順であった。

図1. 公開講座を知るきっかけ

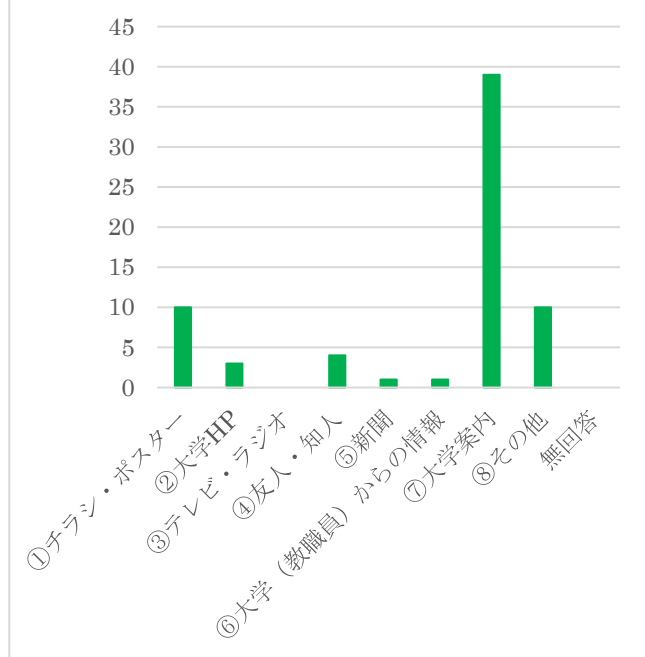
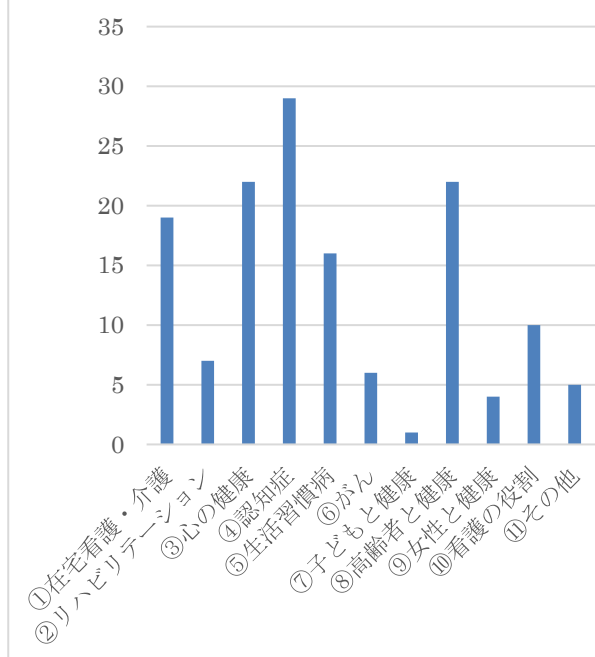


図2. 今後希望するテーマ



#### ＜評価＞

個人申込は案内通知発送から1週間程度で定員を満たし、キャンセル待ちの状態となった。感染対策のため定員50名を厳守した結果、当日キャンセルにより32名の来場にとどまったものの、参加者の満足度は高かったため、県民の看護・医療・健康への関心や意識を高めることに貢献できたと評価する。

初めての試みであった施設対象のオンライン受講は、申込み定員（30施設）には満たなかったものの、来年度の開催方法を検討するための大切な取組となり、受講施設では少人数で受講できたことへの満足度も高かった。一方、オンラインがうまくつながらず視聴できなかったという意見も聞かれた。

### Ⅲ. 今後の課題

新型コロナウイルスの感染拡大状況に配慮しつつ、より多くの人に満足いく講座を安心して受講していただく工夫が必要である。

オンライン受講については、自施設であっても多くの人を集める研修の開催が難しいと意見も聞かれるため、検討が必要と考える。

来場による参加については、半数以上が70歳以上と高齢であり、引き続き感染対策の重要性が求められる。

希望する公開講座のテーマで上位の内容（認知症、心の健康、高齢者と健康、在宅看護・介護）を、今後のテーマ・講師依頼の参考としたい。また、上位の内容ではないテーマの場合でも、今回のような社会的な関心の高いテーマは、県民の参加意識が向上すると考える。

# 公開講座実施の詳細

## 1. 公開講座

講 演：with コロナ時代に、私たちにできる身近な感染対策のヒント  
 講 師：脇坂 浩 氏（浜松医科大学医学部看護学科臨床看護学講座成人看護学 教授）  
 日 時：令和3年1月23日（土） 13:10～14:40  
 場 所：三重県立看護大学 講義棟1階 大講義室  
 参加人数：来場による参加 32名、オンラインによる参加 32名（8施設）  
 主 催：三重県立看護大学  
 後 援：三重県、公益社団法人三重県看護協会、津市  
 運営担当：三重県立看護大学事務局、地域交流センター  
 メディアコミュニケーションセンター

公開講座 啓発ポスター

三重県立看護大学地域交流センター 令和2年度 公開講座

**受講無料**

### Withコロナ時代に、 私たちにできる身近な感染対策のヒント

**講 師 脇坂 浩 先生**

浜松医科大学医学部看護学科臨床看護学講座成人看護学 教授

新型コロナウイルスによる感染拡大、健康被害をできるだけ減らすために、厚生労働省は感染対策として「新しい生活様式」を国民に向けて発信しています。ワクチンが普及し集団免疫が成り立つまで、私たちが連帯して助け合って「新しい生活様式」を続けていくことが求められています。講演では、日頃取り組まれている身近な感染対策について、皆様からのご意見を頂戴しながら、このWithコロナ時代に、地域で生活する私たちにできる「身近な感染対策のヒント」をお伝えします。

**日時** 令和3年1月23日（土） 13:10～14:40  
（受付・開場 12:30～）

**申込方法**

**個人申込みの場合  
（来場による受講 定員50名）**

**会場：**三重県立看護大学 講義棟1階 大講義室  
（津市幸が丘1丁目1番地）

**申込方法：**  
下記の申込・問合せ先まで電話、FAX、QRコードのいずれかで申込んでください。申込の際には、お名前、ご住所、電話番号、公共交通機関利用の有無をお知らせください。

**申込・問合せ先：**  
三重県立看護大学地域交流センター  
電 話 059-233-5610  
FAX 059-233-5610

**申込期限：令和2年12月22日（火）17時**  
※申込みが定員に達した場合、申込受付を終了します。  
なお、お申込みをいただいた方の当日参加は受付できませんのでご理解のほどよろしくお願い致します。  
また、個人からのオンライン受講は受け付けておりませんので、あわせてご理解のほどよろしくお願い致します。

**施設申込みの場合  
（オンラインによる受講 対象30施設）**

**申込方法：**  
下記のメールアドレスに、件名を「公開講座の申込」として、必要事項を記載のうえ申込んでください。  
E-mail: [event.rc@mon.ac.jp](mailto:event.rc@mon.ac.jp)

**必要事項：**①施設名、②施設住所、③施設電話番号  
④代表者のお名前、⑤参加人数  
⑥受講に使用するメールアドレス

**問合せ先：**三重県立看護大学地域交流センター  
電 話 059-233-5610

**申込期限：令和2年12月22日（火）17時**  
※申込みが対象施設数に達した場合、申込受付を終了します。

**注意事項：**  
※前日までに、使用されるパソコンにZoomをインストールしてください。公開講座のURL及び資料は、前日に、記載していただいたメールアドレスに届きます。  
※接続の不具合等につきましては、お問合せに対応させていただきますので、ご了承ください。ご不明な点は前日までに、お問合せいただきますようお願いいたします。

主催：三重県立看護大学 後援：三重県、公益社団法人三重県看護協会、津市

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、今後の状況次第では、やむを得ず公開講座を中止する場合があります。その場合、本学ホームページにて中止のお知らせをしますので、ご確認をお願いいたします。

脇坂氏の講演の様子



（担当：星野）





## 4.電話相談事業



## 4. 電話相談事業

担当者：（子育て応援ダイヤル）長谷川明子、川瀬浩子、星野郁子

（高齢者健康支援ダイヤル）星野郁子、小松美砂、日比野直子、大森聖子

### 【事業要旨】

孤立した環境の中で不安や悩みを抱えながら子育てする家庭の相談窓口として「みかん大 子育て応援ダイヤル」を、また、家庭に閉じこもりがちな高齢者の相談窓口として「みかん大 高齢者健康支援ダイヤル」を開設する。

### 【地域貢献のポイント】

- ・ 県民の新型コロナウイルス感染への不安を軽減する。
- ・ 県民の外出自粛や公共施設の閉鎖に対応した生活習慣への助言や提案を行い、生活の変調によるストレスを軽減する。

## I. 活動計画

### ＜実施計画＞

1. 案内パンフレットを作成し、本学ホームページに掲載するほか、報道機関に資料提供する等周知啓発を行う。
2. 5月7日から開始する。終業時期については、新型コロナウイルスに関連する国・県からの発令、外出自粛や公共施設の動きなどを踏まえて決定する。

## II. 活動の結果と評価

### ＜結果＞

1. みかん大 子育て応援ダイヤル
  - （1）期 間：5月7日（木）～6月15日（月）
  - （2）相談日：月曜日～金曜日 13時～15時
  - （3）担当者：助産師、保健師
  - （4）内 容：育児の不安や心配ごと、子育ての悩み・ストレス相談
2. みかん大 高齢者健康支援ダイヤル
  - （1）期 間：5月7日（木）～6月15日（月）
  - （2）相談日：月曜日～金曜日 9時30分～11時30分
  - （3）担当者：保健師、看護師
  - （4）内 容：こころとからだの心配事相談、必要に応じ情報提供

子育て応援ダイヤルにおいては、相談件数は2件であった。相談内容は、子どもの身体的な症状に関する心配ごと、離乳食や水分の与え方についての疑問等であった。また、コロナ禍で他者と接する機会が少ないことへのストレスや不安の表出もみられた。高齢者健康支援ダイヤルにおいては、相談件数は0件であった。活動は、国の緊急事態宣言が解除されたことや県内における市町の子育て支援センター等の支援機関の動きが再開

されたことを受け、終了した。

#### < 評価 >

相談件数としては2件と少なく、相談窓口としての活動評価には至らないが、活動に向け情報収集や関係機関との情報交換をする中で、市町における子育て支援の状況や高齢者対象の地域での受け皿が充実している様子等、今後の取組の参考となる情報を得ることができた。

### Ⅲ. 今後の課題

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い「新しい生活様式」が求められる中、県民がより安全・安心な生活を維持できることが重要である。看護職等の専門職を含め、心配ごとや悩みを聴かせていただくことを検討する。

令和2年5月7日より 三重県立看護大学地域交流センター

## みかん大 子育て応援ダイヤル

小さなお子様をお育ての皆様！  
新型コロナウイルスの感染拡大により、お子さんとお出かけをしたり、お友達に会う機会が減り、ストレスをため込んでいませんか？  
子育てのなかでの、心配な事、悩み事、なんでもかまいません。  
お話をし、少しでも気持ちが落ち着き、リフレッシュしていただければと思います。

**< 連絡先 >**  
電話番号：080-8266-2541

**< 相談日 >**  
月曜日～金曜日 13:00～15:00  
(祝日を除く)

育児の不安や心配 →  
子育てのストレス・悩み →

三重県立看護大学の助産師・保健師・看護師が  
ご相談に応じます

電話相談の場が皆様にとって  
「安心できる場」であることを目指します

ホームページ  
QRコード

**< ご利用方法 >**  
電話がつながりましたら、ご心配事、お悩み事等を告げて  
ご利用ください。ご相談内容に応じて対応いたします。  
詳細は当センターホームページをご覧ください  
URL: <http://www.mcn.ac.jp/local-exchange/> 子育て応援ダイヤル

令和2年5月7日より 三重県立看護大学地域交流センター

## みかん大 高齢者健康支援ダイヤル

新型コロナウイルスの感染拡大により、お出かけをしたり、お友達に会う機会が減り、ストレスをため込んでいませんか？  
健康に関する心配事や悩み事があればお話をしてみませんか。お話をすることで、少しでも明るい気持ちで生活していただければと思います。

**< 連絡先 >**  
電話番号：080-8256-3434

**< 相談日 >**  
月曜日～金曜日 9:30～11:30  
(祝日を除く)

からだの心配 →  
こころの心配 →

三重県立看護大学の保健師・看護師が  
ご相談に応じます

電話相談の場が皆様にとって  
「安心できる場」であることを目指します

ホームページ  
QRコード

**< ご利用方法 >**  
電話がつながりましたら、ご心配事、お悩み事等を告げて  
ご利用ください。ご相談内容に応じて対応いたします。  
詳細は当センターホームページをご覧ください  
URL: <http://www.mcn.ac.jp/local-exchange/> 高齢者健康支援ダイヤル

## VI. 連携

1. 連携協力協定
2. 県内病院等看護管理者意見交換会
3. 人事交流教員支援



# 1. 連携協力協定（医療機関・市町）

## 1) 連携協力協定（医療機関）

目的：本学と医療機関が相互に連携・協力関係を構築することで、臨床現場における学生と看護職者の資質を向上し、充実した県民サービスにつなげる。

表 1. 連携協力協定病院（令和 3 年 2 月 1 日現在）

	医療機関名	協定締結日
1	県立こころの医療センター	平成 25 年 2 月
2	松阪市民病院	平成 26 年 3 月
3	済生会松阪総合病院	平成 26 年 3 月
4	厚生連松阪中央総合病院	平成 26 年 5 月
5	県立総合医療センター	平成 26 年 6 月
6	伊勢赤十字病院	平成 26 年 8 月
7	国立三重病院	平成 27 年 1 月
8	県立一志病院	平成 27 年 11 月
9	厚生連鈴鹿中央総合病院	平成 29 年 4 月
10	市立伊勢総合病院	平成 30 年 3 月
11	岡波総合病院	平成 31 年 3 月
12	伊賀市立上野総合市民病院	令和 2 年 8 月

【伊賀市立上野総合市民病院との調印式：令和 2 年 8 月 27 日（木）】

出席者 伊賀市

伊賀市立上野総合市民病院

三重県立看護大学

岡本 栄 市長

田中光司 院長

中井より子 看護部長

前田きよ美 看護副部長

菱沼典子 理事長

笠谷昇 副理事長

永見桂子 理事



## 2) 連携協力協定（市町）

目的：本学と市町が相互に連携・協力関係を構築することで、臨地における学生と看護職者の資質を向上し、充実した県民サービスにつなげる。

連携協力協定市町（令和 3 年 1 月 31 日現在） 0 カ所

\* 1 月末現在では締結には至っていないが、具体的に協議している自治体がある。年度内の連携協定締結を目途に引き続き協議する。

## 2. 県内病院等看護管理者意見交換会

担当者：地域交流センター委員

### 【事業要旨】

県内病院等の看護管理者を対象に、本学の取組について、理解と協力を得て連携を深めるとともに、地域に根差した看護の教育・研究機関である本学の役割を示し、地域の医療機関のニーズ把握を図るため、本学学長との意見交換会を実施する。

### 【地域貢献のポイント】

県内の病院等看護管理者の看護管理実践に有用な情報提供、意見交換を行い、各施設における看護実践・看護教育・看護研究の質向上に寄与する。

### 【昨年度からの課題】

意見交換を円滑に行うため、意見交換のテーマを案内送付時に周知し、事前に各施設で考えをまとめたうえで参加できるようにする。

## I. 活動計画

### ＜数値目標＞

COVID-19 による医療機関の状況をふまえ、過去3年間の看護管理者の出席者数（H29年度36名、H30年度36名、R1年度36名）の半数を超える。

### ＜実施計画＞

#### 1. 昨年度からの変更点

- ・県内の病院に加え、今年度は、学部・大学院・認定看護師教育課程の実習施設である病院、診療所、訪問看護ステーションの看護管理者へ案内を送付する。
- ・今年度は、COVID-19 の感染防止策として、オンライン配信により会議を開催する。
- ・オンラインによる開催のため、会議の実施時間を2時間半から1時間半へ短縮して実施した。
- ・オンライン会議のため、意見交換の機会の確保が困難なため、会議の最後に「情報交換」（10分間）として、数施設から情報提供の機会を設ける。
- ・意見交換の代替として、実施後のアンケートとは別に、事後に意見や質問をメールにて受け付ける。
- ・昨年度からの課題については、「意見交換」を実施しなかったことから、引き続き来年度以降の課題とする。

#### 2. 対象者

県内病院等の看護管理者

#### 3. 開催日時

令和2年9月30日（水）14:00～15:30

#### 4. 会場

三重県立看護大学 大講義室よりオンライン配信による開催

#### 5. 内容



(1) 学長挨拶

(2) 行政からの情報提供

「三重県における新型コロナウイルス感染症の現状と行政における対応」

三重県医療保健部 医療政策総括監 田辺 正樹

(3) 学長による講話

「臨地実習は COVID-19 で変わるのでしょうか？」

学長 菱沼 典子

(4) 本学からの話題提供

①「本学卒業生の現況

～令和元年度卒業生状況調査(COVID-19による就労・生活への影響)より～」

教授 林 辰弥

②「本学学生の学習状況

～COVID-19による出校停止中の教育についての調査より～」 教授 浦野 茂

③ 地域交流センター事業紹介「看護職者を支援する相談窓口事業について」

教授 中西 貴美子

(5) 情報交換(10分間)

## Ⅱ. 活動の結果と評価

<結果>

### 1. 出席者の概要について

出席者は52名で、看護管理者30名、三重県医療保健部より2名、学内教職員20名であった。看護管理者の医療圏別内訳は、北勢9名、中勢14名、南勢5名、東紀州1名、その他1名であった。また、施設別内訳は、病院27名、訪問看護ステーション2名、その他1名であった。



### 2. 出席者によるアンケート結果について

開催後、看護管理者に Microsoft Forms によるアンケートを実施し、回収率は 66.7%

であった。アンケート結果は図 1 のとおり、各項目に関して「とても満足」、「満足」、「やや不満」、「不満」の 4 段階で評価した。

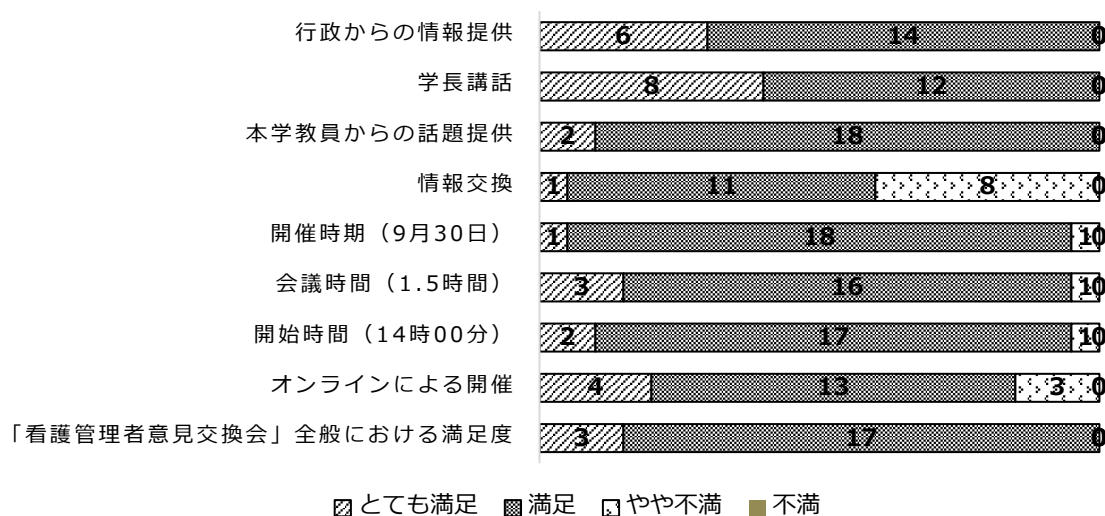


図 1. 出席者によるアンケートの結果

本学(行政・学長・教員)からの話題提供については、いずれも 100%の回答者が「とても満足」、「満足」と回答した。行政からの情報提供については、「COVID-19 に関する新しい情報や今後の方向性等、病院の感染対策管理に即役立つ情報であった」、「クラスターの状況と発生時の対応について具体的に知ることができた」との感想があった。また、学長と教員からの話題提供について、「学生の現状が理解でき、実習経験が不足している新人への関わりや教育支援の課題を痛感した」、「改めて実習の必要性について考える機会となった」、「コロナ禍の学生の生活や学習、考え方について理解できた」等の感想がみられた。

一方で、情報交換では、8名(40.0%)が「やや不満」と回答した。その理由として、「リモートのためか活発な意見交換にはならなかった」、「Web 会議では、他の看護管理者との交流は難しいと感じた」等の意見があった。「とても満足」、「満足」との回答には、「県内の中心となる病院の管理者の話が聞けてよかった」との感想もあった。

会議全般の満足度については、「とても満足」が 3名(0.15%)、「満足」が 17名(85.0%)であり、理由として「コロナ禍の時勢を反映したテーマだった」、「実習や新人教育の参考にしたい」等の感想があった。

また、オンライン開催については、17名(85.0%)が「とても満足」、「満足」と回答し、「移動がないため通常業務の中で参加しやすかった」、「オンラインに最初は抵抗があったが、実際参加すると時間的にも余裕がもて、内容的もこれまでと遜色がないと感じた。」との感想があった。一方で、3名が「やや不満」と答えており、「慣れていないため、意見交換がしにくい」「顔の見える場のほうがよい」との意見があった。

### 3. 「ご意見・ご質問票」について

会議終了後、出席の看護管理者 30 名へ会議に関する「ご意見・ご質問票」をメールにて配布し、10 名から回答があった。会議の内容について、来年度の新卒看護職員への教育のあり方、臨地実習の必要性や課題に関する多くの意見や感想、質問があった。また、

意見や感想から、オンライン開催のメリットや課題も明らかになった。これらの内容をまとめ、今後の大学教育、地域貢献に反映できるよう学内教職員で共有した。さらに、欠席者を含む県内病院等の看護管理者へ、メールまたは郵送により情報提供を行った。

#### <評価>

今年度、医療現場は COVID-19 による影響で多忙を極める中、30 名の看護管理者に出席いただき、数値目標：出席者 18 名(過去 3 年の平均出席者数の半数)を大きく上回った。オンライン会議への変更により、COVID-19 による感染を防止だけでなく、業務との両立や時間的負担の軽減というメリットもあったのではないかと考える。

出席者のアンケートより、話題提供について、COVID-19 による感染発生時の初動対応や感染対策といった実践的な内容から、コロナ禍の新卒看護職員の就業や生活、また学生の学習や考え方といった今後の教育につながる内容について、知見を広げていただくことができたのではないかと考える。このことから、出席者の看護管理実践に有用な情報の提供、各施設における看護教育に有用な話題の提供ができたのではないかと考える。一方で、例年のような「意見交換」の機会を確保できず、10 分間の「情報交換」と事後の「ご意見・ご質問票」で補ったが、出席者からは、意見交換のように自由な発言、活発な意見交換ができないことを惜しむ意見が多く、例年のような「意見交換」を期待する出席者が多いことがうかがわれた。

### Ⅲ. 今後の課題

- ・次年度も COVID-19 の影響は続くことが予測されることから、今年度のアンケート結果、「ご意見・ご質問票」の内容を参考に、看護管理者が出席しやすい方法、時期・時間を十分検討し、開催する。
- ・オンライン開催の場合の「意見交換」の方法を検討する。また、時間の有効活用と活発な意見交換ができるよう事前に意見交換のテーマを設定し、出席者へ伝える。

(担当：長谷川明)

### 3.人事交流教員支援

担当者：長谷川明子、永見桂子

#### 【事業要旨】

本事業は、人事交流教員が1年間本学助手として教育、研究、大学経営および地域貢献を担うにあたり、新たな環境に順応し目標達成できるよう相談的役割を担う。

#### 【地域貢献のポイント】

県内の病院より人事交流として派遣された看護職が、本学における教育や研究活動へのモチベーションを維持し、臨床での実践活動に反映することができる。

#### I. 活動計画

＜実施計画＞

##### 1. 定期的なミーティング

人事交流教員の日ごろの活動を報告し合い、気づきや学び、悩みごとなどを共有する。できるだけリラックスした環境で、時にはランチミーティングやティーミーティングとしてリフレッシュをはかる。月1回程度とするが、状況をみて回数を増減する。

##### 2. 個別相談

随時メールによる相談を行う。支援側よりメールを送り、相談しやすい環境をつくる。ミーティングの内容やメールでのやりとりから、必要時は個別に面談をする機会を作る。

##### 3. その他の対応

- ・相談内容によって必要な場合は、本人の意向を尊重しながら、適所へ報告する。
- ・定期的なミーティングの実施日程については、配属先の領域長に情報提供する。

#### II. 活動の結果と評価

人事交流教員の授業や実習等の業務上の都合を考慮しつつ、下記の日程でミーティング等を行った。人事交流教員3名と地域交流センター配属の特任教員1名が参加し、COVID-19の感染防止対策を十分にとりながら、毎回1時間程度で開催した。内容は、各時期における教育や研究に関する体験について自由に語り合い、気づきや学び、悩み事を共有した。

- ・4月：COVID-19の感染拡大防止のため集合せずメールによる支援
  - ・6月：「ティーミーティング」：入職からの体験を振り返って
  - ・8月：「ランチミーティング」：授業や学内実習、各自の研究等について
  - ・11月：「ミーティング with アロマセラピー」：領域別実習や研究等について
  - ・1月：「リフレッシュ！ミーティング」：実習・研究、臨床の状況、今後の課題について
- 3月には、「ミーティング～送る会～」として、1年間の体験を振り返り、臨床への抱負を共有するミーティングを開催する予定である。本事業により、日常の職務から離れ、リラックスして語り合う時間が、リフレッシュにつながったのではないかと考える。

#### III. 今後の課題

次年度も、対象となる人事交流教員の状況に合わせて回数、方法を検討し実施する。

## VII. その他

### 1. 情報発信・広報活動



# 1. 情報発信・広報活動

令和2年度の地域交流センター事業に関する情報発信・広報活動は以下のとおりである。

## 1. 年報発行

地域交流センター年報 令和2年度 VOL.23

発行日：令和3年3月

(担当：長谷川明)

## 2. 報告会開催

令和2年度地域交流センター活動報告会

日時：令和3年3月18日(木) 10時40分～11時55分

場所：三重県立看護大学 講堂

発表：ポスター

方法：学内は報告会、学外はHPに記載し公表

### 第一部

1. 令和2年度地域交流センター活動の総括 1・2

【教員提案事業：今年度終了】

2. 看護に役立つものづくりシーズ発掘

3. ケアする人のためのセルフケアのつどい

4. 卒後1年目を対象としたフィジカルアセスメント研修会

5. 地域の健康づくり支援事業

6. 在宅で障がいのある子どもを療育する家族のピア・サポート事業

7. みかん大認知症カフェ

8. 児童英語(キッズ英会話)

9. 英米文学の読書会(文学作品を読んで語ろう)

【教員提案事業：継続中】

10. 新任期保健師の災害時における公衆衛生看護活動支援事業

### 特別展示

11. 産学連携知財アドバイザーの活動

### 第二部

【受託事業】

12. 三重県新人助産師合同研修

13. 助産師(中堅者)研修

14. 認知症対応力向上研修

15. 母子保健体制構築アドバイザー事業

【認定看護師教育課程】

16. 認定看護師教育課程「認知症看護」

【卒業生支援事業】

17. 卒業生のきずなプロジェクト

18. 卒業生支援構想プロジェクト

### 3. ホームページ（地域交流センターおよび大学トピックス欄における情報発信）

- ・地域交流センターの活動の「みえる化」を目的に、積極的に活動記事をアップし、昨年度記事数 72 件（R1. 1. 31 現在）に比し、今年度は 80 件（R2. 1. 31 現在）を掲載できた。
- ・地域交流センターのホームページを活用しやすくするため、以下の修正を加えた。
  - \* 本学 HP トップページ「地域の皆様へ」に地域交流センターのリンクを挿入
  - \* 地域交流センターのサイドバーに地域交流センター全ての事業を掲載
  - \* 地域交流センターのトピックスに「参加募集中の教員提案事業」と各事業のご案内の「令和 2 年度版更新」を掲載

（担当：川瀬）

### 4. 県内関係機関へのパンフレット配布

令和 2 年度 講師派遣のご紹介（2500 部）

（担当：長谷川明）

### 5. イベントへの参加

みえアカデミックセミナー2020 三重県立看護大学公開セミナー

日 時：令和 2 年 8 月 21 日（金） 13 時 30 分～15 時 20 分

場 所：三重県文化会館

テーマ：子育て・孫育てで知っておきたいこと-子どもの成長と生活習慣の大切さ-

講 師：教授 宮崎つた子

参加人数：31 名

主 催：三重県生涯学習センター



公開セミナーの様子

（担当：長谷川明）



## 6. テレビ・ラジオ・新聞等による広報

令和2年度の広報を主たる目的としたテレビ・ラジオの放送、新聞掲載を以下に示す。

表 1. テレビ・ラジオ・新聞等による広報

媒体		内容		月	日
TV	NHK 津放送局	まるっと！みえ	みかん大子育て応援ダイヤル みえん大高齢者健康支援ダイヤル	5	7
	三重テレビ放送	Mie ライブ	みかん大子育て応援ダイヤル みえん大高齢者健康支援ダイヤル	5	7
			公開講座	1	23
	ケーブルテレビ CTY	ケーブル News	みかん大子育て応援ダイヤル みえん大高齢者健康支援ダイヤル	5	19
	ZTV コミュニティチャンネル	じもトピ	よりみちカフェ	7	8
			公開講座	1	27
	伊賀上野ケーブルテレビ	i-city ニュース	伊賀市立上野総合市民病院との連携協力に関する協定 調印式	8	28
ラジオ	FMみえ	CampusCube 「キャンパスインフォメーション」	公開講座	12	11
新聞	朝日新聞	伊賀市立上野総合市民病院との連携協力に関する協定 調印式		8	28
	中日新聞	伊賀市立上野総合市民病院との連携協力に関する協定 調印式		8	28
		公開講座		1	24
	読売新聞	伊賀市立上野総合市民病院との連携協力に関する協定 調印式		8	28
	毎日新聞	伊賀市立上野総合市民病院との連携協力に関する協定 調印式		8	29
情報誌	いきいき生涯& ゆうゆう学習	第2回公開講座(10/30 開催予定であったが中止となった)		6 月 (第 33 号)	
	YOU 伊賀タウン 情報ユー	伊賀市立上野総合市民病院との連携協力に関する協定 調印式		8	28

(担当：星野)



## 2. 各種講座案内と申込書

- 1) みかん大出前講座
- 2) みかん大リクエスト講座
- 3) 看護研究 SEED
- 4) 看護研究エッセンス
- 5) ハウツー看護研究
- 6) 施設単位看護研究支援
- 7) 看護研究発表会支援



## 1) みかん大出前講座のご案内

本学の教員は、自身の教育や研究、社会活動の専門性や成果をもとに、県民の皆さまを対象とした出前講座を行っております。皆さまからのお申し込みにより、集会・学習会などにお伺いして講演を行います。本冊子掲載の講座一覧からご希望のテーマをお選びください。

### 1. 目的

みかん大出前講座は、より多くの県民の皆さまに、看護や医療、健康などに関心をもってもらっていただくことを目的としています。

### 2. 対象者

県内に在住・在勤・在学の5名以上の参加者が見込めるグループ・団体などが対象です。広く地域の方を受講者として募集することができる場合は、公開講座としての開催をお願いします。（本学ホームページに開催案内を掲載します）

### 3. ご留意いただきたいこと

- ・各講座の時間は1講座90分以内となります。
- ・講師料は無料です。交通費のみご負担いただきます。（請求書は発行しません）
- ・交通費の計算は、申込者様所属の規程に基づき、お願いします。
  - \*規程がない場合、本学規程で対応いたしますので、お問い合わせください。
  - \*ただし、本学から会場までの距離が2km未満の場合は、負担いただく必要はございません。
  - \*交通事情等により現地宿泊が必要となる場合は、申込者様側で宿泊施設を予約し、その料金（素泊まり料金）を直接宿泊施設にお支払いください。
- ・1施設からの申込件数は、2件以内とさせていただきます。
- ・会場の手配、必要物品（PC・プロジェクター・スクリーン・講義資料の印刷等）の準備、参加者への開催周知は申込者様側でお願いします。なお、本学を会場としてお貸しすることもできます（有料）。
- ・政治、宗教、営利を目的として実施する場合、もしくは、政治・宗教・営利を目的とした催しと一体的に実施する場合はお断りします。
- ・公共性の高い保健・医療・福祉関係の方を優先的にご受けし、それ以外の方はご相談に応じます。
- ・開催日や時間についてはご相談に応じますが、教員の業務の都合上ご希望に添えない場合があります。なお、土・日・祝日や夜間（終了時間が20時以降になる場合）の開催については対応いたしかねますので、ご了承ください。
- ・各講座には、回数に限りがあります。やむをえずお断りすることがございますので、ご了承ください。受付が完了した講座の情報は本センターホームページに随時掲載いたしますので、ご確認ください。
- ・講座のビデオ・カメラ・携帯電話等での撮影・録音は固くお断りいたします。

#### 4. お申し込み期間

お申し込みは、令和2年11月27日（金）まで受付けます。開催希望日の60日前までにお申し込みください。講座ごとに、開催上限回数になり次第、受付終了となります。

#### 5. テーマ選定～お申し込みの流れについて

「3 ご留意いただきたいこと」をよくお読みください。



本冊子「令和2年度 三重県立看護大学 地域交流センター 講師派遣のご紹介」に記載されている「みかん大出前講座」から、ご希望のテーマをお選びください。



〇ページの「みかん大出前講座」申込書にご希望のテーマ名、必要事項等を記載してください。



必要事項を記入した申込書を、FAX または E-mail にて送付し、本センターまで、お申し込みください。（TEL/FAX：059-233-5610、E-mail：rc@mcn.ac.jp）

#### 6. お申し込みから実施までの流れ

申込書に記載のある希望内容に応じ、本センターで担当講師と日程を調整します。



日程調整後、申込者様宛に決定通知書をお送りします。（日時の調整がつかず、やむをえずお断りすることがあります。ご了承ください。）



決定通知書を受領後、講座内容の詳細について、申込者様と担当講師との間で直接打ち合わせをしていただきます。

※申込みの前にお問い合わせいただくことも可能です。

※本学ホームページ「三重県立看護大学＞地域交流センター＞みかん大出前講座」では、みかん大出前講座一覧が確認でき、申込み多数にて受付を終了した講座に関する情報や、「みかん大出前講座申込書」をダウンロードできます。

※尚、申し込み後1か月を過ぎても、本センターからの返事がない場合は、お手数をおかけしますが、お電話にてご確認くださいませようお願いします。

#### 7. お問い合わせ先

三重県立看護大学 地域交流センター （〒514-0116 三重県津市夢が丘1丁目1番地）

TEL/ FAX (059) 233-5610 E-mail: [rc@mcn.ac.jp](mailto:rc@mcn.ac.jp)

ホームページ//三重県立看護大学＞地域交流センター＞みかん大出前講座

# 令和2年度「みかん大出前講座」申込書

## 三重県立看護大学地域交流センター

申込書記入日 令和2年 月 日

機関・団体名称		分類		医療機関・行政機関・社会福祉機関・ 教育機関・NPO法人・専門職団体・ ボランティア団体・その他( )	
連絡先	(ふりがな) 担当者名				
	住所	〒		電話	
	FAX		E-mail		

\*申込書にご記入いただいた個人情報につきましては、出前講座決定通知書の送付や出前講座実施に向けての打ち合わせに使用させていただきますものであり、その他の用途に使用することはありません。

出前講座の希望内容	希望日時 第1～3 (土日・ 祝日不可)	① 令和 年 月 日 ( ) 時 分 ～ 時 分 ② 令和 年 月 日 ( ) 時 分 ～ 時 分 ③ 令和 年 月 日 ( ) 時 分 ～ 時 分					
	希望 会場名			参加予定人数		名	
	会場 所在地			参加者の内訳 (例：看護師30名、 保護者30名、高校 2年生30名など)			
	番号/ テーマ名	No. —	テーマ名				
出前講座資料		<input type="checkbox"/> 事前に必要 <input type="checkbox"/> 当日でよい *資料の有無は講座によります。 必要部数の印刷は依頼者側で行っていただきます。				広く地域の方を受講者として募集することができ (本学HPに掲載) 可能 不可能 要相談	

以下は地域交流センター使用欄

### 三重県立看護大学地域交流センター「みかん大出前講座」決定通知書

受付 No( )

ご依頼いただきました出前講座は、下記の通り決定しましたのでお知らせします。

令和2年 月 日

決定事項	テーマ番号	No.	テーマ名			
	開催日時	令和 年 月 日 ( ) 時 分 ～ 時 分				
	講師氏名			講師連絡先		

上記の講師にご連絡のうえ、詳細な打ち合わせを行ってください。ご不明な点がございましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

【連絡先】三重県立看護大学地域交流センター

〒514-0116 津市夢が丘1丁目1番地1

TEL/FAX (059) 233-5610 E-mail: [rc@mcn.ac.jp](mailto:rc@mcn.ac.jp)

## 2) みかん大リクエスト講座のご案内

本センターでは、看護研究に関する講座や出前講座等を実施しております。しかし、いずれの講座にも含まれない内容をご希望される場合は、「出前講座にはない〇〇に関する講演をしてほしい」などご要望に合わせて、講師を派遣いたします。

講師派遣のご要望の際には、〇ページ「みかん大リクエスト講座」申込書にご記入の上、下記のお問い合わせ先まで FAX または E-mail にてお送りください。

なお、「みかん大リクエスト講座」は有料となりますので、あらかじめご了承ください。

### 1. ご留意いただきたいこと

- ・講師料はお問い合わせください。別途交通費もご負担いただきます。
- ・請求書は、講座が終わりましたら、当センターより送付いたします)
  - \* 本学から会場までの往復に要する交通費をご負担いただきます。
  - \* 交通事情等により現地宿泊が必要となる場合は、申込者様側で宿泊施設を予約し、その料金（素泊まり料金）を直接宿泊施設にお支払いください。
- ・会場の手配、必要物品（PC・プロジェクター・スクリーン・講義資料の印刷等）の準備参加者への開催周知は申込者様側でお願いします。なお、本学を会場としてお貸しすることもできます（有料）。
- ・政治、宗教、営利を目的として実施する場合、もしくは、政治・宗教・営利を目的とした催しと一体的に実施する場合はお断りします。
- ・公共性の高い保健・医療・福祉関係の方を優先的にご受けし、それ以外の方はご相談に応じます。
- ・開催日や時間についてはご相談に応じますが、教員の業務の都合上ご希望に添えない場合があります。
- ・講座のビデオ・カメラ・携帯電話等での撮影・録音は固くお断りいたします。

### 2. お申し込み期間

令和2年度のお申し込みは、令和2年11月27日(金)まで受け付けます。開催希望の60日前までにお申し込みください。申し込み前にお問い合わせいただくことも可です。

- ・本学ホームページ「三重県立看護大学＞地域交流センター＞みかん大リクエスト講座」では、「みかん大リクエスト講座」申込書をダウンロードできます。
- ・希望の教員名についてはなるべくご記入いただきますようお願いいたします。  
各教員の担当授業科目は、本学ホームページ「三重県立看護大学＞大学案内＞教員一覧」、各教員の現在の研究課題は、本学ホームページ「三重県立看護大学＞大学案内＞教員一覧＞教員個人名」からご確認ください。

※尚、申し込み後1か月を過ぎても、本センターからの返事がない場合は、お手数をおかけしますが、お電話にてご確認くださいませようお願いします。



### 3. お問い合わせ先

三重県立看護大学 地域交流センター

〒514-0116 三重県津市夢が丘1丁目1番地1

TEL/ FAX (059) 233-5610

E-mail : [rc@mcn.ac.jp](mailto:rc@mcn.ac.jp)

ホームページ//三重県立看護大学>地域交流センター>みかん大リクエスト講座

### 4. 昨年度依頼のあったテーマ

分類	テーマ
医療機関	キャリアラダー教育の見直し
	効果的な研修の持ち方を学ぶ
	看護診断研修
	看護研究研修
	高齢者の看取りについて：事例を振り返り考える
	看護場面を倫理的視点で見つめ直してみよう
	形態機能学を活かした看護実践
	フィジカルアセスメント（呼吸・循環）研修
	フィジカルアセスメント研修
	コーチングの基本的な内容
	感染看護
社会福祉機関	看護と表裏一体の高齢者虐待について
	感染の予防と対策について
	持ち上げない移乗介助
	家族介護教室－認知症の予防やケアについて学ぼう－
	お薬の服用について
行政機関	健康寿命をのばそう-食生活を考え、生活習慣を改善する
	健康寿命をのばそう-こころの健康
	子ども家庭福祉
その他	持ち上げない移乗介助
	生活習慣でできる熱中症対策

# 令和2年度 「みかん大リクエスト講座」 申込書

## 三重県立看護大学地域交流センター

※希望するテーマに該当する講座がないご依頼の場合に、ご使用ください。有料でお受けします。

申込書記入日 令和2年 月 日

機関・団体名称		分類		医療機関・行政機関・社会福祉機関・ 教育機関・NPO法人・専門職団体・ ボランティア団体・その他( )	
連絡先	(ふりがな) 担当者名				
	住所	〒	電話		
	FAX		E-mail		

\*申込書にご記入いただいた個人情報につきましては、本事業決定通知書の送付や本事業実施に向けての打ち合わせに使用させていただきます。その他の用途に使用することはありません。

講師派遣の希望内容	希望日時 第1～3	① 令和 年 月 日 ( ) 時 分 ～ 時 分 ② 令和 年 月 日 ( ) 時 分 ～ 時 分 ③ 令和 年 月 日 ( ) 時 分 ～ 時 分		
	希望 会場名			参加予定人数 名
	会場 所在地			参加者の内訳 (例：看護師30名、 保護者30名、高校 2年生30名など)
	希望する 教員氏名	テーマ名		
具体的内容 *別紙添付可		*その他ご希望がありましたらご記入ください。		

以下は地域交流センター使用欄

### 三重県立看護大学地域交流センター「みかん大リクエスト講座」決定通知書 受付No( )

ご依頼いただきました事業の担当教員は、下記の通り決定しましたのでお知らせします。

令和2年 月 日

決定事項	テーマ名				
	開催日時	令和 年 月 日 ( ) 時 分 ～ 時 分			
	職名 教員氏名		教員 連絡先		

上記の教員にご連絡のうえ、詳細な打ち合わせを行ってください。ご不明な点がございましたら下記の連絡先までご連絡ください。

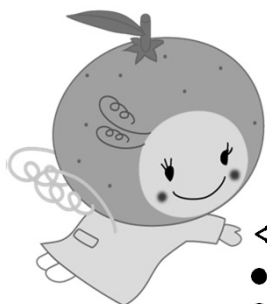
【連絡先】 三重県立看護大学地域交流センター

〒514-0116 津市夢が丘1丁目1番地1

TEL/FAX (059) 233-5610 E-mail: [rc@mcn.ac.jp](mailto:rc@mcn.ac.jp)

はじめてみませんか？

## 3) 看護研究SEED



### <目的>

看護研究の基本的内容に関する講座を通して、研究を進めるための基礎的な方法を身に付けることを支援します。

### <対象>

- 看護の現場で看護実践を行っている方
- これから看護研究に取り組もうとしている方、もしくは現在取り組んでいる方

### <概要>

昨年度までの「看護研究の基本STEP」に、新規テーマ「看護研究における倫理的配慮」と「研究デザインのタイプと選択」を加え、5日間の開催とし、受講方法にも単回受講コースを設け、受講者が日常の看護業務の中から疑問を見出し、スムーズに看護研究へ取りくめるよう企画しました。また、看護研究研修の次のステップである「ハウツー看護研究」につながるよう「量的研究（実験・計測）」のテーマも加えました。さらに受講者に看護研究の種を届けることを願い、研修名も「看護研究SEED」と改名しました。

### <費用>

全5回受講コース：9,372円（消費税込）/10科目＋フリー2時間  
単回受講コース：5,973円（消費税込）

### <募集人数> 50名程度

### <受講者決定>

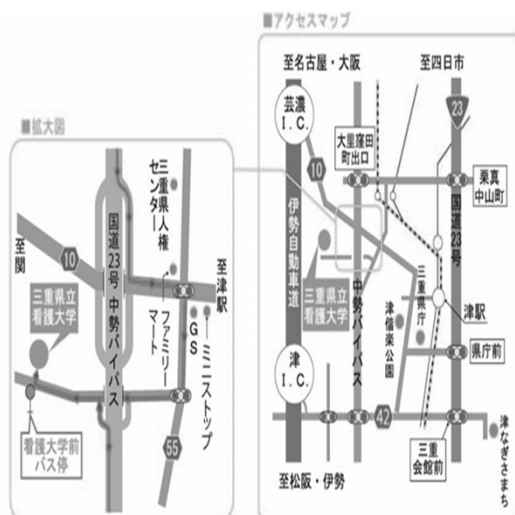
原則として全5回コース受講者を優先の上、申込の先着順にて受講を決定します。  
受講決定者には、受講決定通知を送付します。  
応募締切日を1週間過ぎても連絡がない場合は、お問い合わせください。

### <会場・アクセス>

三重県立看護大学  
（三重県津市夢が丘1-1-1）



津駅 西口	三交バス 「看護大学・夢が丘」線	「看護大学前」下車 徒歩1分
	タクシーで約15分	



※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、今後の状況次第では、やむを得ず講座を中止する場合があります。  
その場合、本学ホームページにて中止のお知らせをしますので、ご確認をお願いいたします。

## <申込方法>

QRコードを読み込んでいただくと、申込みフォームに移動します。

必要事項をご記入のうえ、送信してください。

または、下記申込書に必要事項をご記入のうえ、申込先へメール、またはFAXでお申し込みください。

申込締切 令和2年6月14日（日）



【申込先】※送付状不要

E-mail : rc@mcn.ac.jp

FAX : 059-233-5610

看護研究SEED 申込書						
フリガナ				職業 (例) 看護師		
お名前						
所属施設名						
決定通知書の送付先住所	〒					
連絡先 (天候による講座の中止等、急な連絡の際に、 確実にご本人に連絡がつく連絡先をお書きください)	携帯番号					
	Email					
受講目的	今回の受講目的に最も当てはまるものに○を付けてください					
	1	自身が研究を行うため				
	2	研究指導を行う立場のため				
	3	その他(理由: )				
受講方法 (□にチェック)	<input type="checkbox"/> 全5回受講コース		<input type="checkbox"/> 単回受講コース			
単回受講コースの方は以下の表で、希望受講回に○をお付けください						
希望受講回に ○	回	開催日	曜 日	時 間	担当者	テーマ
	1	6月23日	火	12:50~13:00	永見 桂子	あいさつ(地域交流センター長)
				13:00~14:30	脇坂 浩	看護研究の意義と文献の活用
				14:40~16:10	図書館	文献検索と図書館の利用
	2	7月3日	金	13:00~14:30	大川 明子	研究計画の立て方と書き方
				14:40~16:10	大川 明子	看護研究における倫理的配慮(new)
	3	7月16日	木	13:00~14:30	上田 貴子	研究デザインのタイプと選択(new)
				14:40~16:10	関根 由紀	質的研究(インタビュー)
	4	7月22日	水	13:00~14:30	関根 由紀	量的研究(アンケート)
				14:40~16:10	長谷川 智之	量的研究(実験・計測)(new)
	5	8月4日	火	10:00~12:00	地域交流センター	情報処理室 フリー開放
				13:00~14:30	脇坂 浩	研究論文作成
				14:40~16:40	上田 貴子	プレゼンテーション(演習含む)
				16:50~17:00	地域交流センター	修了証書授与

※記載いただく個人情報は、本事業の運営のみに使用します。なお、本事業の様子を、写真等で本学のホームページ等に掲載いたします。  
※会場内での写真撮影・録画・録音を禁止いたします。ご了承ください。

## <お問い合わせ先>

三重県立看護大学 地域交流センター

TEL : 059-233-5610 (平日9時~16時) E-mail : rc@mcn.ac.jp

ブラッシュ  
アップ

# 4) 看護研究エッセンス



## <目的>

講義を通して、研究を進めるために必要な能力の強化を支援します。

## <対象>

- 本センターの「看護研究SEED（旧看護研究の基本ステップ）」もしくは同等の研修を修了している方
- しばらくぶりに研究にチャレンジしようと思っている方
- 研究手法をブラッシュアップしたい方
- 表計算ソフト（エクセル）を使ったことがある方

## <費用>

1コース（3コマ） 7,106円（消費税込）

## <内容>

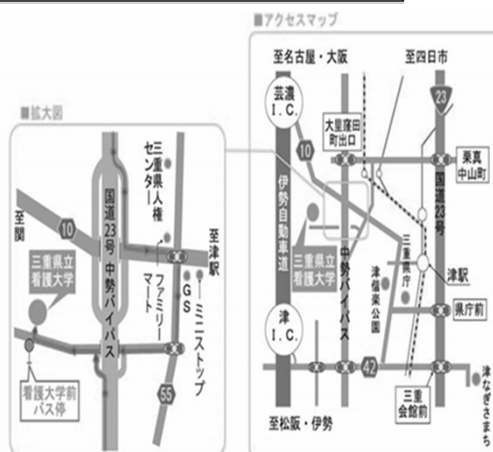
コース	統計解析① （基本編）	統計解析② （基本編）
日時	7月4日（土） 10：40～16：10	11月28日（土） 10：40～16：10
担当者	斎藤 真	斎藤 真
部屋	第2情報処理教室	第2情報処理教室
持ち物	USBメモリ	USBメモリ
概要	初学者を対象に、看護研究でよく用いる統計手法について考え方と実際の使い方を学びます。 アンケートや調査、実験データの集計や処理、結果の解釈につなげるための講座です。	統計解析①（基本編）と同内容

## <会場・アクセス>

三重県立看護大学  
（三重県津市夢が丘1-1-1）



津 駅 西 口	三交バス 「看護大学・夢が丘」線	「看護大学前」下車 徒歩 1 分
	タクシーで約 15 分	



※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、今後の状況次第では、やむを得ず講座を中止する場合があります。  
その場合、本学ホームページにて中止のお知らせをしますので、ご確認をお願いいたします。

## <申込方法>

QRコードを読み込んでいただくと、申込みフォームに移動します。  
必要事項をご記入のうえ、送信してください。  
または、下記申込書に必要事項をご記入のうえ、申込先へメール、  
またはFAXでお申し込みください。  
応募締切日を1週間過ぎても連絡がない場合は、お問い合わせください。



**申込締切**

**統計解析①**  
**6月21日（日）**

**統計解析②**  
**11月15日（日）**

### 【申込先】※送付状不要

E-mail : rc@mcn.ac.jp

FAX : 059-233-5610

看護研究エッセンス 申込書			
ご希望のコース <input checked="" type="checkbox"/> をつけてください。		<input type="checkbox"/> 1.統計解析① 7/ 4 <input type="checkbox"/> 2.統計解析② 11/28	
フリガナ		職業 (例) 看護師	
お名前			
所属施設名			
決定通知書の送付先住所	〒		
連絡先 (天候による講座の中止等、急な連絡の際に、 確実にご本人に連絡がつく連絡先をお書きください)		携帯番号	
		Email	
過去もしくは今年度に本センターの「看護研究SEED（旧看護研究の基本ステップ）」を受講したことがありますか？ 今年度令和2年度看護研究SEEDを受講頂いた方は、本コースにお申込できます。 ※「ない」方は下記にお答えください。			ある      ・      ない  看護研究SEED今年度受講予定  ※いずれかに○をつけてください。
「ない」方にお聞きします。 今まで研究方法についてどのような研修を受けたことがありますか？ 具体的にご記入ください。			

※記載いただく個人情報は、本事業の運営のみに使用します。なお、本事業の様子を、写真等で本学のホームページ等に掲載いたします。  
※会場内での写真撮影・録画・録音を禁止いたします。ご了承ください。

## <お問い合わせ先>

三重県立看護大学 地域交流センター

TEL : 059-233-5610（平日9時～16時）E-mail : rc@mcn.ac.jp



研究体験

# 5) ハウツー看護研究



## <目的>

調査や実験によるデータ収集、考察に至る一連の過程を通して、研究を進めるための基礎的な方法を身に付けることを支援します。

## <対象>

- 本センターの「看護研究SEED（旧看護研究の基本ステップ）」もしくは同等の研修を修了している方。
- 原則として、申し込んだコースの全日程に参加できる方。  
※ご希望の各コースを受講できます。

## <費用>

1 コース（7コマ） 8,239円（消費税込）

## <内容>

開催の様子は本学ホームページ（//三重県立看護大学>地域交流センター>ハウツー看護研究）をご参照ください。

コース	質的研究コース （インタビュー）	量的研究コース （アンケート）	量的研究コース （実験・計測）
日時	①8月21日（金）13：00～16：10 ②9月 4日（金）13：00～16：10 ③9月18日（金）10：40～16：10	①10月10日（土）9：00～12：10 ②10月10日（土）13：00～16：10 ③10月24日（土）9：00～14：30	①12月 5日（土）9：00～12：10 ②12月 5日（土）13：00～16：10 ③12月12日（土）9：00～14：30
予備日 （天候等 中止の場合）		11月7日（土）	
担当者	浦野 茂・関根由紀	斎藤 真・菅原啓太	斎藤 真・長谷川智之
テーマ	インタビューによる 質的研究を行ってみる	「質問紙の作成と調査の実施」 —職務満足度について考えをさぐる—	「看護職者の腰痛に関連する援助時のベッドの高さについて」 ～身近にあるモノを使用し、明日から使える実験研究！～
第1回	1. 質的研究法の内容と特徴 2. 研究課題を作る 3. 研究デザインを考える 4. インタビューガイドを作る	1. はじめに 2. 調査を行う前に 倫理的配慮を含めた調査研究の注意事項 3. 調査用紙に用いる尺度 4. 調査用紙の作成： フェースシート、単一回答/選択、 複数回答/選択、順位法、数値配分法、 SD法、自由記述 5. 調査開始 6. データの入力・集計	1. 看護研究における実験研究とは 2. 実験研究の紹介 3. 実験を行う前に： 倫理的配慮を含めた実験の注意事項
第2回	1. インタビューを行う 2. トランスクリプトを作る 3. 分析する	1. 集計結果の整理、図式化 2. 統計的解析 3. データの検討 4. 結果の整理と考察への展開	1. 実験の準備： 実験環境、必要な物品、実験手順の確認など 2. 実験開始： 実験協力者への説明と同意 2種類のベッドの高さで看護援助を行った 際の腰部負担の測定 3. データの集計
第3回	1. 分析結果をまとめる 2. 「発見」を作る	・論文の作成： 目的、方法、結果、考察の記述	1. データ分析： 図表の作成、excelを使用した検定 2. 「考察」の検討： 論文の考察について、何を記述すべきか 3. 抄録（学会発表レベル）の作成
担当者からの コメント	質的研究とは、一言で言えば、対象となる人たちの実践や考え方に学ぶことです。シンプルで楽しい作業ですが、だからこそその難しさもあります。そのあたりを一緒に作業しながら学んでいきましょう。	「アンケートを作りたいけど、どうやって作るのだろう」と思っているかもしれません。アンケート作りには、ちょっとしたコツがあります。コツを知り、ゼロから一緒にアンケートを作ってみませんか。皆様のご参加をお待ちしています！	実験研究は、高額な機器を使用しなければならないというイメージがあるかもしれませんが、本研修ではそのイメージを払拭します。「こんな簡単に実験ができるの？」と参加者全員が思えるような内容ですので、ぜひ気軽にご参加ください！

## <会場・アクセス>

三重県立看護大学  
(三重県津市夢が丘1-1-1)



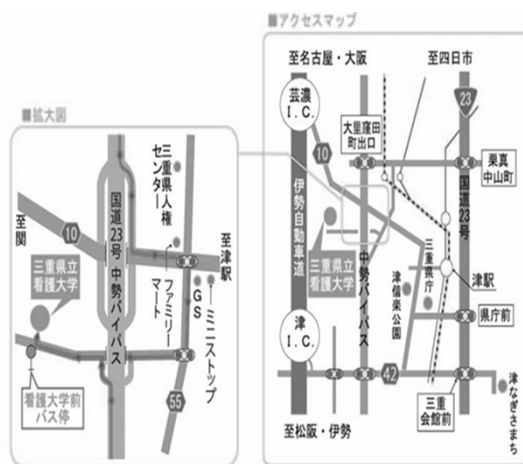
津  
駅  
西  
口

三交バス  
「看護大学・夢が丘」線

タクシーで約15分

「看護大学前」下車  
徒歩1分

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、今後の状況次第では、やむを得ず講座を中止する場合があります。  
その場合、本学ホームページにて中止のお知らせをしますので、ご確認をお願いいたします。



## <申込方法>

QRコードを読み込んでいただくと、申込みフォームに移動します。  
必要事項をご記入のうえ、送信してください。  
または、下記申込書に必要事項をご記入のうえ、申込先へメール、またはFAXでお申し込みください。  
応募締切日を2週間過ぎても連絡がない場合は、お問い合わせください。



申込締切

インタビュー  
7月19日(日)

アンケート  
9月6日(日)

実験・計測  
11月8日(日)

【申込先】※送付状不要

E-mail: rc@mcn.ac.jp

FAX: 059-233-5610

ハウツー看護研究 申込書			
ご希望のコース ☑をつけてください。		<input type="checkbox"/> 1. 質的研究コース (インタビュー) <input type="checkbox"/> 2. 量的研究コース (アンケート) <input type="checkbox"/> 3. 量的研究コース (実験・計測)	
フリガナ		職業 (例) 看護師	
お名前			
所属施設名			
決定通知書の送付先住所	〒		
連絡先 (天候による講座の中止等、急な連絡の際に、 確実にご本人に連絡がつく連絡先をお書きください)	携帯番号		
	Email		
過去もしくは今年度本センターの「看護研究SEED(旧看護研究の基本ステップ)」を受講したことがありますか? 今年度令和2年度看護研究SEEDを受講頂いた方は、本コースにお申込できます。 ※「ない」方は下記にお答えください。		ある ・ ない 看護研究SEED今年度受講予定 ※いずれかに○をつけてください。	
「ない」方にお聞きします。 今まで研究方法についてどのような研修を受けたことがありますか? 具体的にご記入ください。			

※記載いただく個人情報は、本事業の運営のみに使用します。なお、本事業の様子を、写真等で本学のホームページ等に掲載いたします。  
※会場内での写真撮影・録画・録音を禁止いたします。ご了承ください。

## <お問い合わせ先>

三重県立看護大学 地域交流センター

TEL: 059-233-5610 (平日9時~16時) E-mail: rc@mcn.ac.jp



## 6)「施設単位看護研究支援」のご案内

### ■施設単位看護研究支援事業とは

看護研究に取り組んでおられる施設単位を対象とした支援で、看護研究を行う看護職の複数のグループ又は個人に対し、本学の教員が看護研究のプロセスに沿った支援、施設内における研究支援体制構築への支援、研究に対する助言等を行います。

### ■目的

三重県内の看護職員の研究的思考の育成、向上を図ることを目的とします。

### ■研究支援期間

研究支援決定日から令和3年3月31日（最長）まで

### ■研究支援の方法

1回につき3時間の研究支援（1回当たりの指導件数は、最大6件を目安）×年4回を標準とします。研究支援期間が長期になりますので、計画的に進めていただきますようお願いします。

支援教員が貴施設に出向いて支援しますので、支援場所の設定等の事前調整をお願いします。支援の日程は、支援教員と直接相談して決めてください。

### ■支援料金について

- ・講師料および交通費（本学から会場まで）をご負担いただきます。詳しくは下記までお問い合わせください。
- ・講師料は、年間4回（1回当たり3時間）の指導を標準として算定した額（12万円（税別）。担当教員の職位に関わらず一定額となります。）となります。  
なお、実際の支援時間が、標準支援時間（3時間）を下回った場合でも講師料は減額しませんので、ご承知おき願います。ただし、やむを得ない事情により支援回数が3回以下となった場合は、講師料を減額（3万円×減少回数）いたします。
- ・支援業務に研究発表会に係る審査及び講評は含まれませんので、ご注意ください。  
「看護研究発表会支援」（研究発表会に係る審査及び講評支援事業）は、別途案内いたします。
- ・やむを得ない事情等により、現地宿泊が必要となる場合は依頼者側で宿泊施設を予約ください。なお宿泊料金（素泊まり料金）は、直接宿泊施設にお支払いください。

## ■ご留意いただきたいこと

- ・各研究は、各自もしくは施設にて主体的に進めていただくこと。
- ・研究を進めるにあたり、基本的な看護研究の研修を修了した方がみえることが望ましい。
- ・支援教員は、特定の領域に所属しておりますので、全ての領域に精通している訳ではございません。支援教員の専門領域でない研究に対しては、具体的な看護の内容について対応しかねる場合があります。
- ・支援希望教員については、ご希望に添えない場合があります。また、本センターの取り決めにより、2年以上同じ支援教員は継続できませんのでご了承下さい。

## ■お申込み方法

- ・所定の申込用紙により本センターまで、E-mail、郵送、又は FAX のいずれかでお申し込みください。申込用紙は、本学ホームページ（三重県立看護大学＞地域交流センター＞看護研究支援＞施設単位看護研究支援）からもダウンロードできます。
- ・申込みの締切期日は、令和2年2月28日（金）とさせていただきます。

## ■お申込みから支援終了（料金請求）までの流れ

- ①申込書に記載のうえ、本センターまでお申し込みください。
- ②本センターから支援教員決定通知書をお送りします。（4月中旬の送付を目途）
- ③貴施設と担当教員との間で支援日程等を調整された後、研究支援開始となります。
- ④すべての支援終了後、本センターから指導料金を請求いたします。料金は本学指定の口座への振込によりお支払ください。（誠に恐れ入りますが振込手数料はご負担願います）。

## ■お問合せ及びお申込み先

〒514-0116 三重県津市夢が丘1丁目1番地の1

三重県立看護大学 地域交流センター

TEL/FAX 059-233-5610

E-mail : rc@mcn.ac.jp

令和2年度 三重県立看護大学地域交流センター「施設単位看護研究支援」申込書

申込〆切：令和2年 2月 28日(金)

施設名						
担当者連絡先	住所	〒				
	担当者					
	電話		FAX		E-mail	

\* 申込書にご記入いただいた個人情報につきましては、施設単位看護研究支援決定通知書の送付や支援実施に向けての打ち合わせに使用させていただくものであり、その他の用途に使用することはありません。

<p><b>支援を希望する 研究テーマ数</b></p>	<p>件 （ MAX 6 件まで ）</p>
<p><b>研究内容</b> （各テーマ名をお書きく ださい。 別途、資料添付可）</p>	
<p><b>*支援希望教員名</b> （あればご記入ください）</p>	

\*支援希望教員については、ご希望に添えない場合があります。また、2年以上同じ教員は継続できませんのでご了承下さい。

以下は地域交流センター使用欄

## 三重県立看護大学地域交流センター「施設単位看護研究支援」決定通知書

ご依頼いただきました施設単位看護研究支援について、支援教員を、下記のとおり決定しましたのでお知らせします。

令和 2 年 月 日

決定事項	施設名	
	支援教員名	本学での担当： 教員名：
	支援教員連絡先	TEL： E-mail：

上記の支援教員にご連絡のうえ、日程、内容、方法等、詳細な打ち合わせを行ってください。  
ご不明な点がございましたら下記の連絡先までご連絡ください。

【連絡先】三重県立看護大学地域交流センター 担当：川瀬  
TEL/ FAX (059)233-5610 E-mail: rc@mcn.ac.jp

## 7) 令和2年度「看護研究発表会支援」のご案内

### ■ 看護研究発表会支援とは

施設等の看護研究発表会における講評・審査を担当します。県内の医療機関、行政等に勤務される皆さまからのお申込みに対し、本学教員がお伺いし支援します。

### ■ 目的

三重県内の看護職員の研究的思考の育成、向上を図ることを目的とします。

### ■ 支援対象

三重県内にある医療機関、行政等で、5題以上の研究発表がある看護研究発表会

### ■ 研究支援の方法

当日の講師の役割は看護研究発表会の発表に関する講評・審査です。

### ■ 支援料金について

- ・講師料および交通費（本学から発表会会場まで）をご負担いただきます。詳しくは下記までお問い合わせください。
- ・現地宿泊が必要となる場合は依頼者側で宿泊施設を予約ください。なお宿泊料金（素泊まり料金）は、直接宿泊施設にお支払いください。

### ■ ご留意いただきたいこと

- ・会場の手配、参加者への開催の周知は依頼者側でお願いします。  
なお、本学を会場としてお貸しすることもできます（有料）。

### ■ 申し込み方法

- ・裏面の申込用紙、または本学ホームページ「三重県立看護大学＞地域交流センター＞看護研究支援＞看護研究発表会支援」の「看護研究発表会支援」申込書をダウンロードいただき、本センターまで、E-mail、FAX、郵送のいずれかでお申し込みください。
- ・申込み締め切りは令和2年11月30日（月）です。開催希望日の60日前までにお申し込みください。

### ■ 申し込みから支援終了（料金請求）までの流れ

- ① 申込書に記載のうえ、本センターまでお申し込みください。
- ② 担当教員を決定し、本センターから決定通知書をお送りします。
- ③ 詳細については、担当教員と直接打ち合わせを行ってください（参加人数など、お申し込み内容に大きな変更があった場合は、本センターにもご連絡ください）。
- ④ 研究抄録を、開催1週間前までに担当教員にお送りください。
- ⑤ 発表会終了後に、本学より講師料と交通費を請求いたします。料金は本学指定の口座への振込によりお支払ください。（誠に恐れ入りますが振込手数料はご負担願います）。

### ■ 問い合わせ先・申し込み先

〒514-0116 三重県津市夢が丘1丁目1番地の1

三重県立看護大学 地域交流センター

TEL/FAX : 059-233-5610 E-mail : [rc@mcn.ac.jp](mailto:rc@mcn.ac.jp)

## 令和2年度 三重県立看護大学地域交流センター「看護研究発表会支援」申込書

申込書記入日 令和2年 月 日

所属機関の名称							
連絡先	所在地	〒					
	担当者氏名						
	電話		FAX		E-mail		

\*申込書にご記入いただいた個人情報につきましては、看護研究発表会支援決定通知書の送付や看護研究発表会実施に向けての打ち合わせに使用させていただくものであり、その他の用途に使用することはありません。

開催希望日時 (第1、第2)	① 令和 年 月 日 ( ) 時 分 ~ 時 分 ② 令和 年 月 日 ( ) 時 分 ~ 時 分					
発表会の名称						
開催会場名					参加予定人数	人
会場所在地					会場電話番号	
予定発表演題数	□演 ( ) 題、示説 ( ) 題				*その他希望がありましたらご記入下さい。	
ご希望される 教員名						
発表演題の分野 (各領域や質や量的 研究など) *別途資料添付可						

以下は地域交流センター使用欄

### 三重県立看護大学地域交流センター「看護研究発表会支援」決定通知書

ご依頼いただきました看護研究発表会の担当教員について、下記の通り決定しましたのでお知らせします。

令和2年 月 日

決定事項	発表会の名称					
	開催日時	令和 年 月 日 ( )	時 分 ~	時 分		
	職名・講師氏名		講師連絡先			

上記の講師にご連絡のうえ、詳細な打ち合わせを行ってください。

## 編集後記

令和2年度三重県立看護大学地域交流センター年報が完成しました。ご協力いただきました皆様に感謝いたします。

今年度は、感染予防行動をおこないながら本学全教員が地域の皆様とともに、多くの事業に取り組んでまいりました。当センターの講師派遣事業は、平成21年度に始まり12年が経過しました。おかげをもちまして、県民の皆様に本事業が周知されてまいりました。事業開始当初は「出前授業」「公開講座講師派遣」「その他の講師派遣」の3事業、平成27年度からは「出前講座」「その他の講師派遣」事業の2事業を展開しており、令和2年度からは「みかん大出前講座」「みかん大リクエスト講座」という名前に変更しました。皆様からの派遣申し込みも年々増加しており、今年度はコロナ禍ではありましたが2事業で56件実施し、教育・研究の成果を地域に還元できていると感じております。

一方「教員提案事業」では、各教員から提案された様々な事業を関係機関と協働し、地域の皆様との交流をとおして進めることができました。また、最終年度である認定看護師教育課程「認知症看護」は、毎年約30名の研修生が修了され、研修修了生は県内外で活躍されておられます。さらに看護職を対象とした「看護研究支援事業」「受託事業」など、教育支援事業も充実してきております。

これらの事業を進めるにあたり関係各位、地域の皆様に多大なご理解・ご協力いただきましたことをここにあらためて感謝申し上げます。

今年度も、各事業内容を、「教員提案事業」「卒業生支援事業」「受託事業」「認定看護師教育課程」「地域交流センター企画事業」「連携」の6事業にまとめ、資料と共に本年報に収録いたしました。

本年報を通じて、多くの皆様に当地域交流センターの活動と地域貢献について、さらなるご理解・ご協力をいただければ幸いです。

(担当：大川)

三重県立看護大学  
地域交流センター  
令和2年度  
Vol.23

---

編集・発行	三重県立看護大学地域交流センター
住 所	〒514-0116 三重県津市夢が丘1丁目1番地1
発行年月	令和3年3月

---